



平成28年度

神戸大学データ資料集

～データと資料が語る神戸大学の今の姿～

Contents



ピックアップDATA

概要

- 1.概要・ランキング … 1

教育

- 2.学生数 … 6
3.学部一般選抜志願状況 … 8
4.入学状況 -学部- … 11
5.入学状況 -研究科- … 13
6.学位授与状況 -授与率- … 15
7.進路・就職状況 … 17
8.資格試験合格状況 … 23
9.学生生活状況 … 25

研究

- 10.研究論文 … 28
11.科学研究費 … 32
12.日本学術振興会特別研究員 … 36
13.研究プログラムの採択状況 … 37
14.文化勲章受章者等一覧 … 40

産学官連携

- 15.産学官連携状況 … 41
16.国内の大学等との連携協定 … 44
17.連携大学院実施状況 … 45
18.教育関係共同利用拠点 … 46

外部資金

- 19.外部資金 … 47

国際

- 20.留学 … 52
21.海外大学との交流状況 … 55
22.研究者等交流状況 … 58
23.国際化の状況 … 59

附属病院

- 24.附属病院 … 60

附属学校

- 25.附属学校 … 63

社会貢献

- 26.公開講座等 … 64
27.学外機関への参画状況 … 65

教職員

- 28.教員 … 66
29.職員 … 69

財務

- 30.財務 … 70

学内施設

- 31.学内施設等 … 81

表紙写真：附属病院

表紙裏写真：出光佐三記念六甲台講堂

「神戸大学データ資料集～データと資料が語る神戸大学の今の姿～」は、本学の教育・研究・社会貢献等についての現状を表やグラフ等で示したものです。本ページでは、その中でも特徴的なデータをピックアップしています。

教 育

司法試験合格状況

平成28年度の司法試験の合格率は、全法科大学院中6位であり、特に**未修者の合格率**は28.6%で**1位**であった。
 (※国立大学 2位 一橋大学、3位 東京大学)

データ資料集
P23へ

公認会計士合格状況

平成27年度の本学からの**公認会計士合格者数**は28人であり、全体で7位、国立大学では4年連続**1位**であった。
 (※国立大学 2位 東京大学 23人)

データ資料集
P24へ

一級建築士合格状況

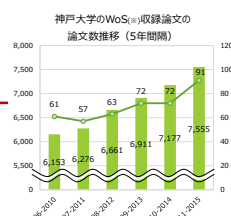
平成27年度の本学からの**一級建築士合格者数**は51人であり、全体で8位、国立大学では**1位**であった。
 (※国立大学 2位 京都大学 47人、3位 京都工芸繊維大学 46人)

データ資料集
P24へ

研 究

高被引用論文数

学術研究において影響力が特に大きい論文（高被引用論文）数は、これまで全論文の1%前後と標準的な水準であったが、**最新5年間は91本、全論文数の1.2%**へと大きく伸びている。



データ資料集
P29へ

科学研究費助成事業採択状況

平成27年度の本学の**科学研究費助成事業採択数**は、新規と継続合わせて1,102件にのぼり、**過去10年で最多**となった。また、補助金配分総額は29億648万8千円であり、国立大学間では10位であった。



データ資料集
P33へ

産学官連携

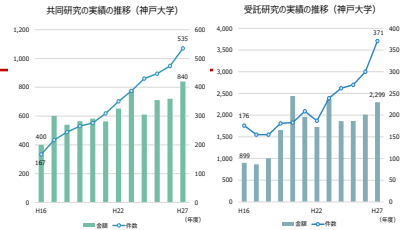
マッチングプランナープログラム採択数

JSTによるマッチングプランナーの平成27年度における本学の採択数は、「**探索試験**」の合計数が12件であり、全機関中**2位**（1位 大阪大学 採択件数13件）。平成28年度「**企業ニーズ解決試験**」は7件、**5位**であった。

データ資料集
P42へ

共同研究・受託研究の状況（件数）

平成27年度の**共同研究**、**受託研究の件数**はそれぞれ535件、371件とどちらも統計を開始した平成16年度以降**過去最多**となった。特に平成27年度の**受託研究の件数**は、前年度比**約24%増**と飛躍的に増加した。

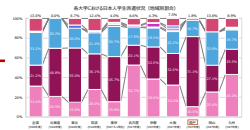


データ資料集
P41へ

国際

日本人学生の海外派遣状況

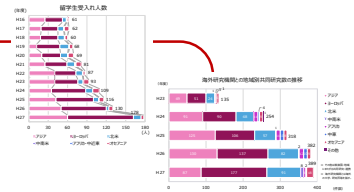
本学は、EUの中心地であるブリュッセルにオフィスを構え、ヨーロッパ諸国との国際連携活動を展開しており、他大学と比して、**ヨーロッパへの学生派遣比率(71.1%)**が高い特徴がある。



データ資料集
P54へ

大学間学術交流協定に基づく留学生受入れ状況・海外研究機関との共同研究数

協定に基づく留学生の受入れでは、近年**ヨーロッパからの留学生の増加**が目立つとともに、**海外との共同研究**においても、**ヨーロッパ地域で増加**しており、平成27年度には全体の半分近くを占めている。

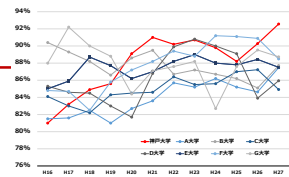


データ資料集
P55 & 57へ

附属病院

病床稼働率

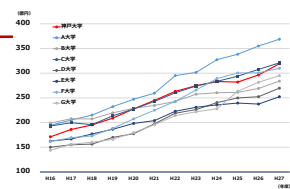
平成27年度の本学の**病床稼働率**は92.5%であり、全国国立大学附属病院において**1位**であった。



データ資料集
P61へ

診療報酬請求額の推移

平成27年度において平成26年度からの**診療報酬請求額の増加額**は全国国立大学附属病院において**2位**であり、また、**伸び率**は**3位**であった。



データ資料集
P62へ

1. 概要・ランキング

1-1 神戸大学の概要

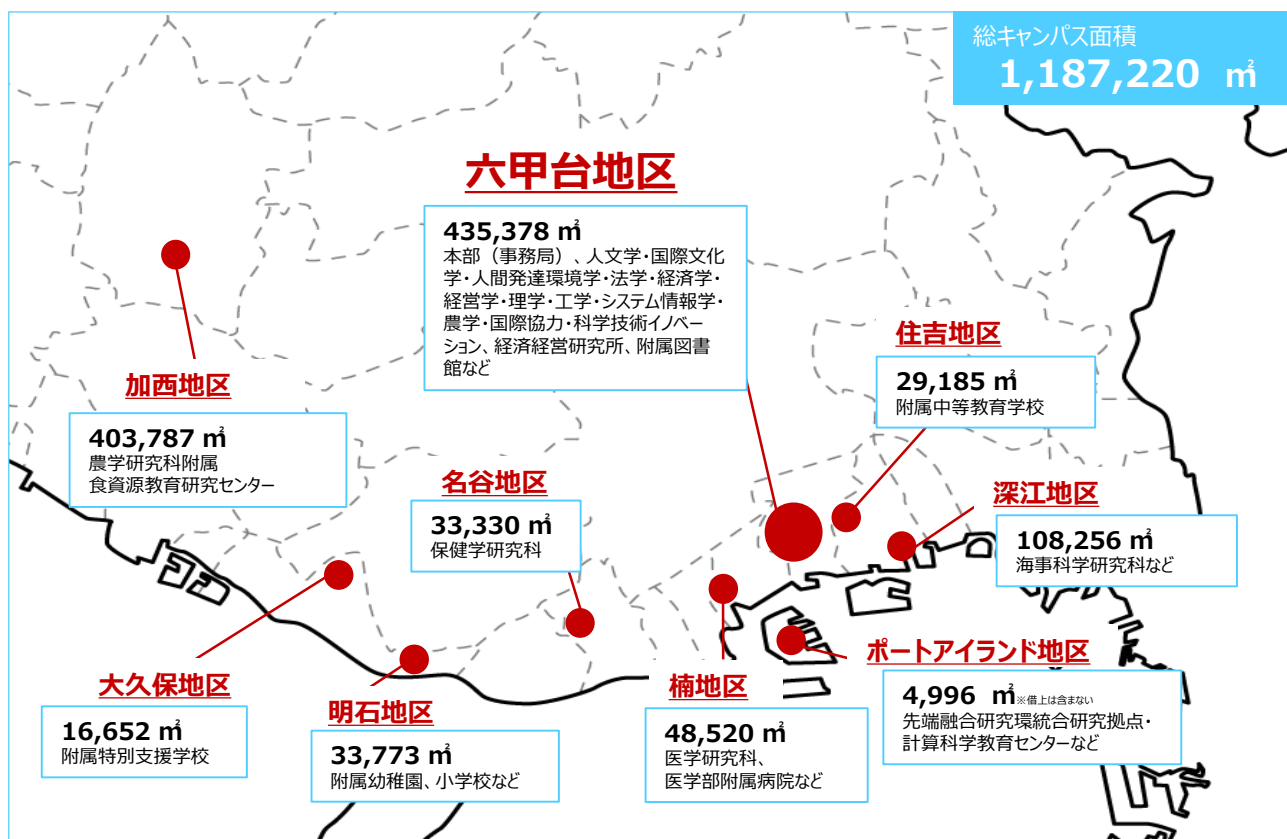
平成28年5月1日現在

区 分		入学定員	入学者数	総定員	在籍者数		
学生等数	学部	2,697	2,780	10,714	11,698	(4,101)	
	大学院	修士・博士前期課程	1,233	1,212	2,462	2,730	(981)
		博士・博士後期課程	377	300	1,209	1,601	(544)
		専門職学位課程	149	144	378	327	(72)
	合計	4,456	4,436	14,763	16,356	(5,698)	
	外国人留学生数	学部生 (内数)	大学院生 (内数)	研究生等	計		
	103	801	292	1,196	(659)		
附属学校	学級数		在籍者数 (注1)				
	53		1,550 [97]				
区 分		教員数 (注2)	附属学校教諭 (注3)	その他職員数	計		
教職員数		1,630	120	1,923	3,673		
	(女性教職員数)	(273)	(56)	(1,221)	(1,550)		
	女性比率	16.7%	46.7%	63.5%	42.2%		
予算規模	平成28年度 約692億円 (うち運営費交付金 約206億円)						

※ () 内は女子を内数で表す。

注1：在籍者数の[]は、帰国子女数を内数で示す。注2：役員及び特別顧問を含む。注3：特命職員を含む。

1-2 主要キャンパス



学外オフィス等 【国内】 神戸大学東京オフィス、神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ (大阪)
【海外】 神戸大学中国事務所 (北京)、神戸大学ブリュッセルオフィス

学部数

順位	大学名	学部数
1	北海道大学	12
2	神戸大学	11
	大阪大学	
	岡山大学	
	広島大学	
	九州大学	
7	東北大学	10
	千葉大学	
	東京大学	
	京都大学	
11	筑波大学	9
	新潟大学	
	名古屋大学	
	山口大学	
	長崎大学	
	鹿児島大学	

(2016)

学部入学定員 (1年次)

順位	大学名	入学定員
1	大阪大学	3,255
2	東京大学	3,063
3	京都大学	2,866
4	九州大学	2,555
5	神戸大学	2,547
6	北海道大学	2,485
7	東北大学	2,396
8	広島大学	2,338
9	千葉大学	2,322
10	新潟大学	2,247
11	岡山大学	2,198
12	名古屋大学	2,107
13	筑波大学	2,102

(2016)

学部 (1年次)・大学院入学定員

順位	大学名	入学定員
1	東京大学	7,988
2	京都大学	6,571
3	大阪大学	6,286
4	九州大学	5,218
5	東北大学	5,103
6	北海道大学	4,840
7	筑波大学	4,498
8	名古屋大学	4,412
9	神戸大学	4,306
10	広島大学	3,880
11	千葉大学	3,569

(2016)

大学院数

順位	大学名	大学院数
1	京都大学	18
	九州大学	
	北海道大学	
4	大阪大学	16
	東北大学	
6	神戸大学	15
	東京大学	
8	名古屋大学	14
9	広島大学	11
10	千葉大学	9
	鹿児島大学	
12	筑波大学	8
	山口大学	

(2016)

大学院入学定員

順位	大学名	入学定員	入学定員 (M)	入学定員 (D)	入学定員 (P)
1	東京大学	4,925	2,843	1,697	385
2	京都大学	3,705	2,261	1,130	314
3	大阪大学	3,031	2,009	942	80
4	東北大学	2,707	1,775	812	120
5	九州大学	2,663	1,738	785	140
6	筑波大学	2,396	1,651	679	66
7	北海道大学	2,355	1,575	680	100
8	名古屋大学	2,305	1,525	730	50
9	東京工業大学	2,151	1,544	567	40
10	神戸大学	1,759	1,233	377	149
11	広島大学	1,542	1,012	490	40
12	千葉大学	1,247	916	271	60
13	岡山大学	1,131	810	271	50

(2016)

教員 (常勤)

順位	大学名	教員数
1	東京大学	2,463
2	大阪大学	2,005
3	京都大学	1,958
4	東北大学	1,804
5	九州大学	1,584
6	筑波大学	1,498
7	北海道大学	1,481
8	名古屋大学	1,252
9	広島大学	1,189
10	神戸大学	1,170
11	岡山大学	984

※教授・准教授・講師のみの値。(2015)

事務職員 (常勤)

順位	大学名	職員数
1	東京大学	1,526
2	京都大学	1,452
3	大阪大学	1,286
4	北海道大学	1,127
5	東北大学	1,112
6	九州大学	1,061
7	東京工業大学	957
8	岡山大学	785
9	筑波大学	730
10	名古屋大学	704
11	神戸大学	605

(2015)

運営費交付金

順位	大学名	金額 (百万円)
1	東京大学	80,456
2	京都大学	54,831
3	東北大学	45,603
4	大阪大学	43,679
5	九州大学	41,665
6	筑波大学	40,654
7	北海道大学	36,226
8	名古屋大学	31,622
9	広島大学	24,888
10	東京工業大学	21,355
11	神戸大学	20,562

※未満は切り捨て。(2016)

出典 1. 学部・大学院数、入学定員については、「全国大学一覧 (平成28年度)」により確認した。
 2. 教職員数については、朝日新聞出版「大学ランキング2017年版」により確認した。
 3. 運営費交付金については、「平成27年度 国立大学法人運営費交付金 予定額」により確認した。

教員一人当たりの学生数(大規模13大学間)

順位	大学名	人
1	東北大学	6.5
2	筑波大学	7.2
3	東京大学	9.5
4	大阪大学	9.6
5	名古屋大学	9.8
6	北海道大学	9.9
7	広島大学	11.1
8	京都大学	11.7
9	九州大学	12.1
10	神戸大学	12.5
11	岡山大学	13.5
12	千葉大学	14.3
13	新潟大学	14.8

※少ない順

(2015)

入学率(大規模13大学間)

順位	大学名	%
1	京都大学	99.52%
2	東京大学	98.27%
3	名古屋大学	97.42%
4	大阪大学	96.93%
5	東北大学	96.36%
6	九州大学	95.55%
7	神戸大学	95.45%
8	岡山大学	95.13%
9	北海道大学	94.94%
10	筑波大学	94.22%
11	広島大学	93.80%
12	新潟大学	92.39%
13	千葉大学	91.43%

(2015)

退学率(大規模13大学間)

順位	大学名	%
1	新潟大学	0.7%
2	東京大学	0.8%
	京都大学	
4	名古屋大学	0.9%
5	北海道大学	1.0%
	千葉大学	
	岡山大学	
	広島大学	
9	神戸大学	1.1%
	東北大学	
	大阪大学	
	九州大学	
13	筑波大学	1.2%

(2015)

女性教員数

順位	大学名	人
1	筑波大学	235
2	大阪大学	223
3	東京大学	221
4	京都大学	157
5	九州大学	156
6	名古屋大学	148
7	広島大学	144
8	千葉大学	142
	東北大学	
10	神戸大学	140
11	北海道大学	131
12	岡山大学	120
13	金沢大学	107
	長崎大学	

※常勤の教授・准教授・講師の合計

(2015)

外国人教員数

順位	大学名	人
1	大阪大学	98
2	東北大学	80
3	東京大学	79
4	九州大学	78
5	筑波大学	71
6	京都大学	68
7	広島大学	51
8	神戸大学	48
9	東京外国語大学	41
10	岡山大学	36
11	北海道大学	35
12	山口大学	34
13	静岡大学	32
	長崎大学	

※常勤の教授・准教授・講師の合計

(2015)

図書館蔵書冊数

順位	大学名	冊
1	東京大学	9,450,809
2	京都大学	6,861,027
3	九州大学	4,250,929
4	東北大学	4,059,510
5	大阪大学	3,965,993
6	北海道大学	3,882,325
7	神戸大学	3,743,852
8	広島大学	3,463,859
9	名古屋大学	3,272,188
10	一橋大学	2,669,742
11	筑波大学	2,618,294
12	岡山大学	2,113,918

(2015)

企業の人事担当者から見た
大学のイメージ調査総合ランキング

順位	大学名	全体順位
1	長岡技術科学大学	1
2	東京大学	2
3	名古屋大学	3
4	東京海洋大学	4
5	金沢大学	6
6	東北大学	8
7	名古屋工業大学	9
8	京都大学	10
9	大阪大学	12
10	神戸大学	13
11	埼玉大学	14
	千葉大学	
13	京都工芸繊維大学	17

(2016)

志願度(関西エリア)

順位	大学名	志願度(%)
1	関西大学	14.0%
2	近畿大学	12.5%
3	神戸大学	8.8%
4	同志社大学	8.6%
5	大阪市立大学	8.2%
6	関西学院大学	8.0%
7	大阪大学	7.0%
8	立命館大学	6.9%
9	龍谷大学	6.1%
10	関西外国語大学	4.3%
11	京都大学	3.9%
	大阪府立大学	
13	甲南大学	3.3%

※公私立大学を含む

(2016)

※学部入学定員の上位13大学を「大規模13大学」と定義する。(以下同じ)

出典:

1. 教員一人当たりの学生数、入学率、退学率、図書館蔵書冊数、女性教員数、外国人教員数については朝日新聞出版「大学ランキング2017年版」により確認した。

2. 「企業の人事担当者から見た大学イメージ調査総合ランキング」については日経HR「価値ある大学2017年版 就職力ランキング」により確認した。

3. 志願度(関西エリア)については、リクルート進学総研「進学ブランド力調査2016」により確認した。

※2017年3月卒業の高校生対象(関西エリアの回答実数は2,710名)

科学研究費補助金

順位	大学名	配分総額 (千円)	教員一人あたり (千円)
1	東京大学	21,612,981	8,775
2	京都大学	13,961,610	7,131
3	大阪大学	11,099,332	5,536
4	東北大学	9,791,119	5,427
5	名古屋大学	7,525,440	6,011
6	九州大学	6,902,610	4,358
7	北海道大学	5,518,110	3,726
8	東京工業大学	4,702,750	6,381
9	筑波大学	3,706,170	2,474
10	神戸大学	2,906,488	2,484
11	広島大学	2,687,945	2,261
12	千葉大学	2,109,640	2,488
13	岡山大学	2,061,540	2,095

(2015)

外部資金総額

順位	大学名	総額 (千円)	教員一人あたり (千円)
1	東京大学	49,138,570	19,950
2	京都大学	33,200,630	16,956
3	大阪大学	23,435,656	11,688
4	東北大学	18,510,765	10,260
5	名古屋大学	13,004,416	10,386
6	九州大学	11,791,106	7,443
7	東京工業大学	8,498,690	11,531
8	北海道大学	7,732,627	5,221
9	筑波大学	5,374,627	3,587
10	神戸大学	5,336,433	4,561
11	東京医科歯科大学	4,612,034	11,646
12	広島大学	4,192,373	3,525
13	千葉大学	3,562,451	4,201

※奨学寄附金、受託研究費、共同研究費の計。千円未満切り捨て。(2015)

共同研究 (民間企業)

順位	大学名	研究費受入額 (千円)
1	東京大学	4,840,830
2	京都大学	4,792,490
3	大阪大学	3,215,597
4	東北大学	2,743,606
5	九州大学	1,901,041
6	名古屋大学	1,431,172
7	東京工業大学	1,409,436
8	北海道大学	994,079
9	神戸大学	581,319
10	山形大学	571,328
11	名古屋工業大学	524,376
12	筑波大学	483,879
13	千葉大学	473,884

(2014)

受託研究 (民間企業)

順位	大学名	研究費受入額 (千円)
1	大阪大学	445,968
2	京都大学	414,506
4	東京大学	380,362
3	九州大学	359,056
5	山形大学	193,029
6	東京工業大学	188,832
7	神戸大学	174,111
8	名古屋大学	168,219
9	徳島大学	148,853
10	浜松医科大学	122,664
11	信州大学	118,142
12	岐阜大学	110,915
13	琉球大学	105,782

(2014)

学術論文 (量) (大規模13大学間)

順位	大学名	総論文数
1	東京大学	41,144
2	京都大学	30,349
3	大阪大学	23,405
4	東北大学	23,028
5	九州大学	16,622
6	名古屋大学	16,433
7	北海道大学	15,869
8	筑波大学	10,511
9	広島大学	8,710
10	神戸大学	7,862
11	岡山大学	7,392
12	千葉大学	6,995
13	新潟大学	4,546

(2011-2015)

学術論文 (質) (大規模13大学間)

順位	大学名	相対被引用 インパクト	総被引用数
1	東京大学	2.329	402,726
2	大阪大学	2.052	201,793
3	名古屋大学	2.050	141,534
4	京都大学	2.030	258,938
5	岡山大学	2.005	62,281
6	筑波大学	1.963	86,686
7	広島大学	1.896	69,396
8	東北大学	1.860	180,028
9	神戸大学	1.770	58,469
10	九州大学	1.720	120,129
11	千葉大学	1.651	48,545
12	北海道大学	1.632	108,862
13	新潟大学	1.520	29,043

※小数点第四位以下切り捨て

(2011-2015)

出典

1. 科学研究費補助金、外部資金については、朝日新聞出版「大学ランキング2017年版」により確認した。
2. 共同研究 (民間企業)、受託研究 (民間企業) については文部科学省「平成26年度大学等における産学連携等実施状況」により確認した。
3. 学術論文 (量) については、Thomson Reuters社のデータベース「InCites™」にて確認した。(2016.9.7時点)
なお、数値は2011年から2015年までの累計を記している。
4. 学術論文 (質) については、Thomson Reuters社のデータベース「InCites™」にて確認した。(2016.9.7時点)
なお、定義は下記の通りである。
(被引用インパクト=被引用数÷論文数)
「(世界全体の) 相対被引用インパクト」
→各大学の「Impact Relative to World」の数値を記載している。
A大学の世界における平均被引用数を、世界全体での平均被引用数で割ったもの。

世界大学ランキング

①QS社・世界大学ランキング

順位	大学名	世界順位
1	東京大学	34
2	京都大学	37
3	東京工業大学	56
4	大阪大学	63
5	東北大学	75
6	名古屋大学	115
7	北海道大学	130
8	九州大学	135
9	早稲田大学	201
10	慶應義塾大学	216
11	筑波大学	225
12	広島大学	297
13	東京医科歯科大学	329
14	神戸大学	369

(2016/2017)

②QS社・アジア大学ランキング

順位	大学名	アジア順位
1	東京大学	13
2	東京工業大学	14
3	京都大学	15
4	大阪大学	17
5	東北大学	20
6	名古屋大学	26
7	北海道大学	28
8	九州大学	32
9	筑波大学	34
10	早稲田大学	41
11	慶應義塾大学	42
12	神戸大学	65
13	広島大学	79
14	一橋大学	88
15	東京医科歯科大学	91

(2016)

③THE誌・世界大学ランキング

順位	大学名	世界順位
1	東京大学	39
2	京都大学	91
3	東北大学	201-250
4	大阪大学 東京工業大学	251-300
6	名古屋大学	301-350
7	九州大学 豊田工業大学	351-400
9	北海道大学 東京医科歯科大学 首都大学東京 筑波大学	401-500
13	広島大学	501-600
14	神戸大学 他24大学	601-800

(2016-2017)

④THE誌・アジア大学ランキング

順位	大学名	アジア順位
1	東京大学	7
2	京都大学	11
3	東北大学	23
4	東京工業大学	24
5	大阪大学	30
6	名古屋大学	34
7	筑波大学	46
8	九州大学	48
9	北海道大学	49
10	首都大学東京	52
11	東京医科歯科大学	59
12	広島大学	73
13	東京農工大学	97
14	大阪市立大学	99
15	千葉大学 金沢大学	101-110
17	神戸大学 順天堂大学 慶應義塾大学 横浜市立大学	111-120

(2016)

⑤上海交通大学・世界大学学術ランキング

順位	大学名	世界順位
1	東京大学	20
2	京都大学	32
3	名古屋大学	72
4	大阪大学	96
5	東北大学	101-150
6	北海道大学	151-200
7	筑波大学 東京工業大学 九州大学	201-300
10	千葉大学 慶應義塾大学 岡山大学	301-400
13	神戸大学 東京理科大学 早稲田大学 大阪市立大学	401-500

(2016)

国際共著論文 (大規模13大学間)

順位	大学名	国際共著論文数 (本)	比率 (%)
1	東京大学	13,964	33.94%
2	京都大学	9,452	31.14%
3	東北大学	7,520	32.66%
4	大阪大学	6,719	28.71%
5	名古屋大学	5,059	30.79%
6	九州大学	4,663	28.05%
7	北海道大学	4,424	27.88%
8	筑波大学	3,399	32.34%
9	広島大学	2,454	28.17%
10	岡山大学	2,349	31.78%
11	神戸大学	2,113	26.88%
12	千葉大学	1,868	26.70%
13	新潟大学	1,289	28.35%

(2011-2015)

外国人留学生数 (国立大学間)

順位	大学名	人数 (人)
1	東京大学	2,798
2	大阪大学	2,012
3	九州大学	1,972
4	筑波大学	1,889
5	京都大学	1,725
6	名古屋大学	1,668
7	東北大学	1,532
8	北海道大学	1,456
9	東京工業大学	1,224
10	神戸大学	1,096
11	広島大学	1,059
12	横浜国立大学	843
13	千葉大学	819

※在留資格「留学」の学生

(2014)

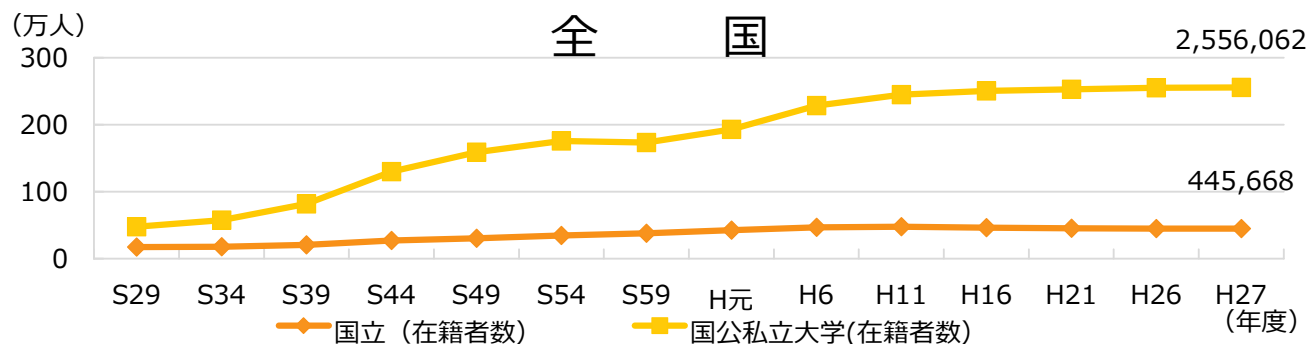
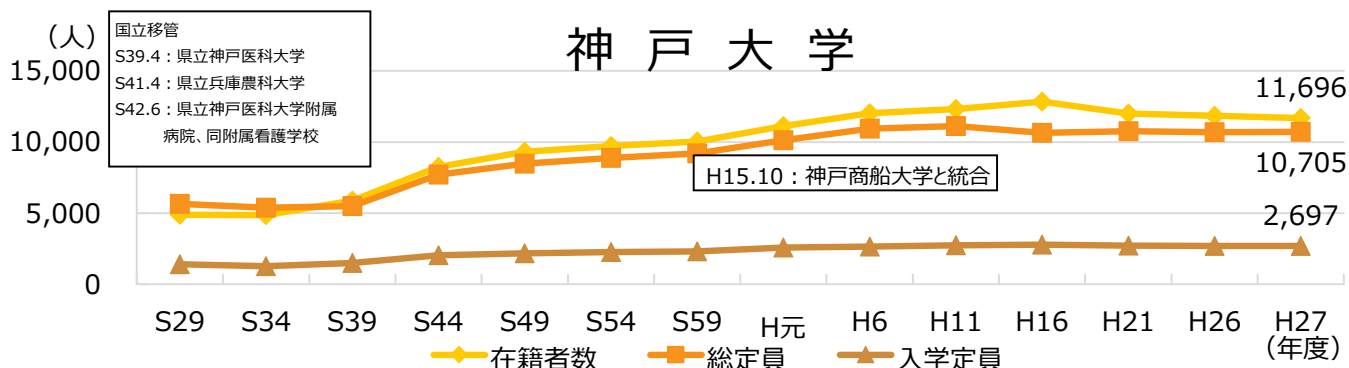
【出典】

- 世界大学ランキングについては、各発表機関ウェブサイトにて確認した。
なお、「-」についてはその順位グループに属していることを示している（例：「201-300」は、201位から300位のグループ）。
- 国際共著論文については、Thomson Reuters社のデータベース「InCites™」にて確認した。
なお、国際共著論文数の数値は2011年から2015年までの累計を記している。
- 外国人留学生数については、朝日新聞出版「大学ランキング2017年版」により確認した。

2. 学生数

2-1 学生数の推移 - 学士課程 -

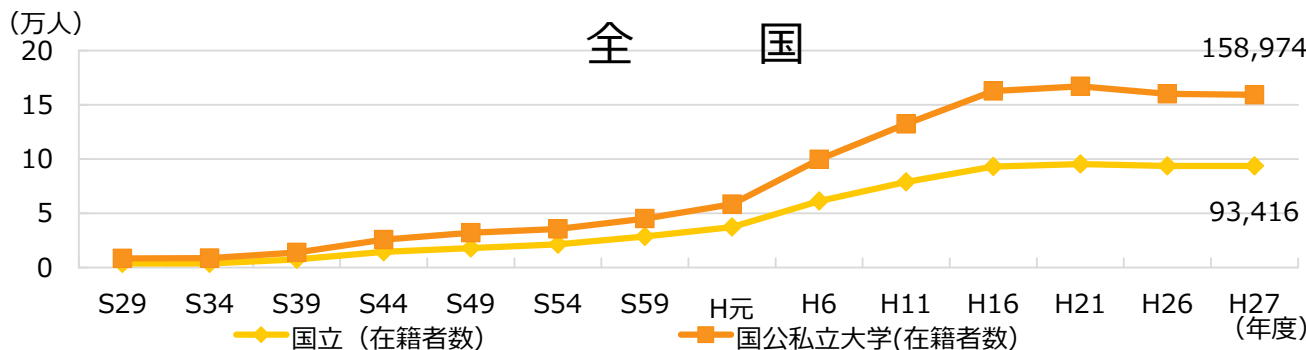
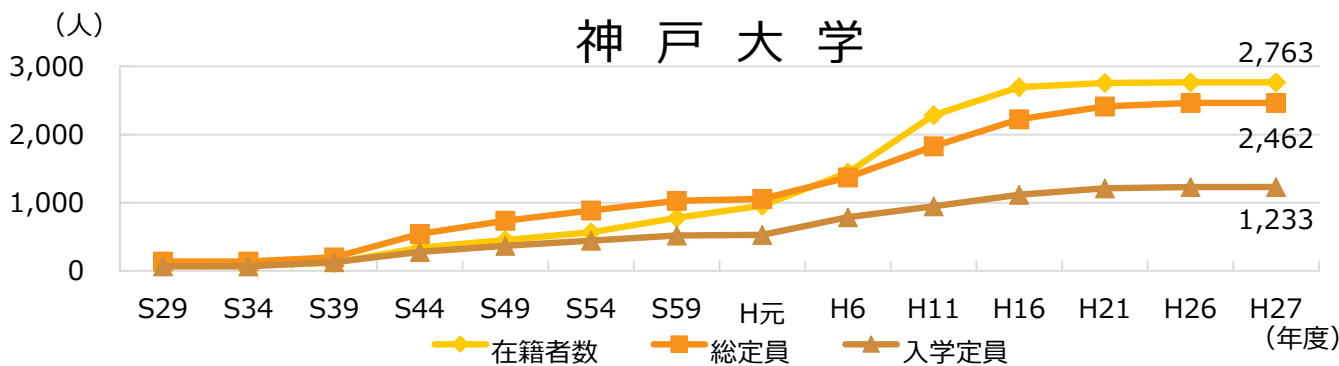
各年度5月1日現在



※出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査より作成

2-2 学生数の推移 - 修士・博士前期課程 -

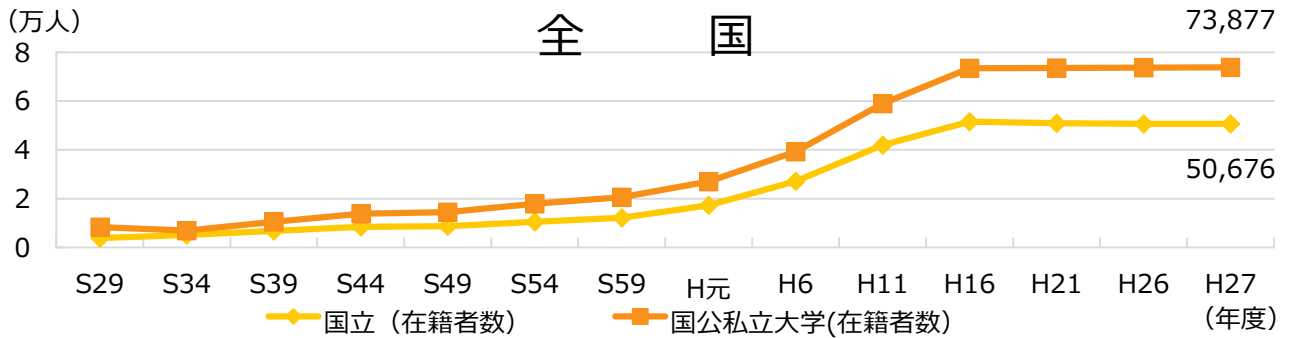
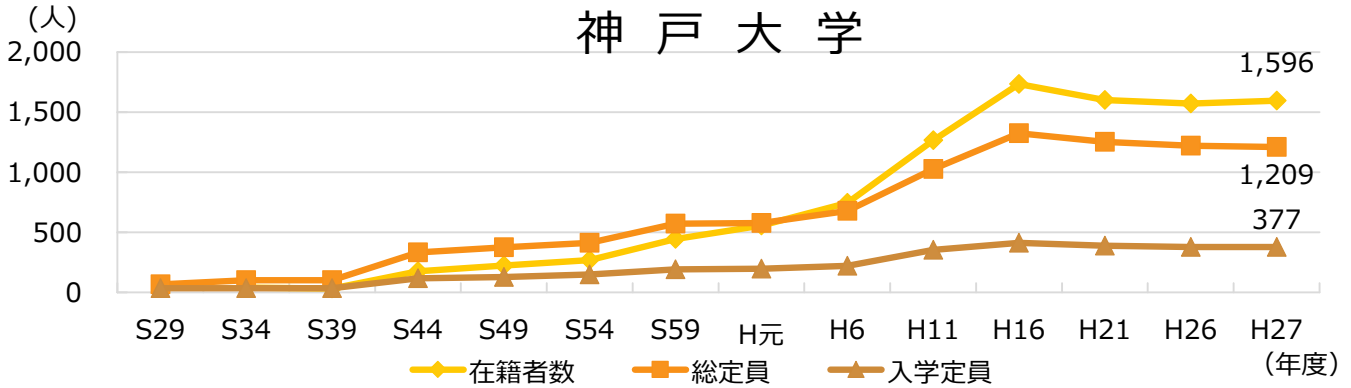
各年度5月1日現在



※出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査より作成

2-3 学生数の推移 - 博士・博士後期課程 -

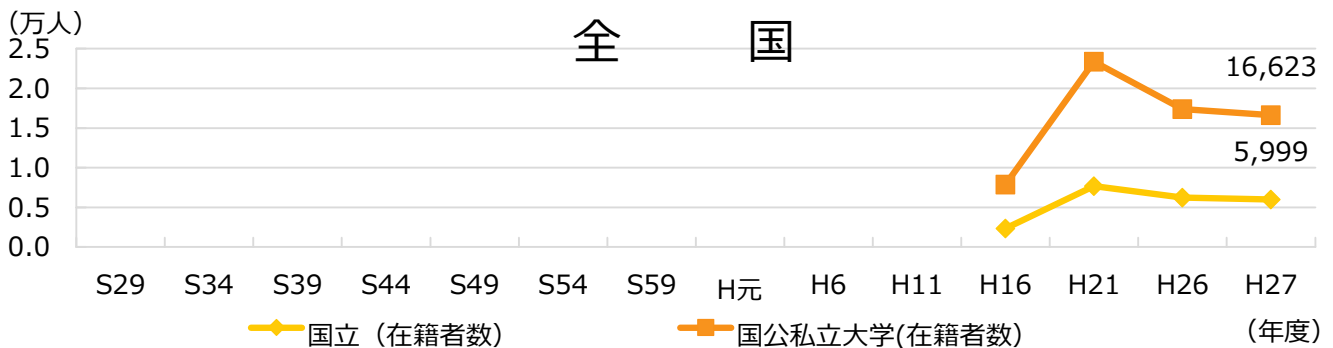
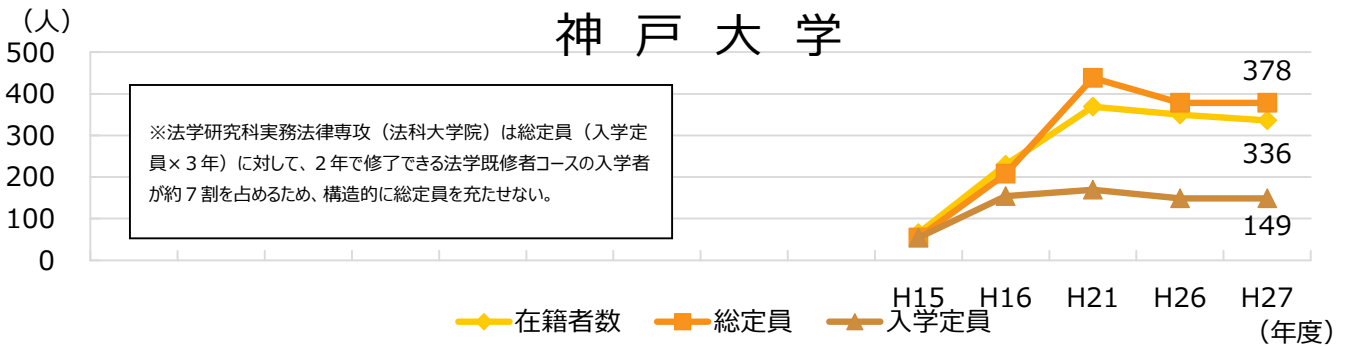
各年度5月1日現在



※出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査より作成

2-4 学生数の推移 - 専門職学位課程 -

各年度5月1日現在

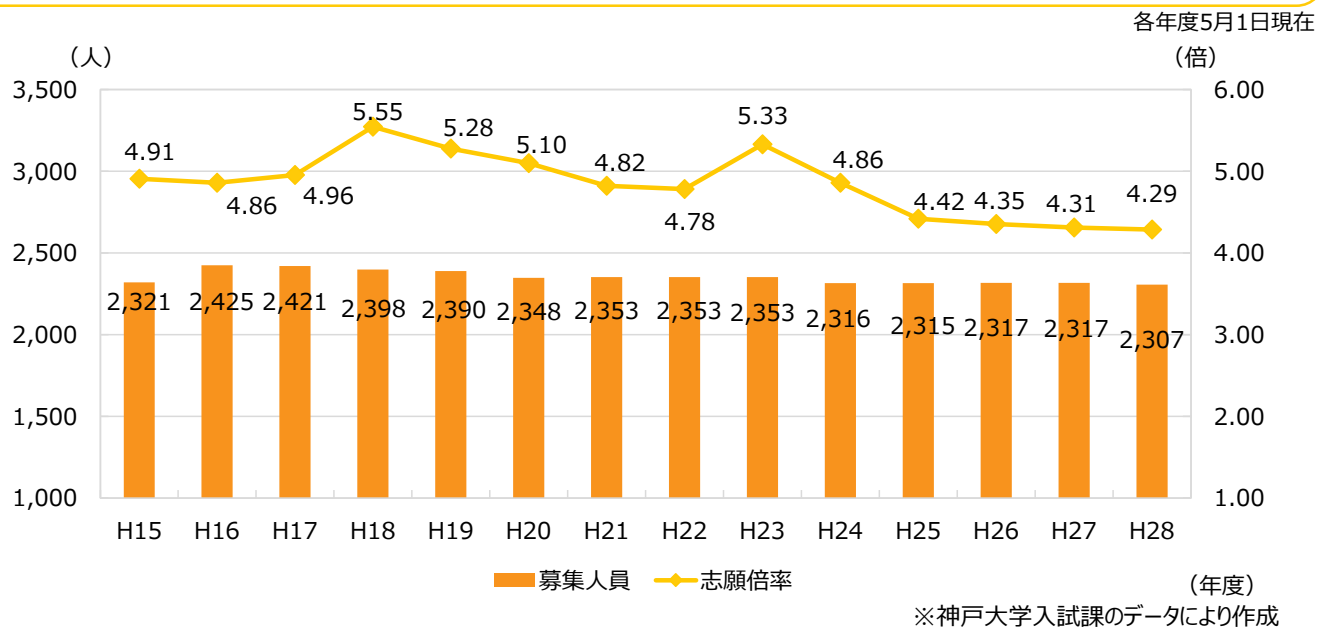


※出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査より作成

3. 学部一般選抜志願状況

3-1 学部一般選抜志願状況（推移）

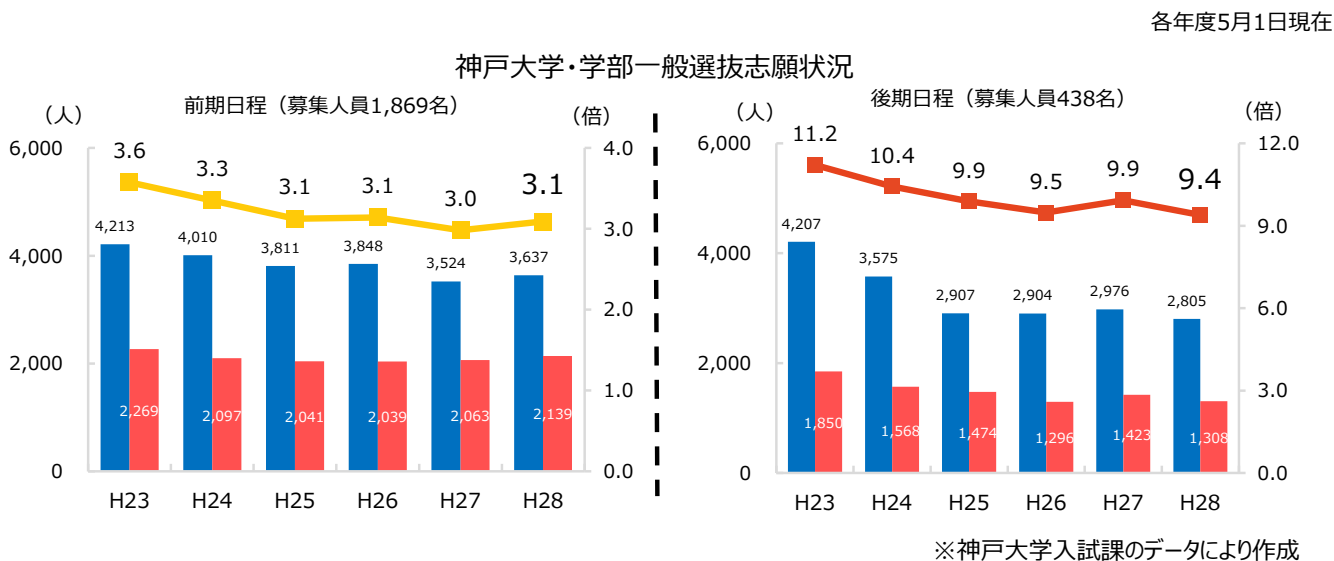
- 国立大学法人化（平成16年度）以降、神戸大学の学部一般選抜（一般入試）の志願倍率は、**4.3~5.6倍**前後で推移している。
- 平成28年度入試においては、2,307名の募集人員に対し9,889名の受験生が志願し、志願倍率は**4.29倍**であり、平成15年度以降最も低い。なお、全国的にも大学志願者は減少傾向にある。（3-3参照）



3-2 学部一般選抜志願状況（日程別・男女別推移）

- 前期・後期および男女別の志願者数推移は以下のとおりである。前期日程は**3倍**程度、後期日程は**10倍**前後の志願倍率を推移しており、安定して志願者を確保している。
- 志願者の男女比については、年度によってやや差があるものの、概して2対1の割合で推移している。

■ = 男子志願者数 ■ = 女子志願者数 ■ = 前期志願倍率 ■ = 後期志願倍率

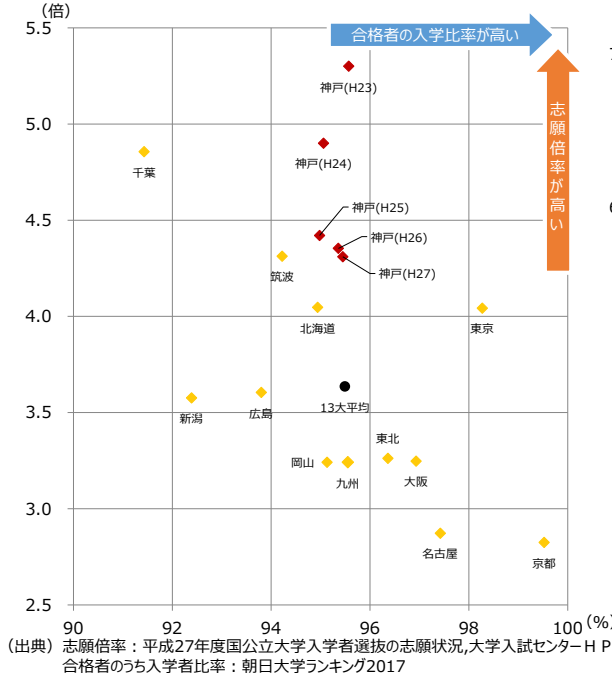


(注) 日程ごとの募集人員についてはH28の数値である。各年度の募集人員は以下のとおり。

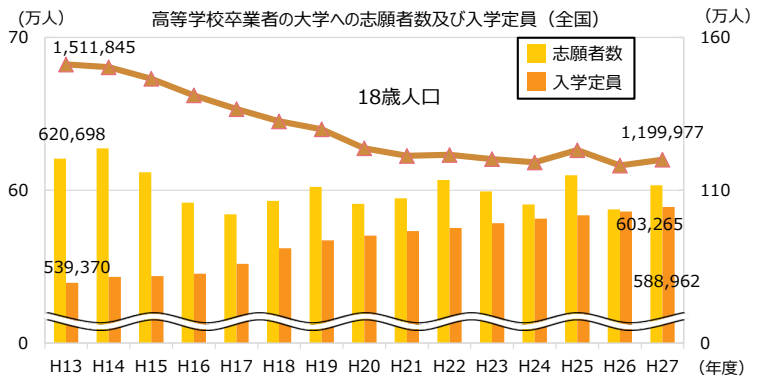
H22 (前) 1,809名 (後) 544名 H25 (前) 1,872名 (後) 443名
 H23 (前) 1,813名 (後) 540名 H26-27 (前) 1,874名 (後) 443名
 H24 (前) 1,823名 (後) 493名

3-3 全国の大学への志願状況及び入学定員

◆大規模13大学の状況（平成27年度入試）



◆全国の大学志願者数および入学定員（推移）



	H13	H27	増減 (%)
大学入学定員	539,370	588,962	9.2%
入学定員 (国立)	97,337	96,277	-1.1%
入学定員 (公立)	22,289	28,843	29.4%
入学定員 (私立)	419,744	463,842	10.5%

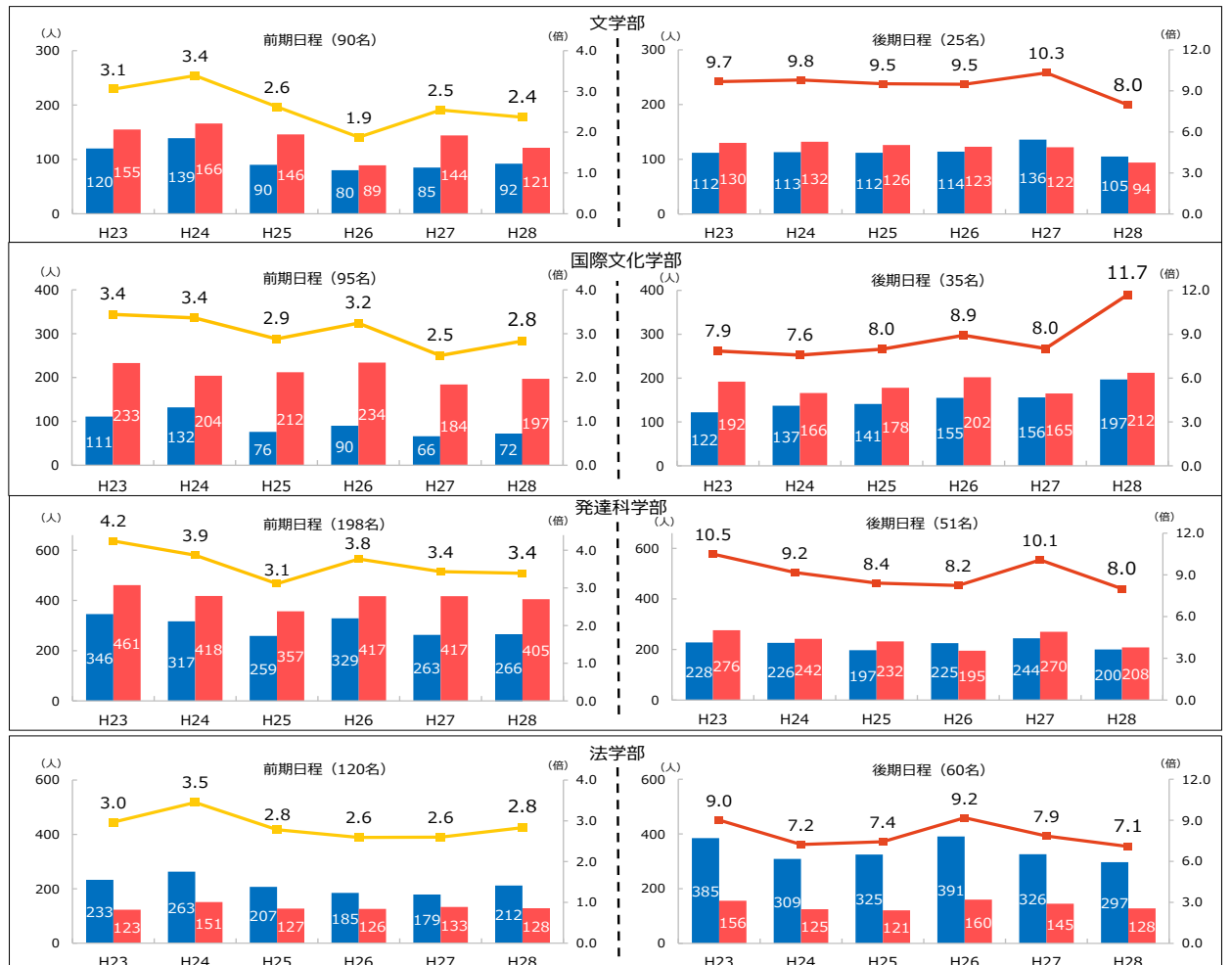
※18歳人口：3年前の中学校卒業者及び中学校前期課程修了者より推定
(出典) 志願者数：学校基本調査 入学定員：全国大学一覧

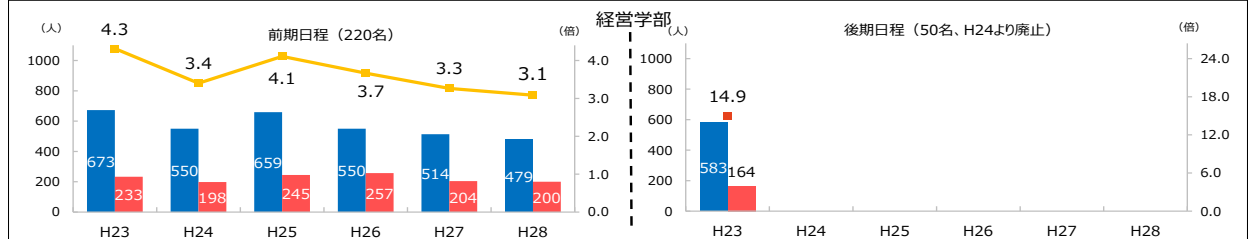
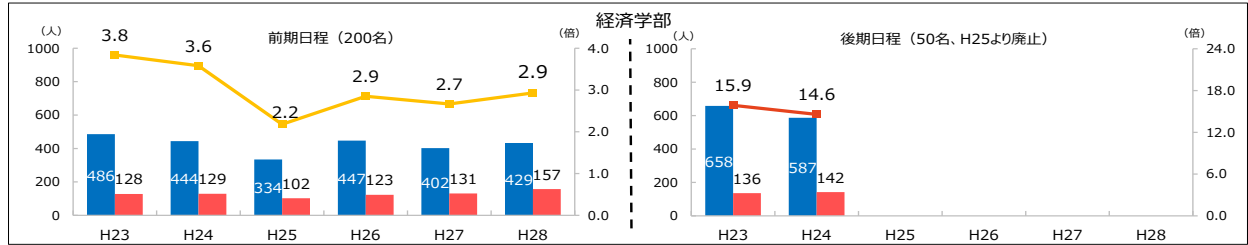
3-4 学部ごとの一般選抜志願状況（日程別・男女別推移）

- 学部ごとの一般選抜状況は以下のとおりである。文学部、国際文化学部及び発達科学部では女子受験生からの人気が高。
- これら文科系学部は、語学教育やE U圏大学への留学を伴うプログラムなど、グローバル人材の育成に重点を置いた教育に力を入れている。

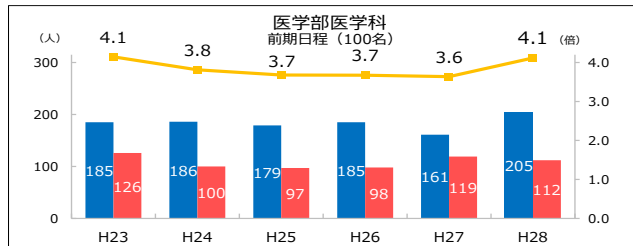
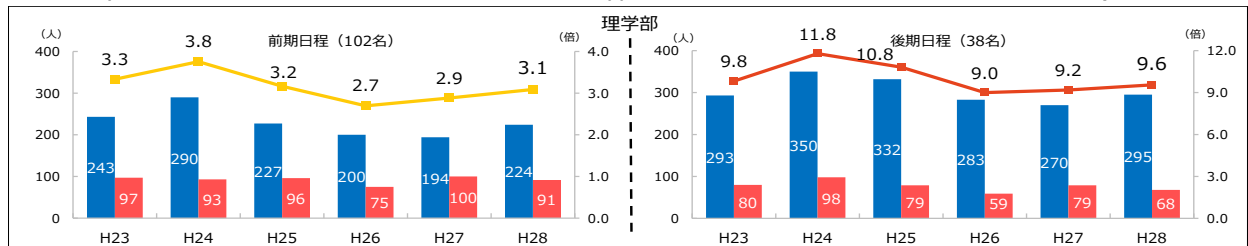
■ = 男子志願者数 ■ = 女子志願者数 ■ = 前期志願倍率 ■ = 後期志願倍率

◆文科系学部（文学部、国際文化学部、発達科学部、法学部、経済学部、経営学部） 各年度5月1日現在





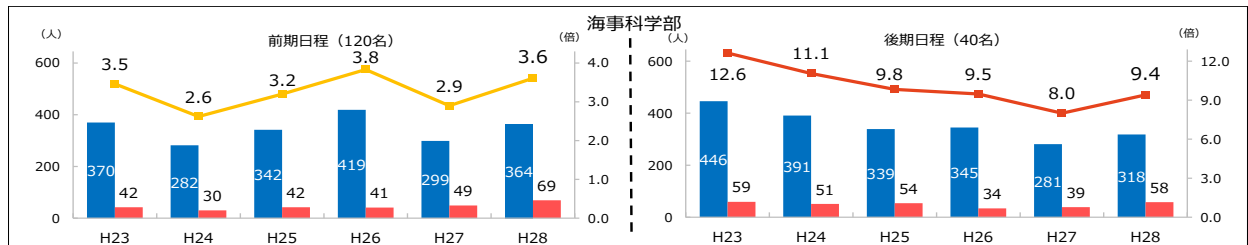
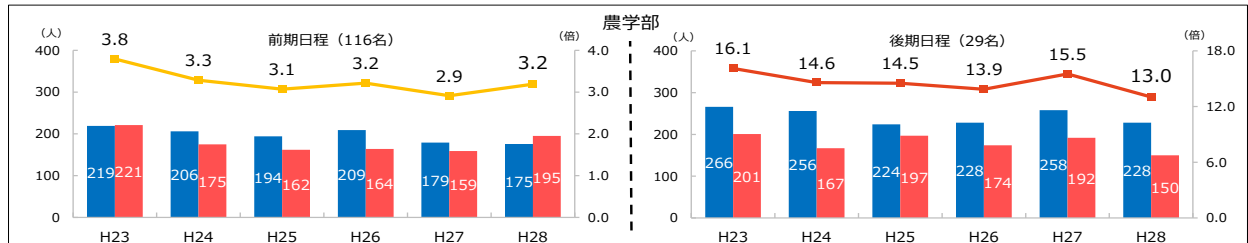
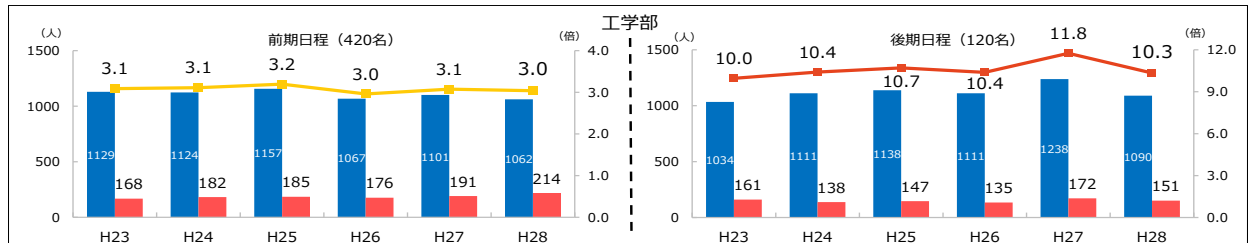
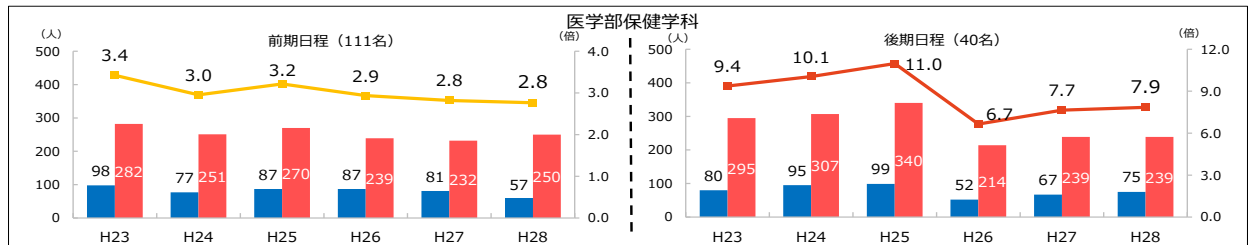
◆理科系学部 (理学部、医学部医学科、医学部保健学科、工学部、農学部、海事科学部)



※医学部医学科は後期日程入試を実施していない。

(注) 日程ごとの募集定員についてはH28の数値である。
記載と異なる年度の各学部の募集定員は以下のとおり。

- 国際文化学部 (前) H23-H27:100名 (後) H23-H27:40名
- 発達科学部 (前) H23-H24:190名 (後) H23:48名
- 経済学部 (前) H23-H24:160名
- 経営学部 (前) H23:210名
- 医学部医学科 (前) H23-H25:75名
- 海事科学部 (前) H23-H24:119名

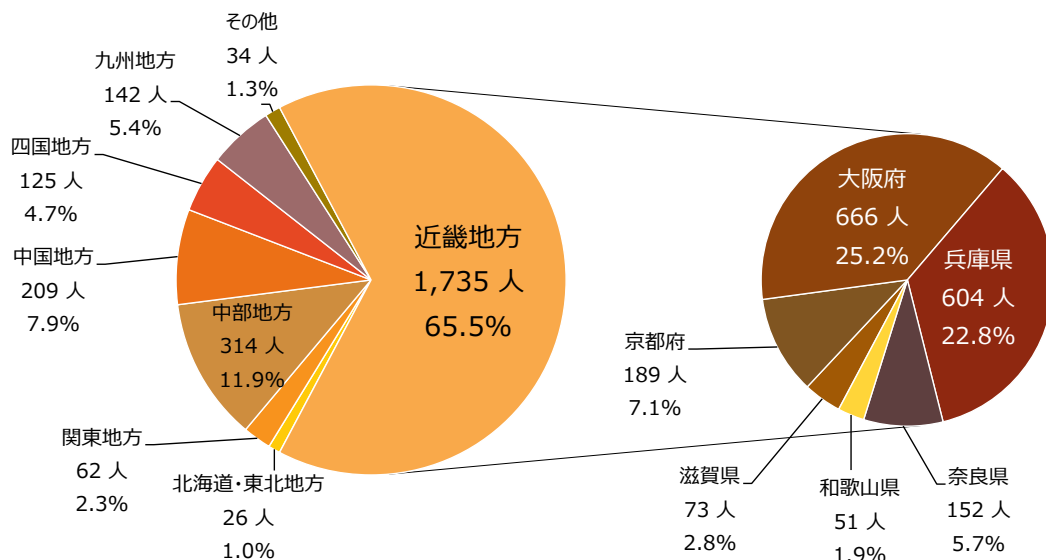


4. 入学状況 - 学部 -

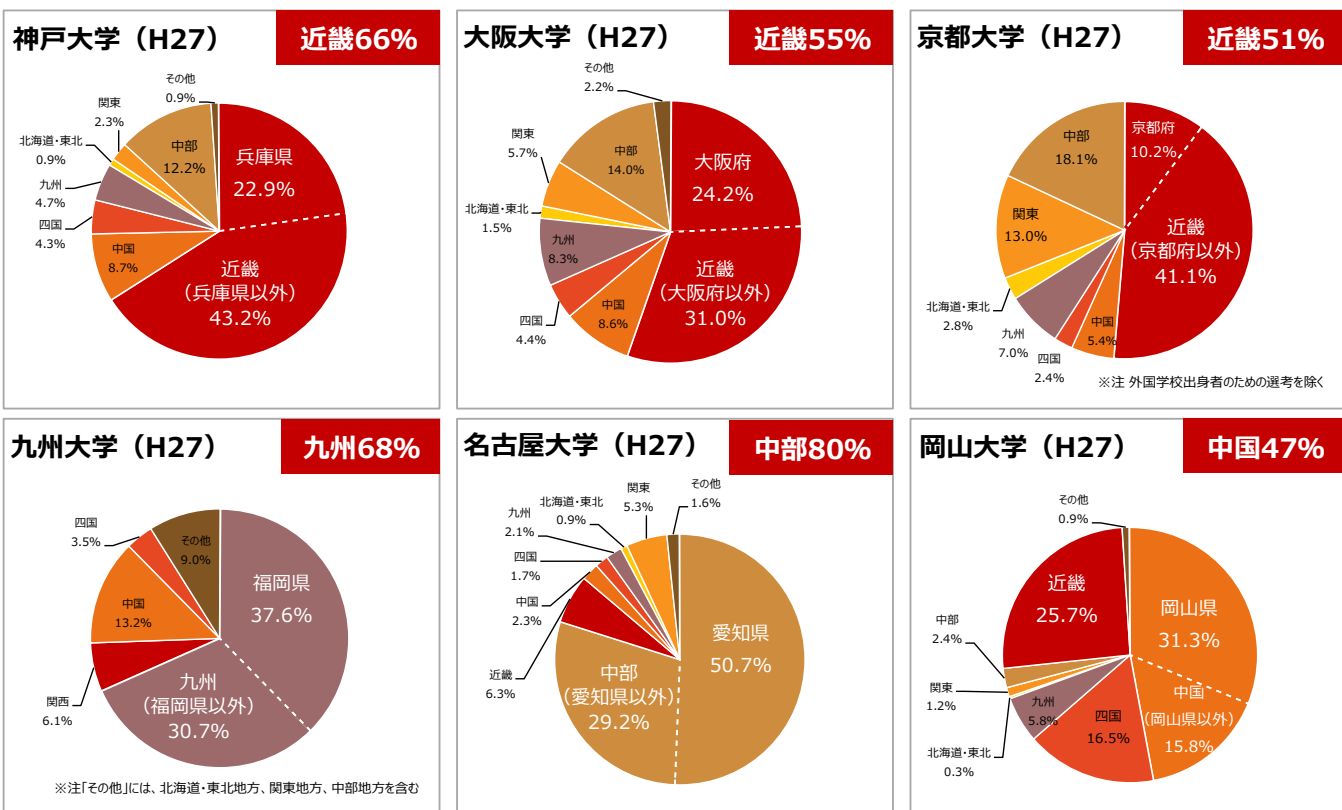
4-1 出身地域別入学者状況

○ 神戸大学では所在県または近隣地域の出身者がおよそ6割を占めており、また、入学者の8割以上が近畿地方以西の出身であることがわかる。

◆神戸大学◆ (H28)



- 【北海道・東北地方】北海道、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県
- 【関東地方】群馬県、茨城県、千葉県、栃木県、埼玉県、東京都、神奈川県
- 【中部地方】新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、山梨県、岐阜県、愛知県、静岡県、三重県
- 【近畿地方】滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- 【中国地方】鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- 【四国地方】徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- 【九州地方】福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
- 【その他】外国の学校、検定等



出典：各大学HP公表資料

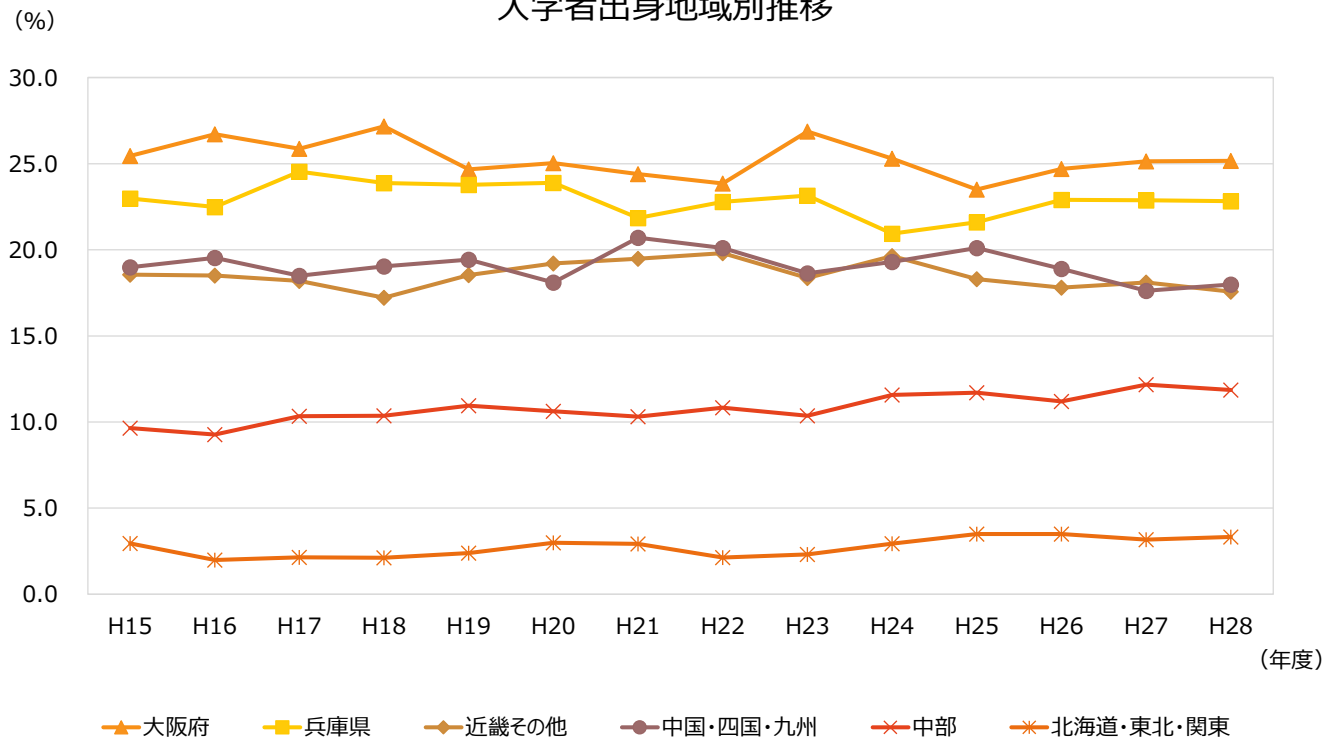
※各地方の構成都道府県については、本学の基準により調整している。(九州大学を除く)
 ※四捨五入により小数第一位までの数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

4-2 出身地域別入学者状況の経年推移

○ 入学者の出身地域に大きな変化は見られないが、中部地方出身者の割合がわずかに増加傾向にある。

◆神戸大学◆

入学者出身地域別推移



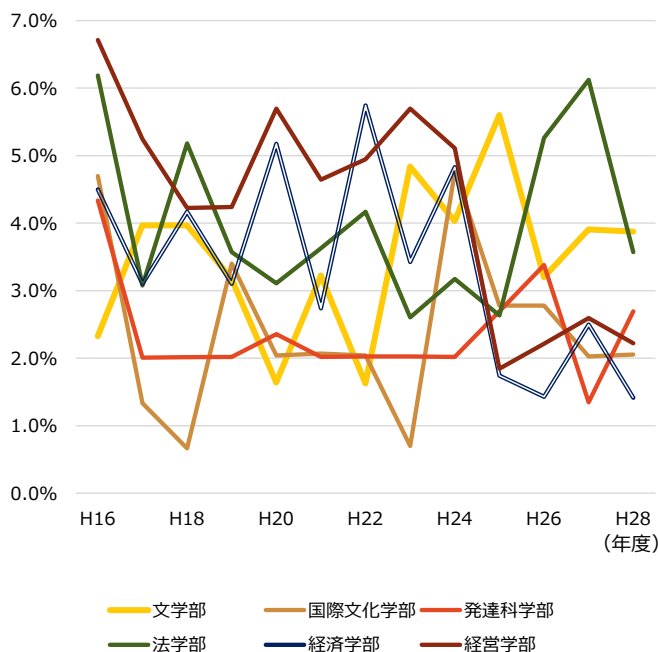
4-3 入学辞退率の推移

○ 神戸大学全体では、医学部医学科を除き、理科系学部の方が概ね入学辞退率が高い。特に、海事科学部では平成17年度以降、毎年10%を超えている。

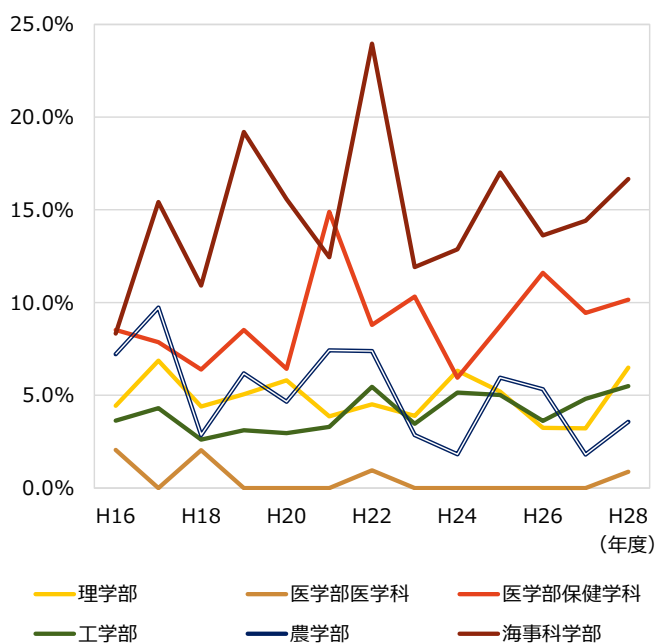
○ 文科系学部では、後期日程を廃止した経済学部（平成25年度より廃止）、経営学部（平成24年度より廃止）において、平成25年度以降、入学辞退率を大きく下げていることがわかる。

◆神戸大学◆

文科系学部



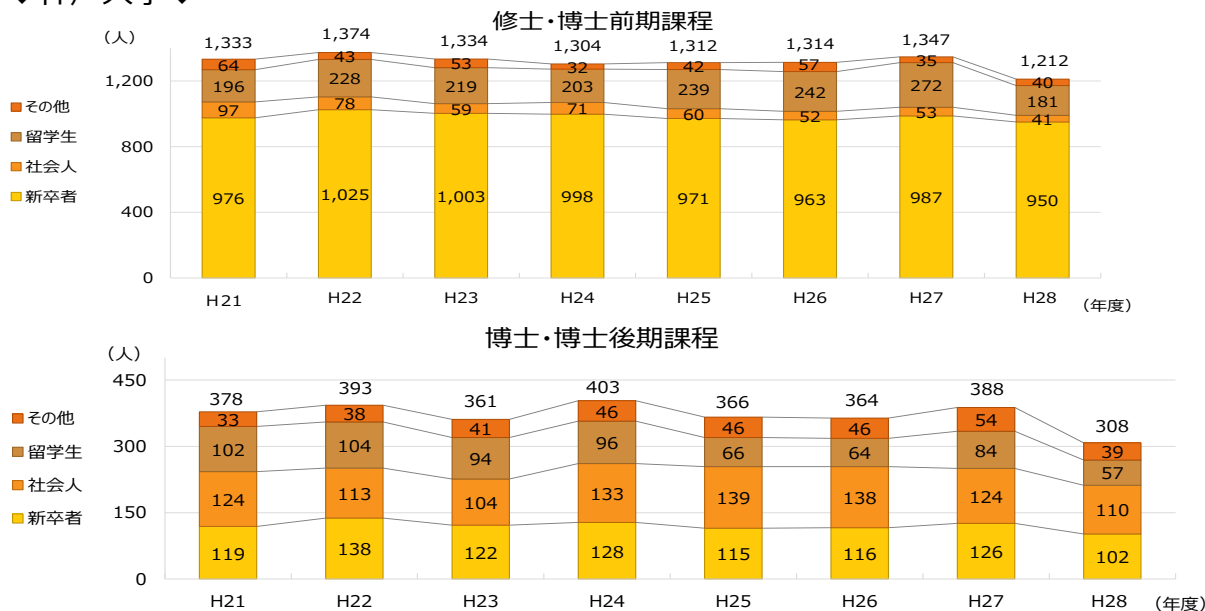
理科系学部



5. 入学状況 — 研究科 —

5-1 大学院入学状況

◆神戸大学◆

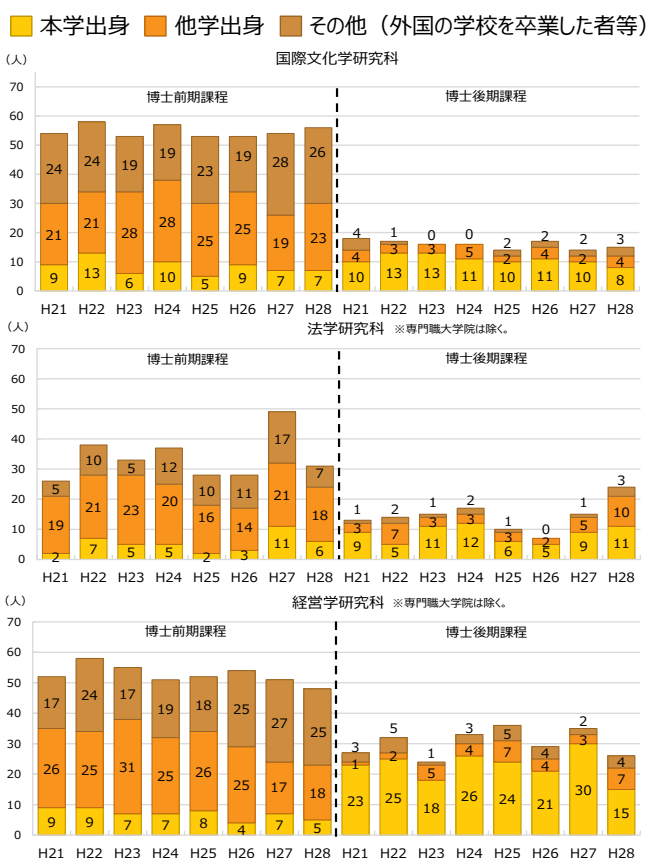
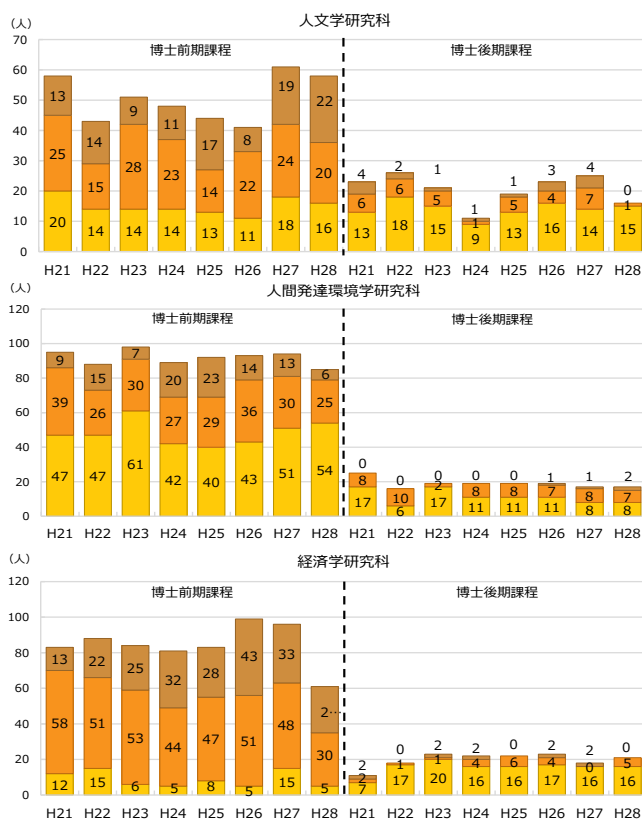


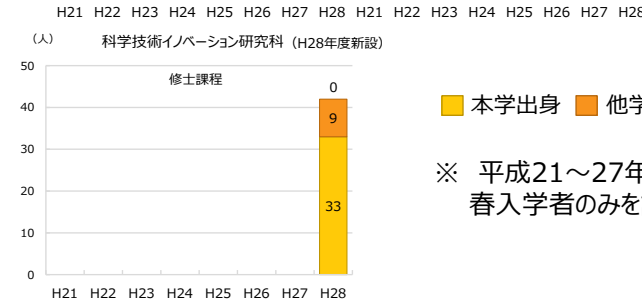
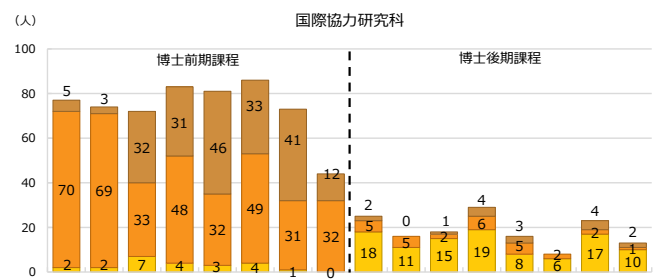
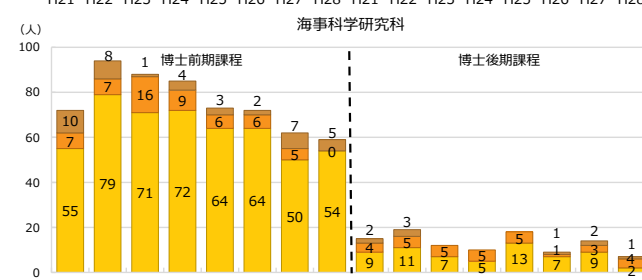
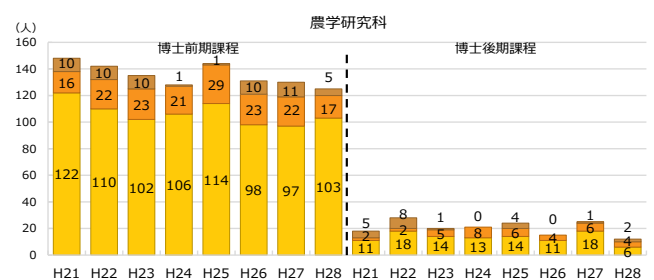
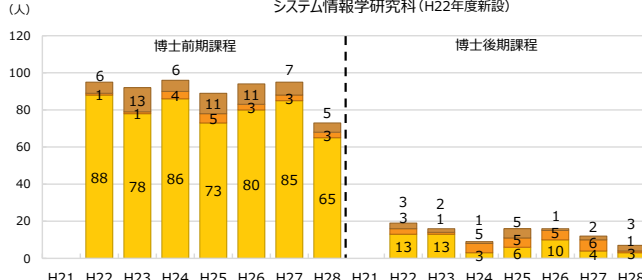
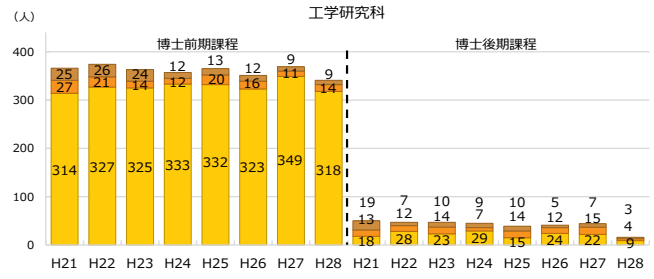
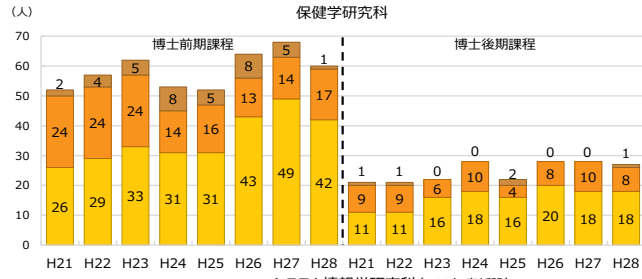
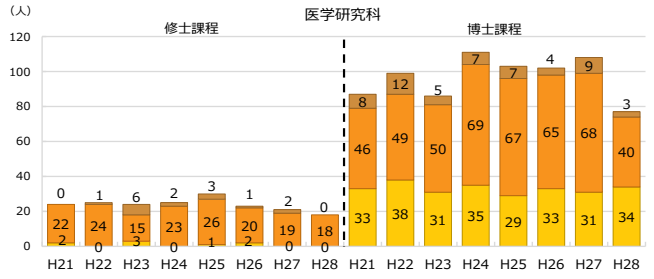
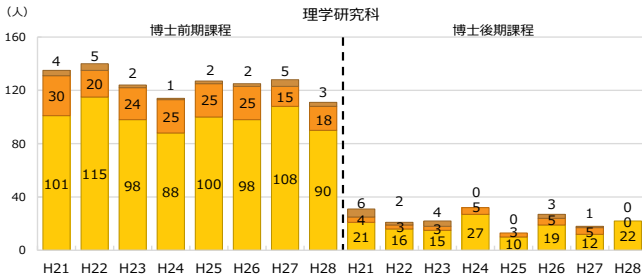
※平成21～27年度は春入学者及び秋入学者、平成28年度は春入学者のみを計上している。
 ※「その他」は、入学のために退職した者等。

5-2 大学院入学状況 — 研究科別・出身大学別 —

○ 自然科学系の研究科においては、博士前期課程に本学出身の学生がそのまま進学するケースが多いが、人文・社会系及び医学系の研究科においては多くの他学出身者が入学している傾向が見られる。

◆神戸大学◆

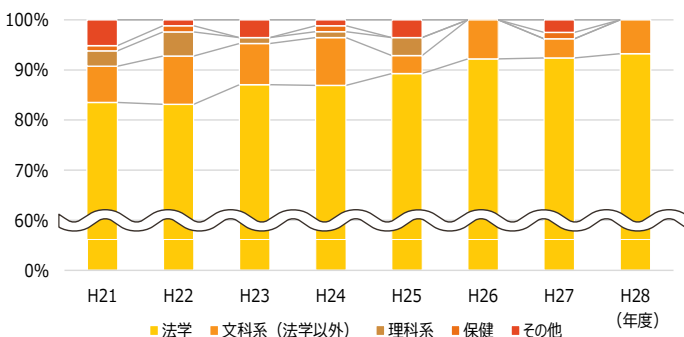




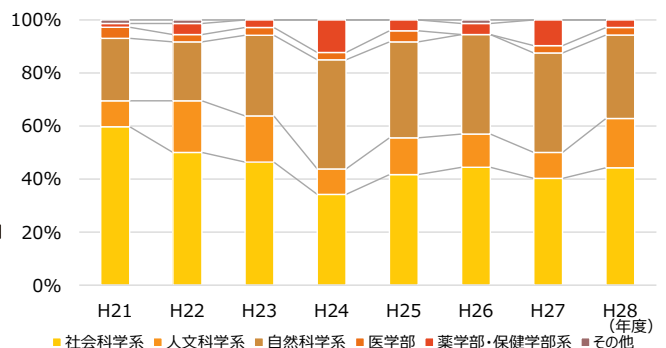
■ 本学出身 ■ 他学出身 ■ その他（外国の学校を卒業した者等）

※ 平成21～27年度は春入学者及び秋入学者、平成28年度は春入学者のみを計上している。

法学研究科（専門職学位課程）入学者出身学部別割合



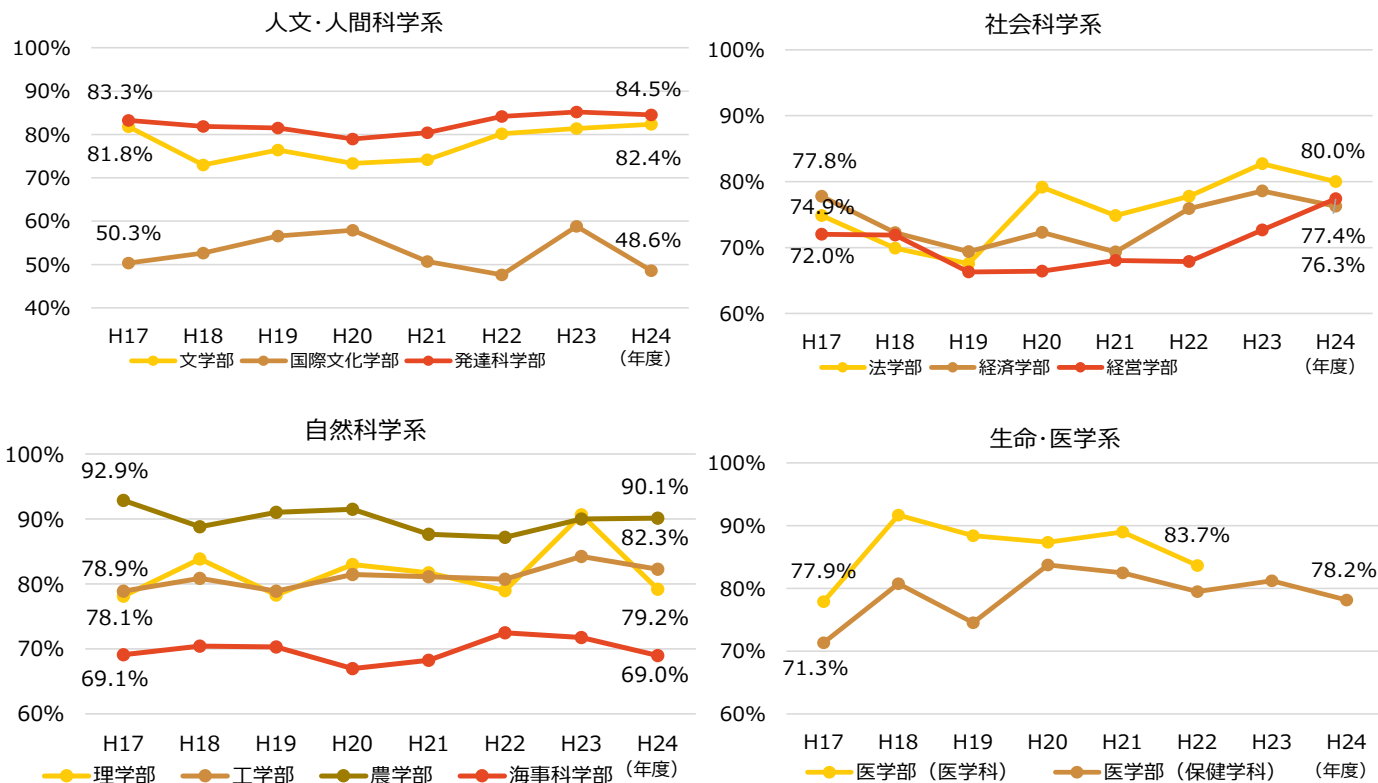
経営学研究科（専門職学位課程）入学者出身学部別割合



6. 学位授与状況 — 授与率 —

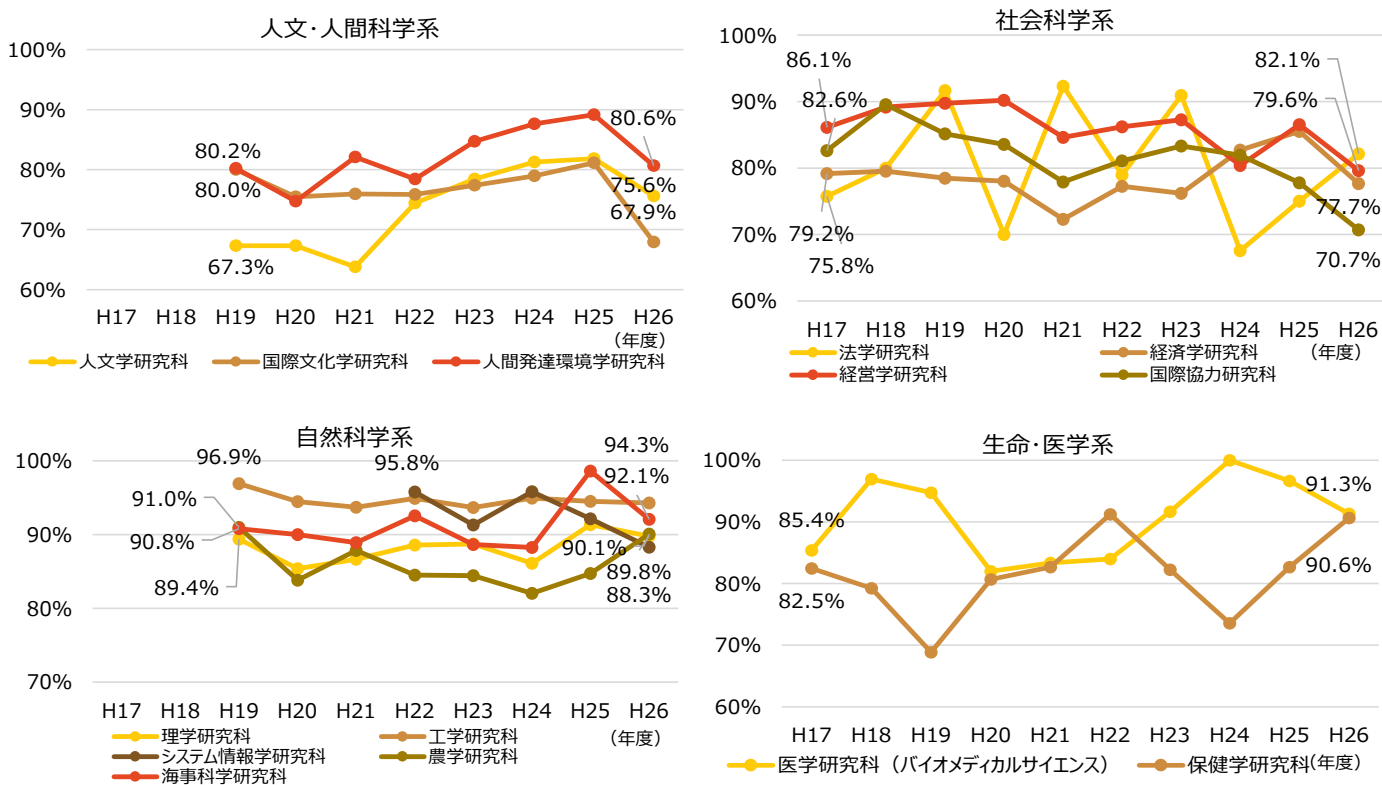
○ 学士課程において、国際文化学部の標準修業年限内学位取得者の割合は、他学部比べて低く、平成17年度以降50%前後を推移しているが、これは長期の留学や海外研修に赴く学生が多いことによる。

◆ 学士課程（入学年度別標準修業年限内学位取得者の割合）



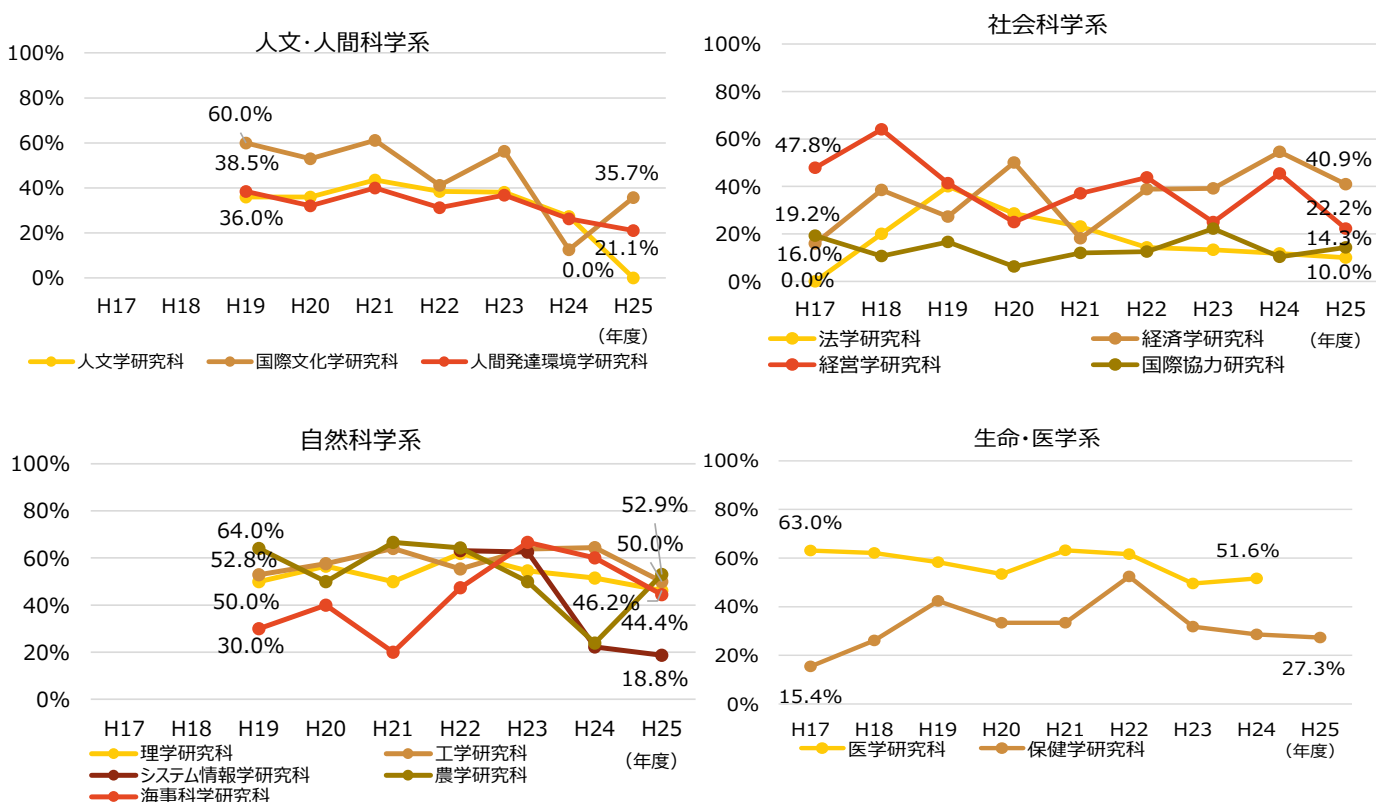
※最新年度については春入学者のみを、それ以前については秋入学者も含めた数値。

◆ 修士・博士前期課程（入学年度別標準修業年限内学位取得者の割合）



※最新年度については春入学者のみを、それ以前については秋入学者も含めた数値。

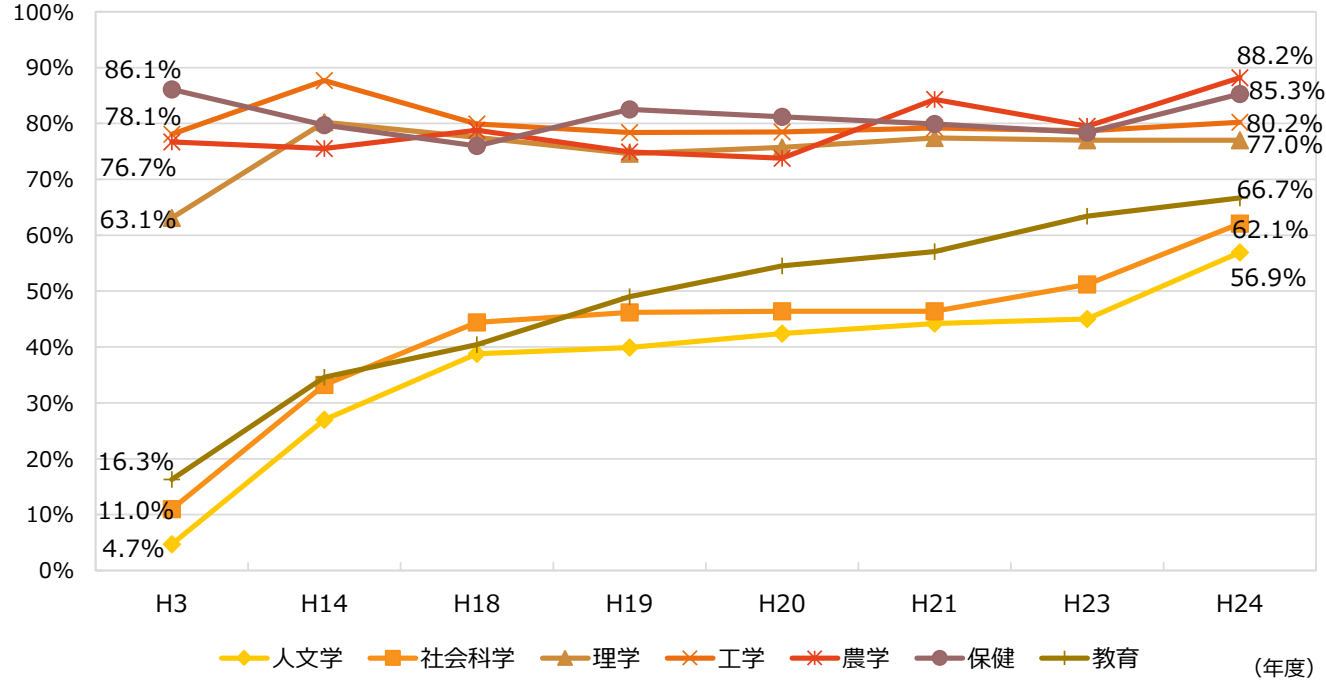
◆博士・博士後期課程（入学年度別標準修業年限内学位取得者の割合）



※最新年度については春入学者のみを、それ以前については秋入学者も含めた数値。

◆全国（当該年度の課程博士授与率）

学位授与率の推移（分野別）



出典：文部科学省調査「各大学院における「大学院教育振興施策要綱」に関する取組の調査結果について」

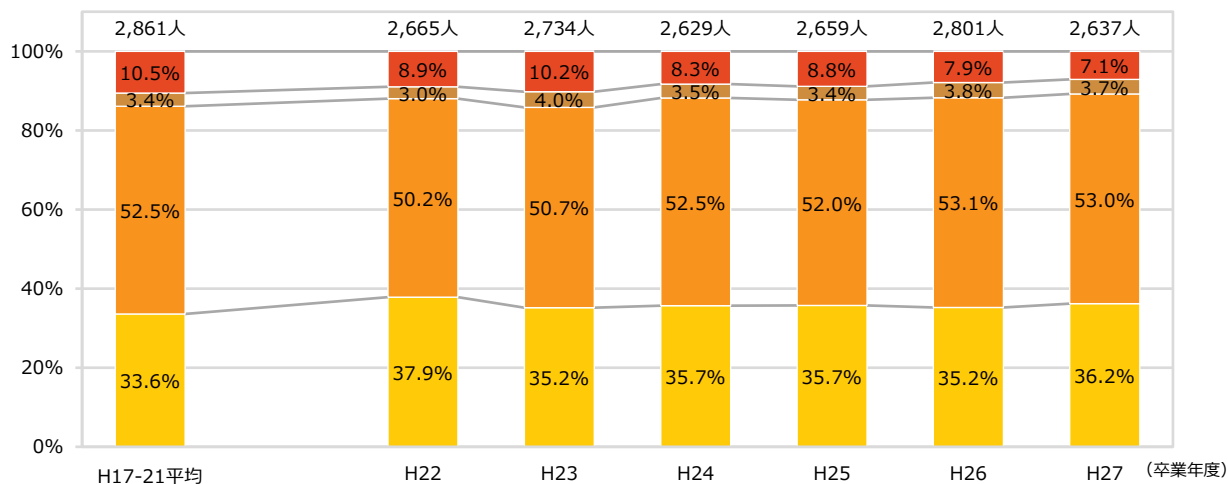
※ 該年度の課程博士授与数 / 当該年度から標準修業年限前の博士課程入学者数（入学者のうち最終的に課程博士を授与される割合の推計値。）

7. 進路・就職状況

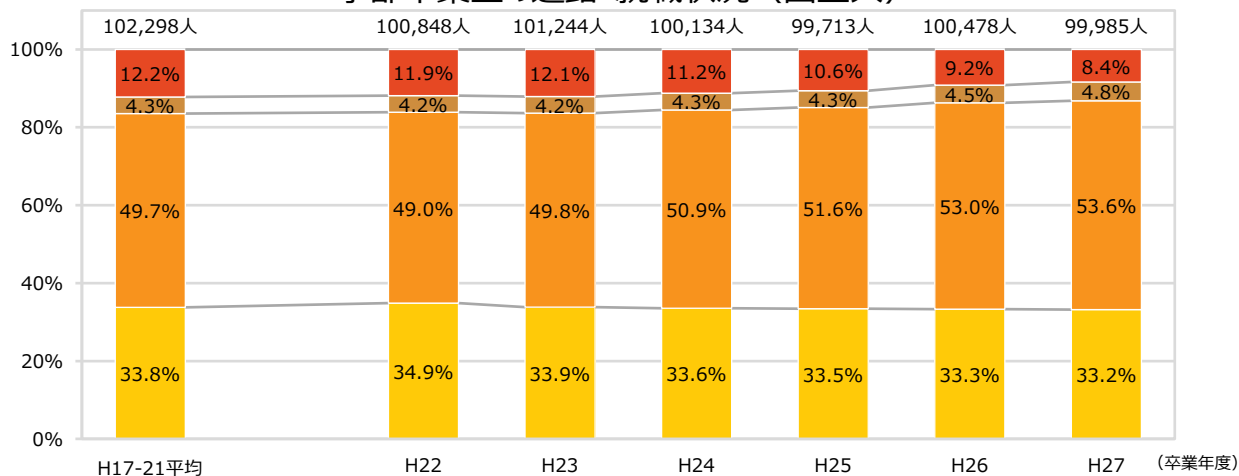
7-1 学部卒業生の進路・就職状況

■ 進学者 ■ 就職者 ■ 臨床研修医 ■ その他

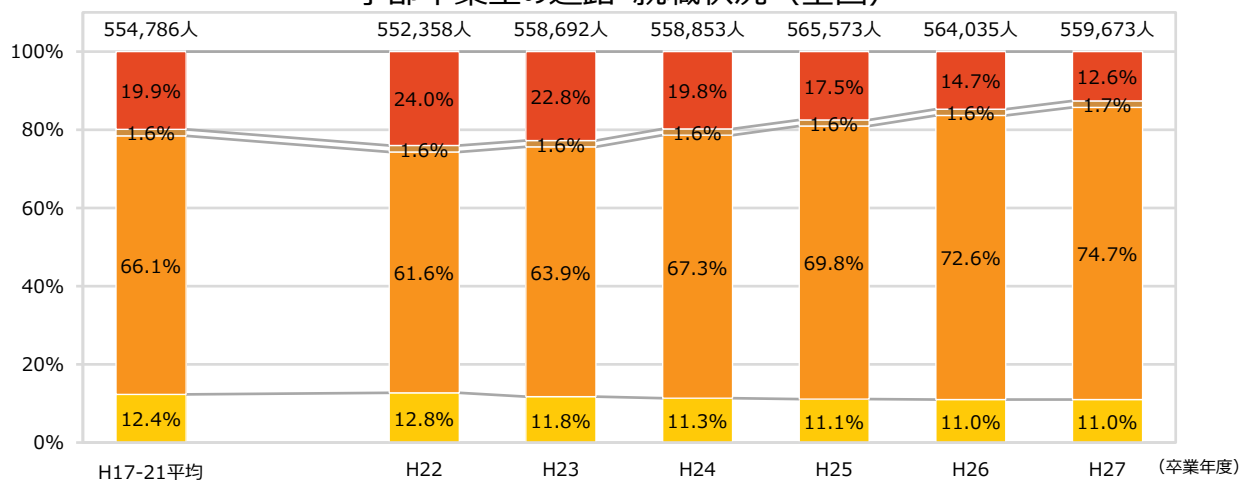
学部卒業生の進路・就職状況（神戸大学）



学部卒業生の進路・就職状況（国立大）



学部卒業生の進路・就職状況（全国）



出典（国立大、全国）：文部科学省 学校基本調査（H27の値はH28.8時点の速報値）
 ※四捨五入により小数第一位までの数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

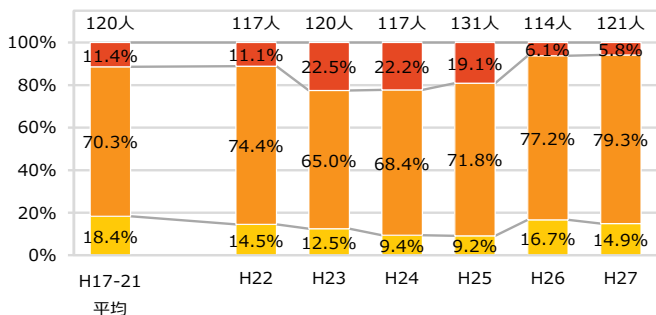
7-2 学部卒業生の進路・就職状況 - 学部別 -

- 学部卒業生について、文科系学部においては就職する学生の割合が高く、理科系学部においては医学部を除き、進学する学生が多い。
- 第1期中期目標期間（H16～21年度）と比較すると、文学部の進学率低下、経済学部、経営学部の就職率上昇、医学部保健学科、工学部の進学率上昇などが、傾向として読み取れる。

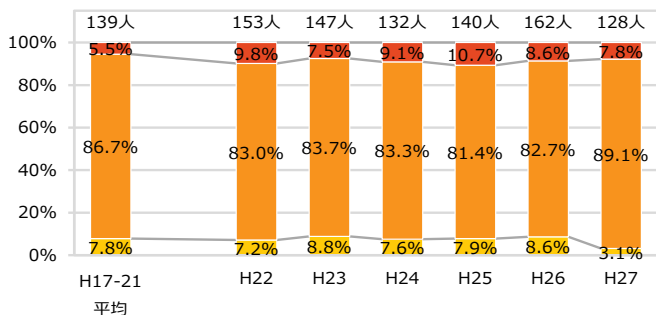
◆神戸大学◆（学部 卒業年度）

■ 進学者 ■ 就職者 ■ 臨床研修医 ■ その他

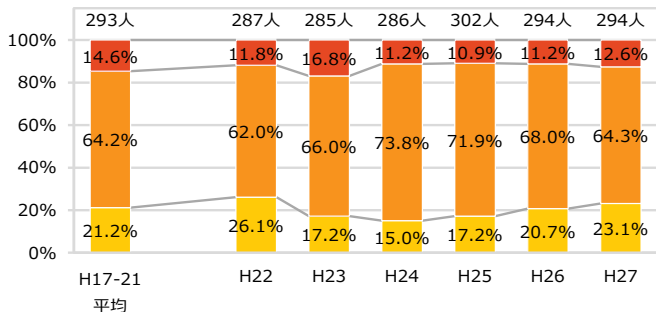
文学部



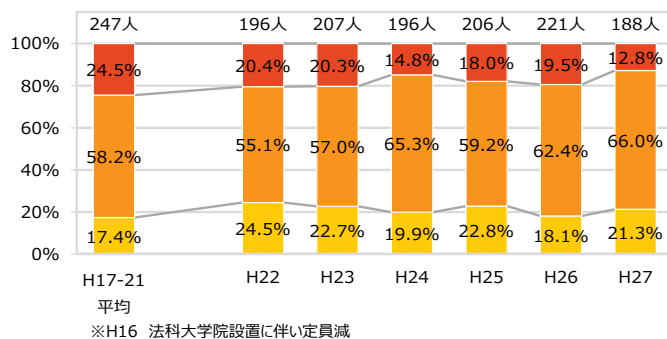
国際文化学部



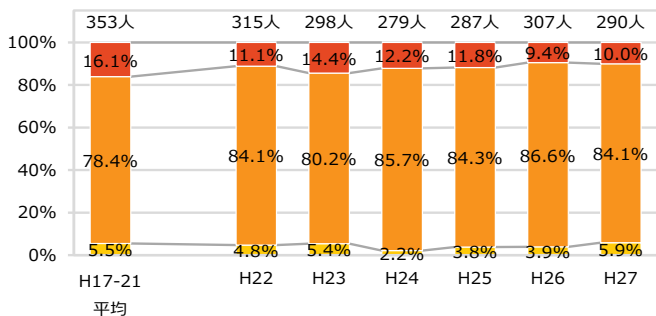
発達科学部



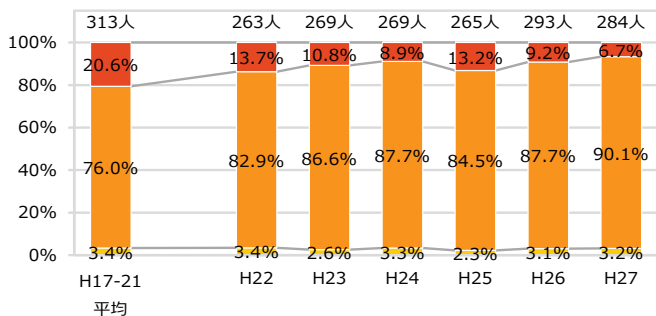
法学部



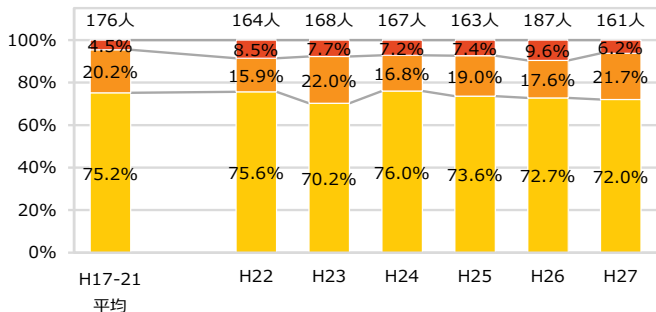
経済学部



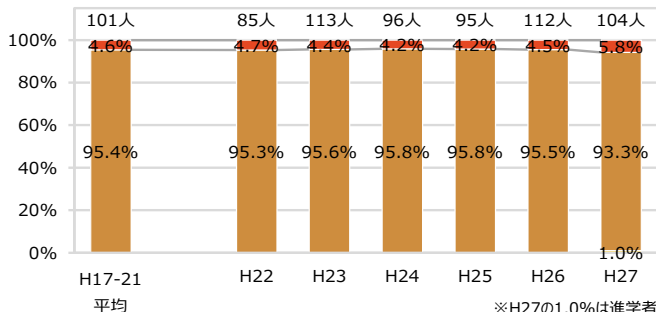
経営学部



理学部

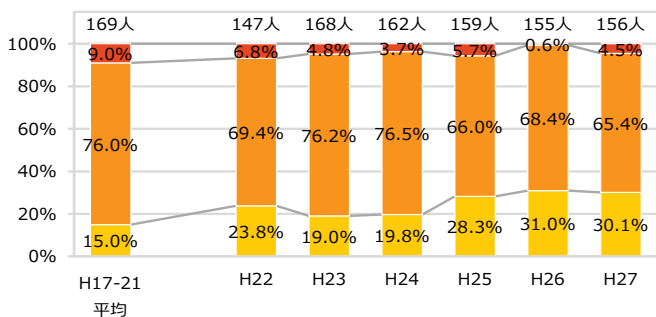


医学部（医学科）

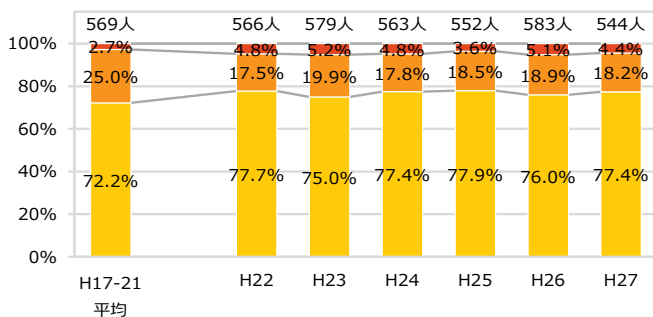


■ 進学者 ■ 就職者 ■ 臨床研修医 ■ その他

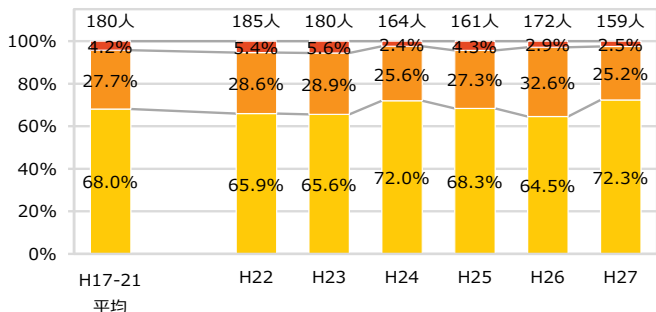
医学部（保健学科）



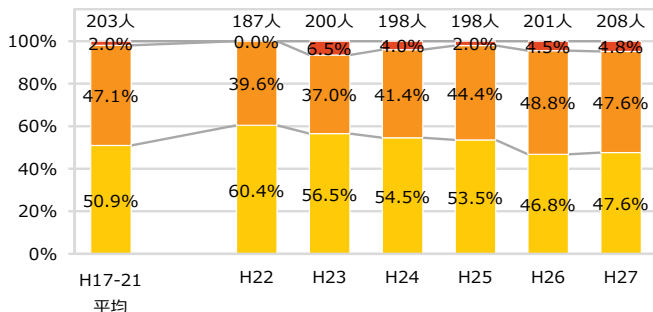
工学部



農学部



海事科学部

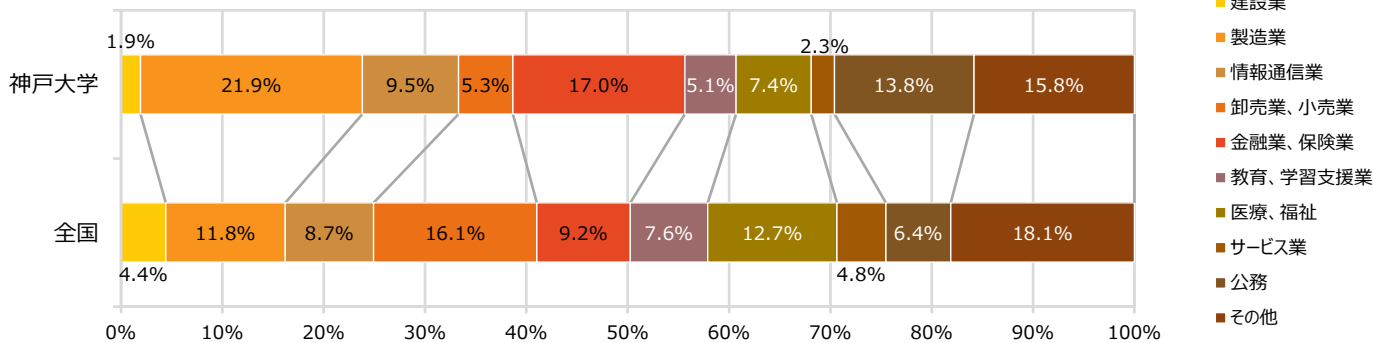


※四捨五入により小数第一位までの数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

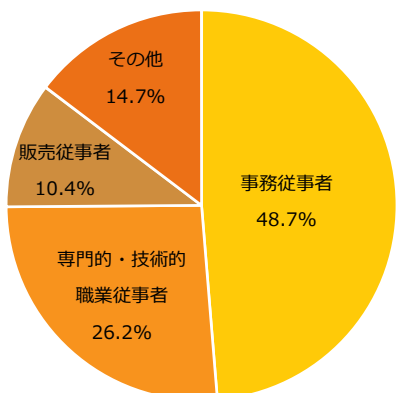
7-3 学部卒業生の産業別・職業別就職状況

○ 全国に比べて本学の学部卒業生は、産業別では、「製造業」、「金融業、保険業」、「公務」に、職業別では、「事務従事者」に就職している割合が高いという特徴が見られる。

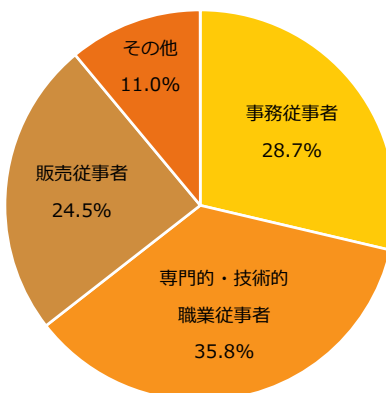
産業別就職状況



神戸大 職業別



全国 職業別

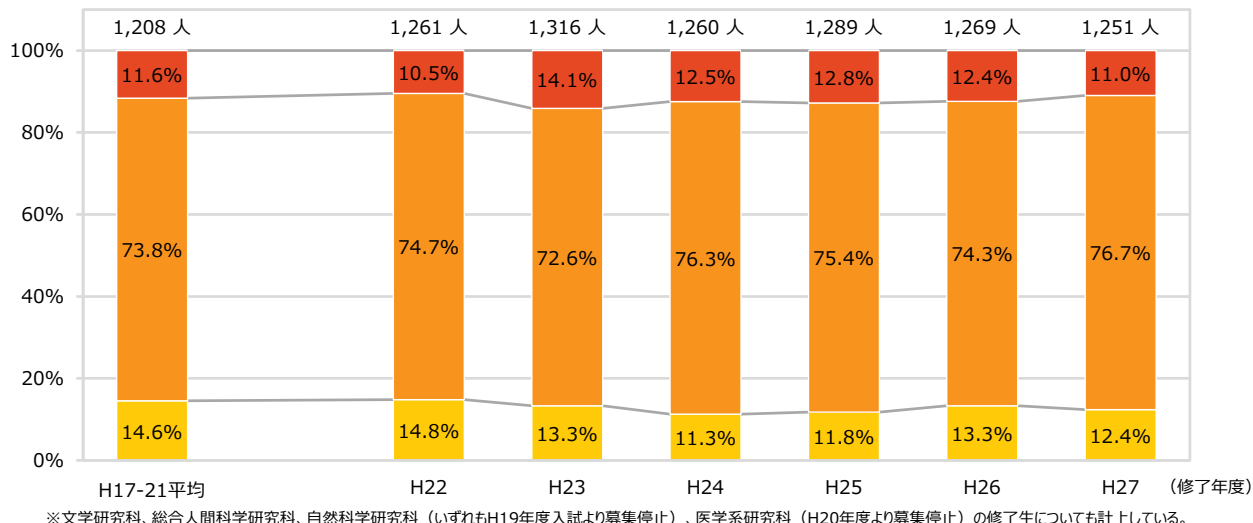


出典
文部科学省学校基本調査
H28年度調査（平成27年度卒業生対象）のH28.8時点速報値に基づく。

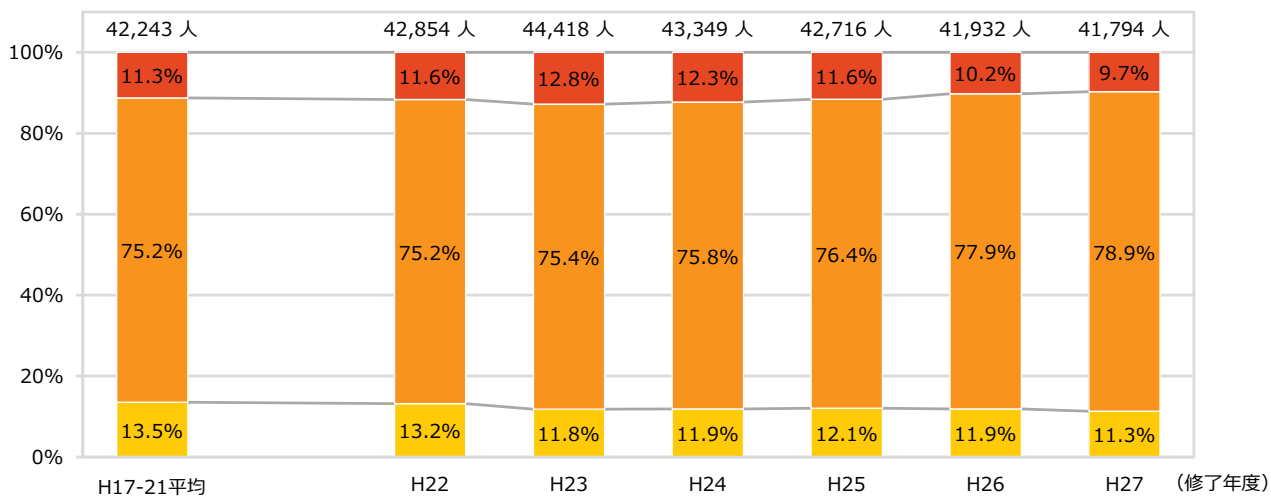
注）
四捨五入により小数第一位までの数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

■ 進学者 ■ 就職者 ■ その他

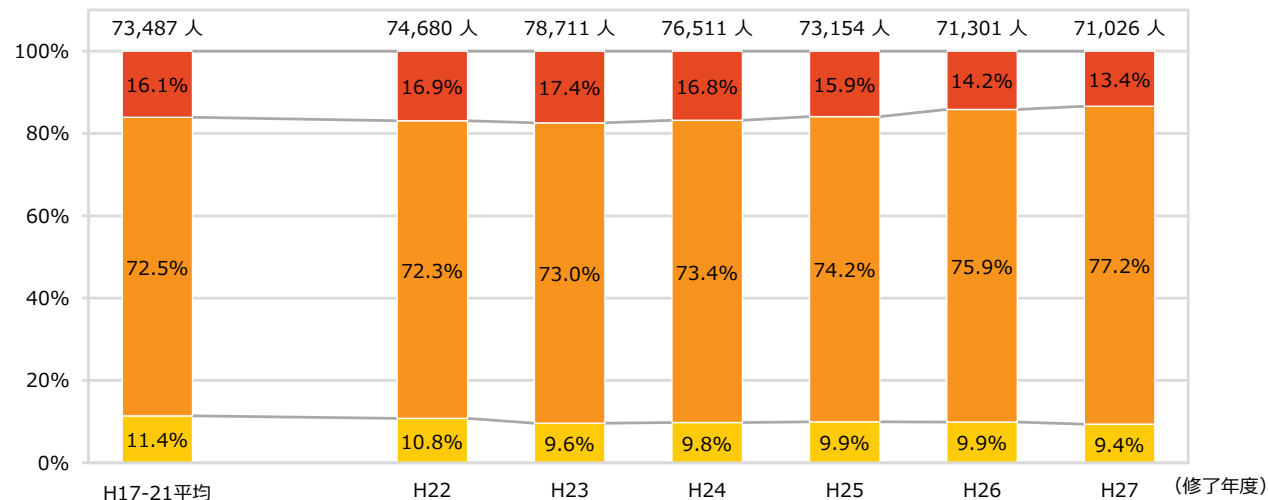
修士・博士前期課程修了生の進路・就職状況（神戸大学）



修士・博士前期課程修了生の進路・就職状況（国立大）



修士・博士前期課程修了生の進路・就職状況（全国）



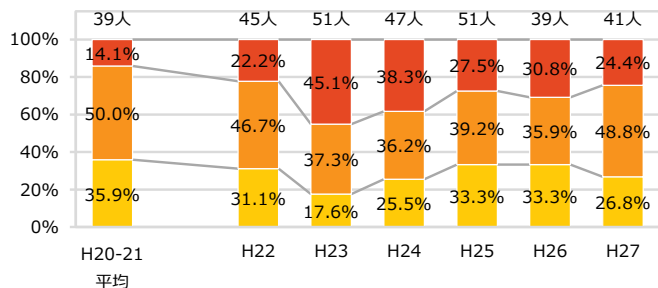
出典（国立大、全国）：文部科学省 学校基本調査（H27の値はH28.8時点の速報値）
 ※四捨五入により小数第一位までの数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

○ 修士・博士前期課程修了生については、文科系の研究科において進学率が比較的高く、学部卒業生とは異なる傾向がみられる。

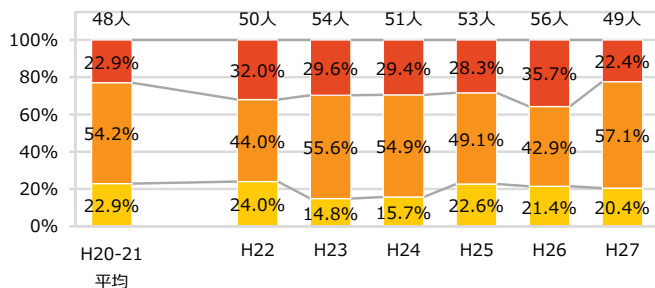
◆神戸大学◆ (修士・博士前期課程 修了年度)

■ 進学者 ■ 就職者 ■ その他

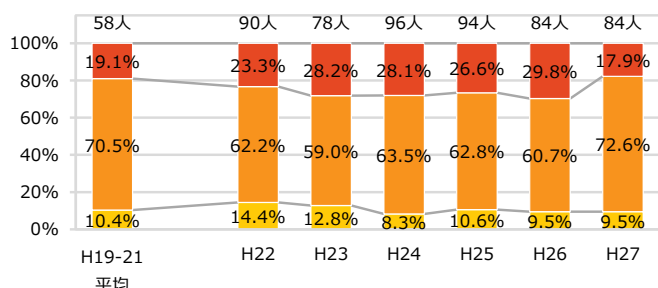
人文学研究科 (H19年度設置)



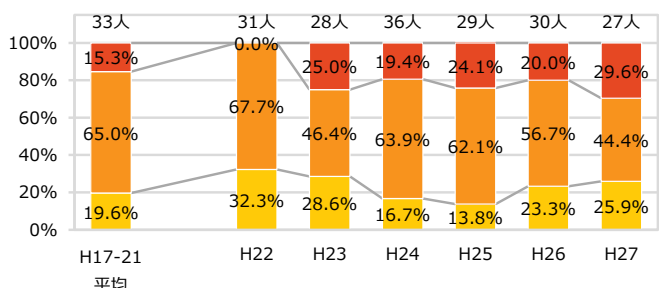
国際文化学研究科 (H19年度設置)



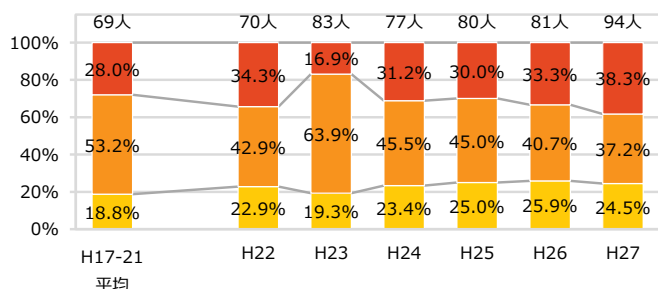
人間発達環境学研究科 (H19年度設置)



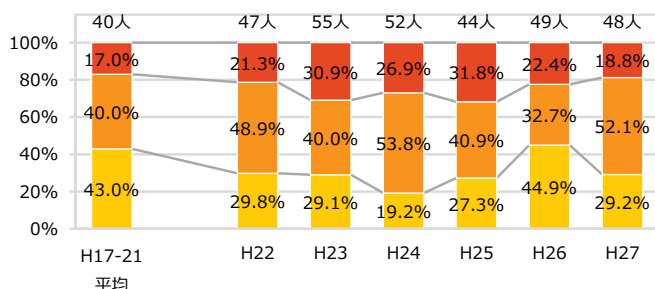
法学研究科 (専門職除く)



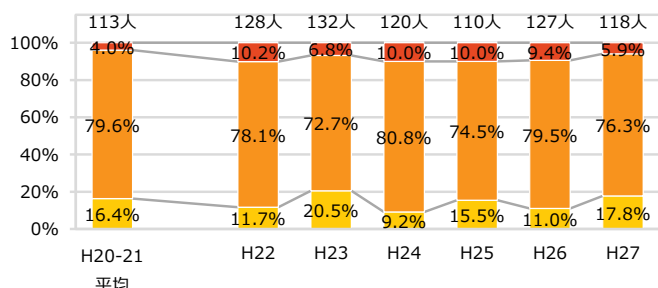
経済学研究科



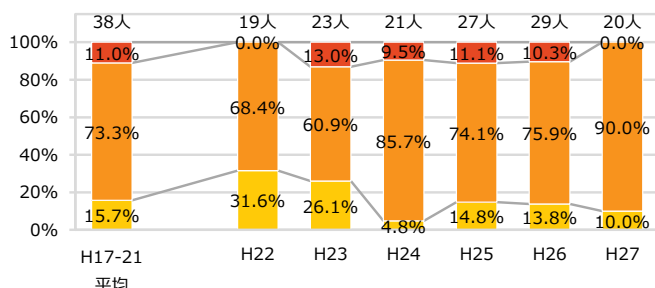
経営学研究科 (専門職除く)



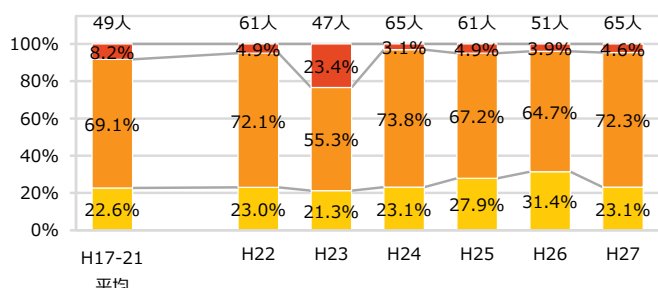
理学研究科 (H19年度設置)



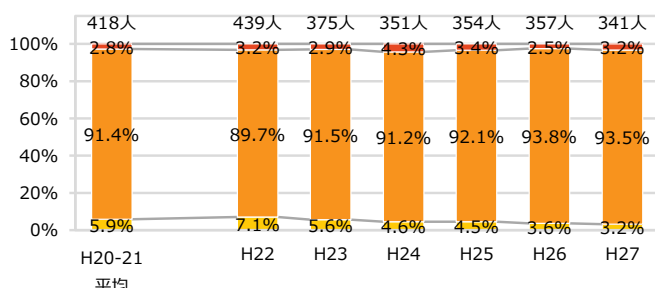
医学研究科 (バイオメディカルサイエンス専攻)



保健学研究科



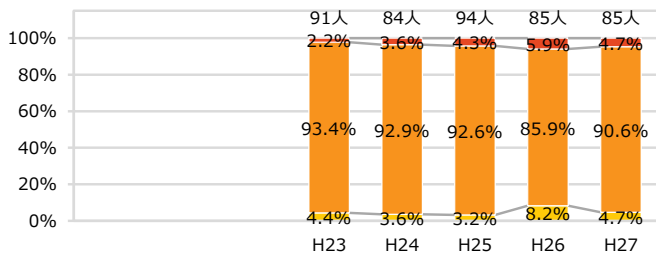
工学研究科 (H19年度設置)



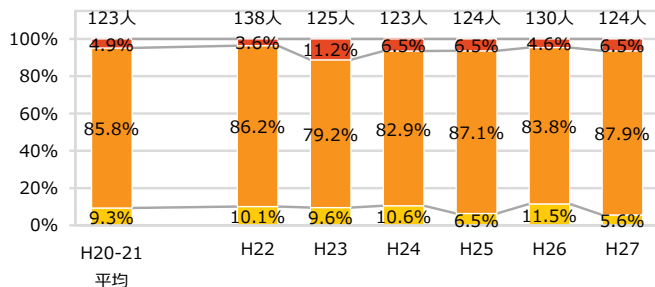
※保健学研究科の修了生には、医学系研究科保健学専攻 (平成20年度入試より募集停止) の修了生を含む。

■ 進学者 ■ 就職者 ■ その他

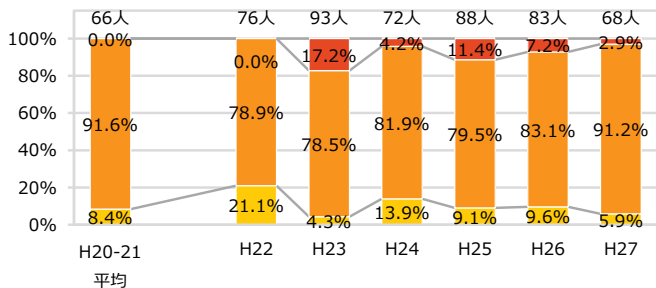
システム情報学研究科（H22年度設置）



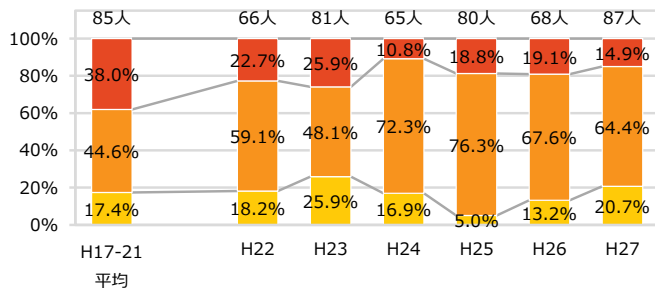
農学研究科（H19年度設置）



海事科学研究科（H19年度設置）



国際協力研究科

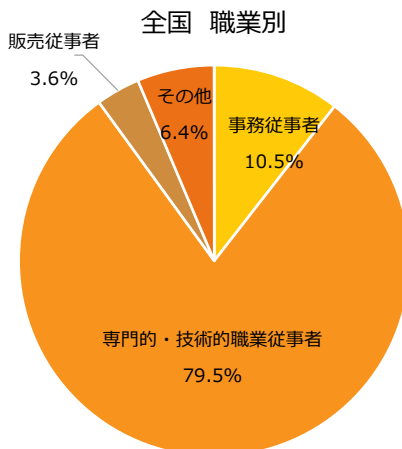
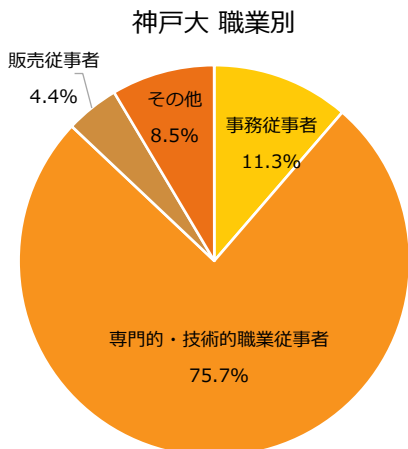
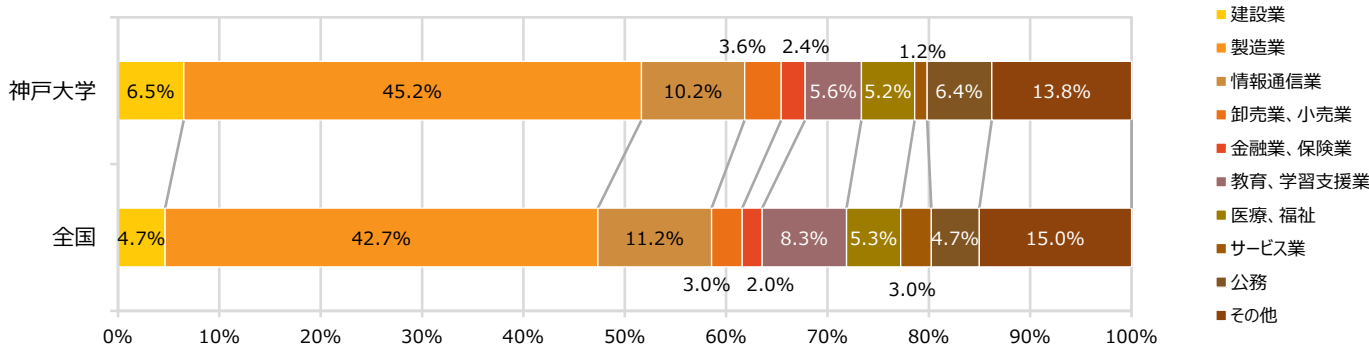


※「その他」には、公務員試験受験者、司法試験・公認会計士等の資格試験等受験者、専門学校入学者、海外語学研修生、研究生、帰国予定留学生等を含む。
 ※四捨五入により小数第一位までの数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

7-6 研究科修了生の産業別・職業別就職状況

○ 本学の修士・博士前期課程修了生の就職状況については、産業別、職業別ともに概ね全国における傾向と同様の傾向が見られる。

産業別就職状況



出典
文部科学省学校基本調査

H28年度調査（平成27年度修了生対象）のH28.8時点速報値に基づく。

注）
四捨五入により小数第一位までの数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

8. 資格試験合格状況

8-1 司法試験合格状況

○ 本学の司法試験合格状況について、毎年40人以上の合格者を安定して輩出していることがわかる。また、未修者合格率について、平成28年度は**全法科大学院中1位**であった。

【合格率推移（上位20大学）】

順位	平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者
1	一橋大	57.0%	77	慶應義塾大	56.8%	201	京都大	53.1%	130	一橋大	55.6%	79	一橋大	49.6%	63
2	京都大	54.3%	152	東京大	55.2%	197	東京大	52.0%	158	京都大	53.3%	128	東京大	48.1%	137
3	慶應義塾大	53.6%	186	一橋大	54.5%	67	一橋大	47.1%	64	東京大	48.9%	149	京都大	47.3%	105
4	東京大	51.2%	194	京都大	52.4%	129	慶應義塾大	44.6%	150	神戸大	48.3%	72	慶應義塾大	44.3%	155
5	神戸大	45.8%	60	愛知大	42.9%	12	大阪大	40.1%	55	慶應義塾大	45.5%	158	早稲田大	35.8%	152
6	大阪大	41.8%	74	首都大東京	40.6%	39	早稲田大	35.2%	172	愛知大	36.4%	8	神戸大	32.3%	41
7	中央大	41.3%	202	中央大	40.0%	177	中央大	34.5%	164	中央大	35.8%	170	中央大	29.4%	136
8	首都大東京	39.6%	40	早稲田大	38.4%	184	千葉大	31.0%	26	早稲田大	30.8%	145	九州大	28.8%	36
9	愛知大	37.8%	14	千葉大	36.9%	24	神戸大	30.8%	44	大阪大	29.1%	48	大阪大	26.8%	42
10	北海道大	34.0%	54	神戸大	36.8%	46	東北大	26.4%	42	北海道大	28.6%	42	愛知大	26.7%	4
11	早稲田大	32.8%	155	大阪大	36.4%	51	愛知大	25.9%	7	九州大	26.1%	40	名古屋大	25.0%	34
12	名古屋大	32.6%	44	北海道大	33.3%	50	創価大	25.7%	18	東北大	25.7%	35	東北大	24.0%	23
13	千葉大	31.8%	21	名古屋大	33.3%	40	北海道大	25.5%	41	名古屋大	25.0%	37	北海道大	23.4%	30
14	九州大	26.2%	53	大阪市立大	33.0%	35	首都大東京	22.9%	22	首都大東京	23.0%	26	広島大	20.3%	15
15	近畿大	24.3%	9	上智大	26.4%	46	九州大	22.8%	37	神奈川大	22.9%	8	千葉大	19.8%	17
16	東北大	22.0%	38	創価大	25.0%	22	名古屋大	22.6%	30	大阪市立大	18.6%	22	首都大東京	19.5%	25
17	広島大	20.9%	19	岡山大	24.3%	17	上智大	19.6%	31	岡山大	18.5%	12	創価大	19.4%	13
18	上智大	20.8%	38	九州大	24.1%	39	横浜国立大	19.4%	18	熊本大	18.4%	7	岡山大	18.0%	11
19	明治大	20.4%	82	東北大	22.5%	39	岡山大	18.1%	13	創価大	17.9%	14	静岡大	16.7%	3
20	中京大	19.5%	8	同志社大	22.1%	42	大阪市立大	17.4%	19	同志社大	17.5%	33	神戸学院大	15.4%	2

【既修者・合格率推移（上位20大学）】

順位	平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者
1	大阪学院大	100.0%	1	福岡大	100.0%	3	鹿児島大	100.0%	1
2	鹿児島大	100.0%	1	京都大	69.8%	111	京都大	64.4%	96
3	東京大	75.7%	131	東京大	64.2%	104	東京大	63.0%	104
4	愛知大	66.7%	2	一橋大	63.0%	58	一橋大	61.7%	50
5	京都大	66.5%	119	慶應義塾大	60.1%	128	慶應義塾大	58.8%	124
6	慶應義塾大	62.9%	129	神戸大	53.4%	55	創価大	56.3%	9
7	近畿大	60.0%	3	愛知大	50.0%	1	大宮法科大学院大	50.0%	1
8	一橋大	57.6%	53	鹿児島大	50.0%	1	琉球大	50.0%	1
9	青山学院大	50.0%	2	琉球大	50.0%	1	広島大	45.0%	9
10	大阪大	47.8%	32	中央大	43.0%	144	早稲田大	42.7%	103
11	早稲田大	46.3%	99	創価大	42.1%	8	名古屋大	41.0%	25
12	千葉大	42.4%	25	早稲田大	40.2%	97	岡山大	38.5%	5
13	南山大	41.7%	5	南山大	40.0%	2	九州大	37.5%	24
14	神戸大	40.8%	40	名古屋大	39.7%	25	神戸大	34.1%	29
15	信州大	40.0%	2	北海道大	37.1%	36	名城大	33.3%	3
16	京都産業大	40.0%	2	九州大	35.0%	28	静岡大	33.3%	1
17	中央大	38.9%	125	新潟大	33.3%	1	中京大	33.3%	1
18	金沢大	37.5%	3	信州大	33.3%	1	大阪大	32.9%	28
19	創価大	35.7%	5	中京大	33.3%	1	中央大	32.6%	108
20	名古屋大	33.3%	17	東北大	32.9%	28	北海道大	29.2%	21
	神戸学院大	33.3%	1						
	久留米大	33.3%	1						

【未修者・合格率推移（上位20大学）】

順位	平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者
1	大阪大	32.9%	23	一橋大	42.0%	21	神戸大	28.6%	12
2	早稲田大	26.5%	73	神戸大	37.0%	17	愛知大	28.6%	4
3	中央大	25.3%	39	愛知大	35.0%	7	一橋大	28.3%	13
4	一橋大	25.0%	11	東京大	31.5%	45	東京大	27.5%	33
5	創価大	23.2%	13	大阪大	25.0%	19	早稲田大	26.8%	49
6	北海道大	22.2%	14	慶應義塾大	22.4%	30	慶應義塾大	22.3%	31
7	上智大	21.7%	15	神奈川大	21.4%	6	中央大	21.4%	28
8	愛知大	20.8%	5	京都大	21.0%	17	九州大	19.7%	12
9	東京大	20.6%	27	早稲田大	20.9%	48	大阪大	19.4%	14
10	東北大	17.2%	10	熊本大	20.0%	7	神戸学院大	16.7%	2
11	九州大	16.9%	12	中央大	18.6%	26	北海道大	16.1%	9
12	横浜国立大	16.7%	12	広島修道大	17.8%	8	東北大	15.2%	5
13	京都大	16.7%	11	九州大	16.4%	12	金沢大	15.2%	5
14	日本大	16.3%	14	大阪市立大	16.4%	10	千葉大	14.3%	4
15	慶應義塾大	16.0%	21	岡山大	16.0%	8	首都大東京	13.6%	3
16	名古屋大	15.9%	13	白鷗大	15.8%	3	福岡大	13.3%	6
17	岡山山	15.8%	9	首都大東京	15.4%	4	新潟大	13.3%	4
18	筑波大	14.7%	10	琉球大	15.2%	5	静岡大	13.3%	2
19	大阪市立大	14.5%	8	横浜国立大	14.8%	12	関西学院大	12.7%	9
20	成蹊大	14.3%	7	広島大	14.3%	10	岡山大	12.5%	6
	関東学院大	14.3%	3	信州大	14.3%	6			
	中京大	14.3%	3						

出典： 法務省ホームページ「司法試験の結果について」

※ このランキングは法科大学院卒業生のみを対象とし、予備試験合格者については含めていない。

8-2 各種資格試験・採用試験合格状況

国家公務員総合職			弁理士			公認会計士			一級建築士		
順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者
1 (1)	東京大	459	1 (1)	京都大	32	1	慶應義塾大	123	1	日本大	225
2 (2)	京都大	151	2 (2)	東京大	25	2	早稲田大	91	2	東京理科大	132
3	早稲田大	148	3 (3)	大阪大	20	3	中央大	64	3	早稲田大	99
4	慶應義塾大	91	4	慶應義塾大	13	4	明治大	56	4	芝浦工業大	78
5 (3)	東北大	66	5 (4)	東京工業大	12	5	同志社大	33	5	近畿大	73
6 (4)	大阪大	63	5	東京理科大	12	6	関西大	29	6	工学院大	66
7	中央大	58	5	早稲田大	12	7 (1)	神戸大	28	7	明治大	54
8 (5)	一橋大	54	8 (5)	北海道大	10	7	関西学院大	28	8 (1)	神戸大	51
	北海道大	54	9 (6)	東北大	9	9 (2)	東京大	23	9 (2)	京都大	47
10 (7)	東京工業大	53	10	関西大	8	10	専修大	22	10 (3)	京都工芸繊維大	46
11 (8)	九州大	49	11 (7)	神戸大、九州大	7						
13 (9)	神戸大	37									
13.3 (9.0)	神戸大 過去三カ年平均	24.7	14.3 (9.7)	神戸大 過去三カ年平均	11.7	7.7 (1.0)	神戸大 過去三カ年平均	30.7	11.7 (2.3)	神戸大 過去三カ年平均	49.3

技術士			医師国家試験			看護師			保健師		
順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格率	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者
1 (1)	京都大	156	1 (1)	浜松医科大	99.1%	1	順天堂大[医療看護]	199	1	順天堂大[医療看護]	205
2 (2)	北海道大	123	1	自治医科大	99.1%	2	聖隷クリスティー大	159	2	聖隷クリスティー大	165
3 (3)	東京大	122	1	順天堂大	99.1%	3	日本赤十字看護大	143	3	埼玉県立大	156
4 (4)	九州大	109	4 (2)	千葉大	99.0%	4	日本赤十字広島看護大	138	4	広島化学園大	152
5	日本大	105	5	横浜市立大	97.6%	5	広島化学園大	134	5	日本赤十字広島看護大	145
6 (5)	東北大	102	6 (3)	鳥取大	97.4%	6	日本赤十字豊田看護大	133	6	日本赤十字豊田看護大	140
7	早稲田大	98	7	京都府立医科大	97.2%	7	北里大	130	7	北里大	134
8 (6)	大阪大	87	7	兵庫医科大	97.2%	8	国際医療福祉大[保健医療]	127	8	広島国際大	132
9 (7)	東京工業大	77	9 (4)	金沢大	97.1%	9	帝京大	125	9	愛知医科大	125
10	東京理科大	69	9	東京慈恵会医科大	97.1%		東京医療保健大[東が丘・立川看護]	125	10	大阪府立大	124
11 (8)	金沢大	58	14 (5)	筑波大	96.2%	82 (1)	名古屋大	83	54 (1)	富山大	93
12	中央大	56	17 (6)	山梨大	94.5%	91 (2)	富山大	81	56 (2)	名古屋大	92
13 (9)	神戸大、名古屋大	52	42 (22)	神戸大、香川大	91.7%	95 (3)	千葉大、岐阜大、三重大、大阪大、山口大	80	59 (3)	千葉大	91
						117 (11)	北海道大、群馬大、新潟大	78	113 (20)	神戸大	74
16.0 (12.0)	神戸大 過去二カ年平均	49.5	36.7 (17.0)	神戸大 過去三カ年平均	91.6%	97.3 (11.3)	神戸大 過去三カ年平均	76.3	84.3 (15.7)	神戸大 過去三カ年平均	79.7

臨床検査技師			作業療法士		
順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者
1	北里大[医療衛生]	102	1	国際医療福祉大[保健医療]	90
2	藤田保健衛生大	95	2	目白大	52
3	熊本保健科学大	94	3	藤田保健衛生大	45
4	神戸常盤大	87	4	北里大	44
5	岐阜医療科学大	86		日本福祉大	44
	杏林大	86		北海道文教大	44
7	帝京大	81	7	熊本保健科学大	43
	文京学院大	81	8	埼玉県立大	42
9	大東文化大	76	9	川崎医療福祉大	41
10	麻布大	74	10	国際医療福祉大[小田原保健医療]、兵庫医療大	40
13 (1)	大阪大	50	30 (1)	広島大	27
16 (2)	群馬大	43	40 (2)	北海道大	22
	名古屋大	43	44 (3)	名古屋大、鹿児島大	21
22 (6)	神戸大、東北大、新潟大	40	52 (7)	神戸大、金沢大	18
19.7 (6.3)	神戸大 過去三カ年平均	39.7	43.3 (4.7)	神戸大 過去三カ年平均	20.3

○ 各種資格試験・採用試験において、安定して合格者を輩出している。

※合格者数は(人)
カッコ内は国立大学内の順位

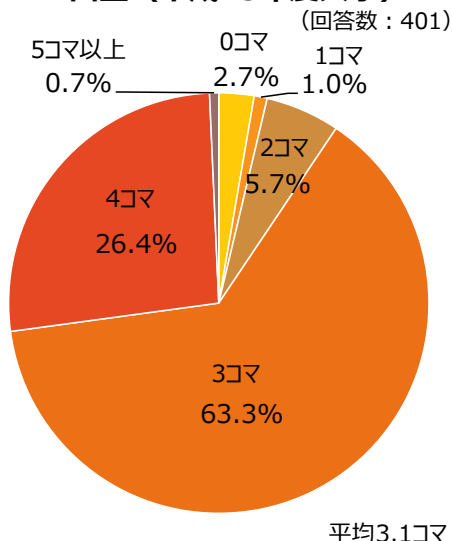
出典：朝日新聞出版「大学ランキング2017年版」より作成。
(データは2015年の数値、過去三カ年平均値は2012～2014年の平均値)

9. 学生生活状況

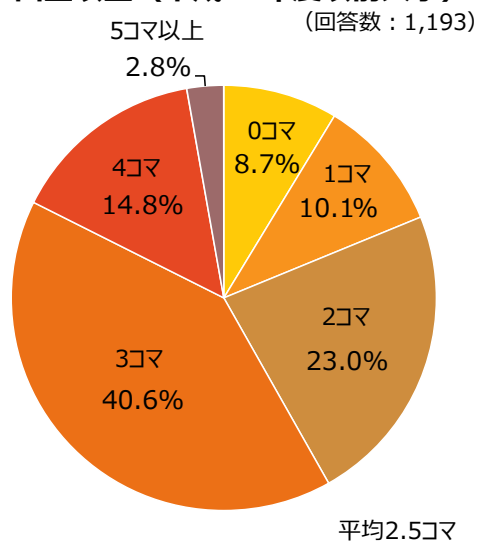
9-1 学部学生の平日 1 日当たりの授業時間（1コマ90分）

- 「1日当たり3コマ」と回答した学生の割合は、1回生が6割、2回生以上が4割であり、双方において最も高い。
- 1日当たり0コマ～2コマと回答した学生の割合は、1回生では1割に満たないが、2回生以上になると全体の4割を占めるようになり、また回答も分散化していることから、学生による差が明確になっている。

1回生（平成25年度入学）



2回生以上（平成24年度以前入学）



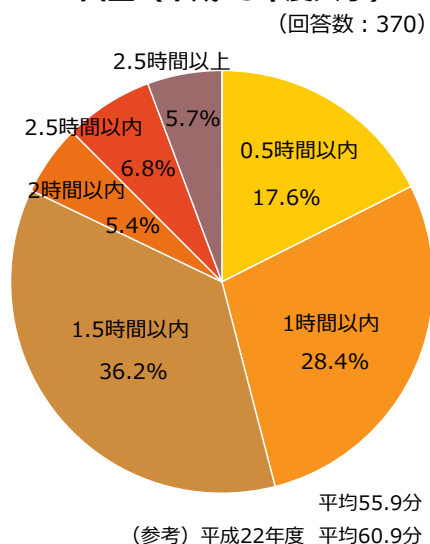
注：四捨五入により小数第一位までの数値を出しているため、合計が100%とまらないデータも存在する。

出典：平成25年度神戸大学学生生活実態調査より作成

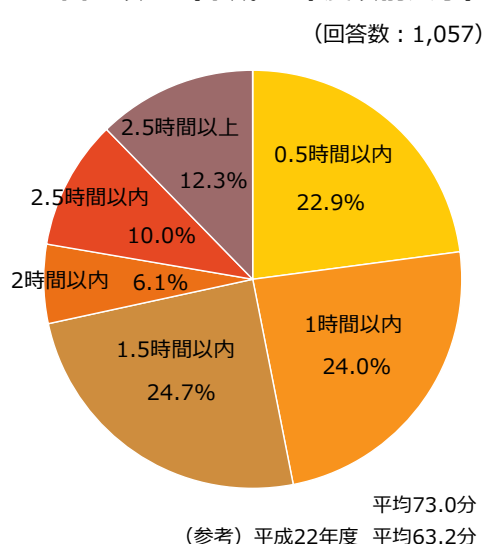
9-2 学部学生の平日 1 日当たりの自主学修時間

- 1回生と2回生以上の双方において「（1時間を超えて）1.5時間以内」と回答した割合が最も高く、1回生4割弱、2回生以上2割強となっている。
- また、2回生以上の学生の方が、「0.5時間以内」と回答または1時間を超えて勉強すると回答した学生の割合が1回生よりもやや高く、分散化していると言える。

1回生（平成25年度入学）



2回生以上（平成24年度以前入学）



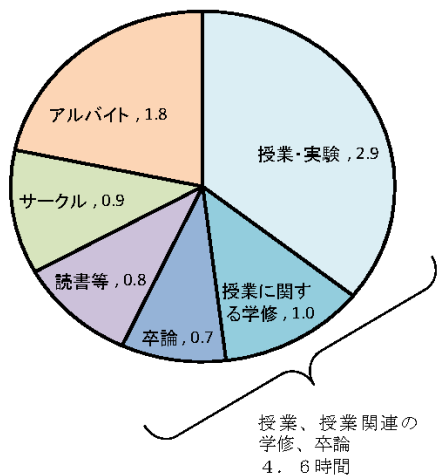
注：四捨五入により小数第一位までの数値を出しているため、合計が100%とまらないデータも存在する。

出典：平成25年度神戸大学学生生活実態調査より作成

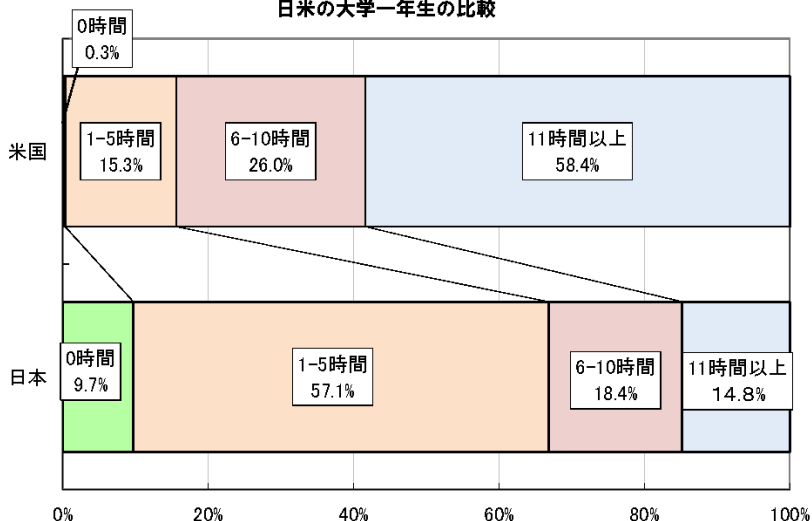
9-3 【参考】学生の学修時間の現状

- 文部科学省 中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（答申）」平成24年8月28日 資料編関連データ58ページ）によると、一日の学修時間は4.6時間とのデータもある。
- 本学と比較すると、一日あたりの授業時間は参考データより長く、自主学修時間は同程度となっている。

学生の活動時間の分布（計 8.2時間）



授業に関連する学修の時間（1週間あたり）
日米の大学一年生の比較



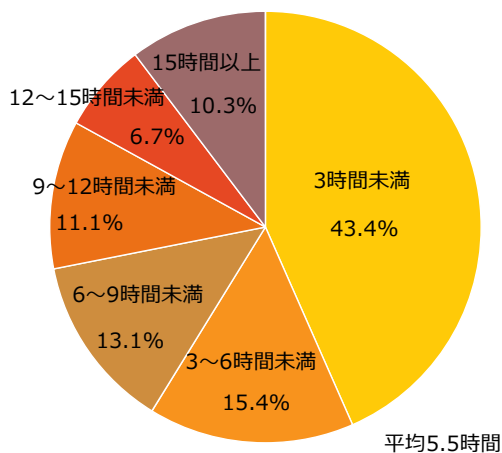
出典：東京大学 大学経営政策研究センター（CRUMP）『全国大学生調査』2007年、サンプル数44,905人
<http://ump.p.u-Tokyo.ac.jp/crump/>
 NSSE（The National Survey of Student Engagement）

9-4 学部学生の1週間当たりの就業時間

- 2回生以上になると就業の時間が増える傾向にある。特に15時間以上の割合をみると、2倍程度増加しており、自宅での学修時間に影響が出ている可能性も考えられる。

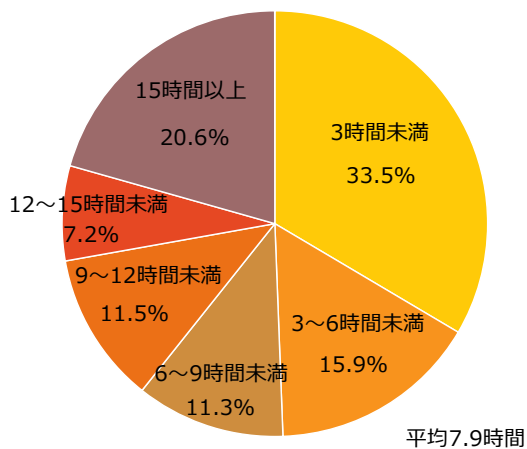
1回生（平成25年度入学）

（回答数：495）



2回生以上（平成24年度以前入学）

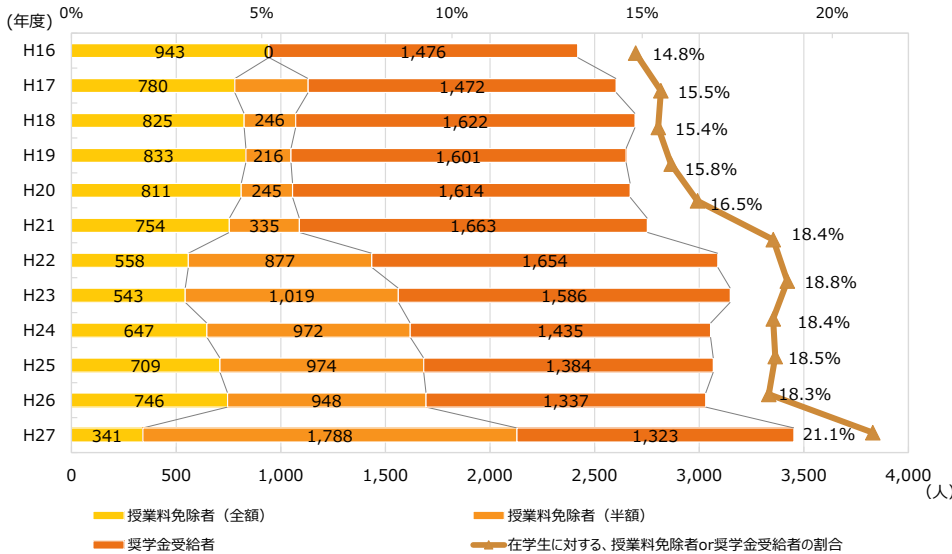
（回答数：1,444）



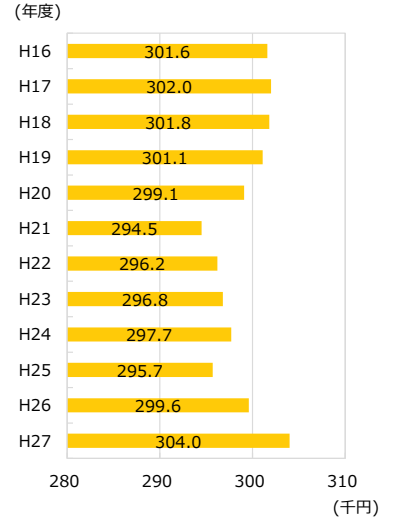
出典：平成25年度神戸大学学生生活実態調査より作成

- 神戸大学では平成22年度より授業料の半額免除枠を拡大し、多くの学生の経済的支援を行っている。平成27年度は広報を見直し、ウェブサイトや入学者用の案内書類等で授業料免除制度を広く周知したことにより申請者数が大幅に増加、それに伴い半額免除者の割合を増やし、許可者数も増加した（免除者数前年度比25%増）。
- 一般労働者の所定内給与額は近年回復傾向にあり、過去12年で最高額となった。一方、授業料免除もしくは奨学金を受給している学生の割合も過去最高の21.1%と、5人に一人は授業料免除もしくは奨学金を受給している状況にある。

授業料免除もしくは日本学生支援機構による奨学金を受給した学生数(延べ人数)及びその割合



所定内給与額の推移



※授業料免除者については、前期分のみ的人数を計上している。

出典(右): 厚生労働省 賃金センサス(賃金構造基本統計調査)より作成

10. 研究論文

10-1 インパクトの高い論文数分析による日本の研究機関ランキング

- 本学の2005年1月から2015年12月の約11年間における高被引用論文数は、国内で**15位**となっている。
- 総合で20位以内にランクインした国立大学は、すべて国立大学法人運営費交付金の支援枠の重点支援3（卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に世界で卓越した教育研究、社会実装を推進する大学）の枠組みであった。
- ただし、出典の「InCites™」は自然科学・生命医学系の学術論文を中心に収録しているデータベースであることに留意が必要である。（「11.研究論文」全体の項目について）

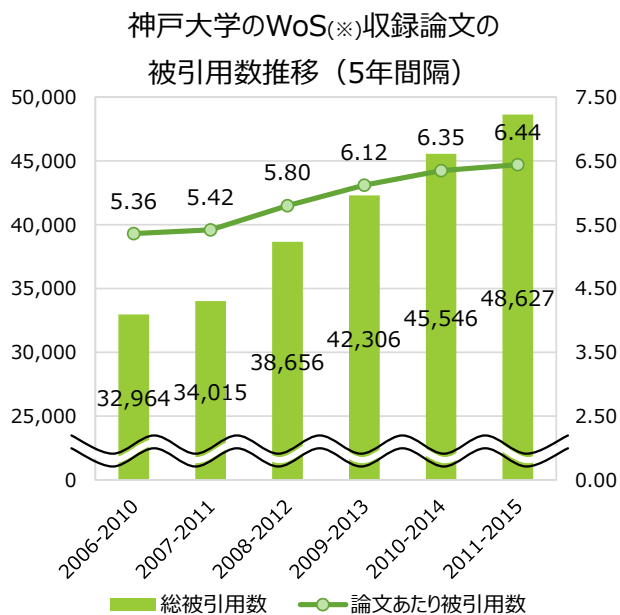
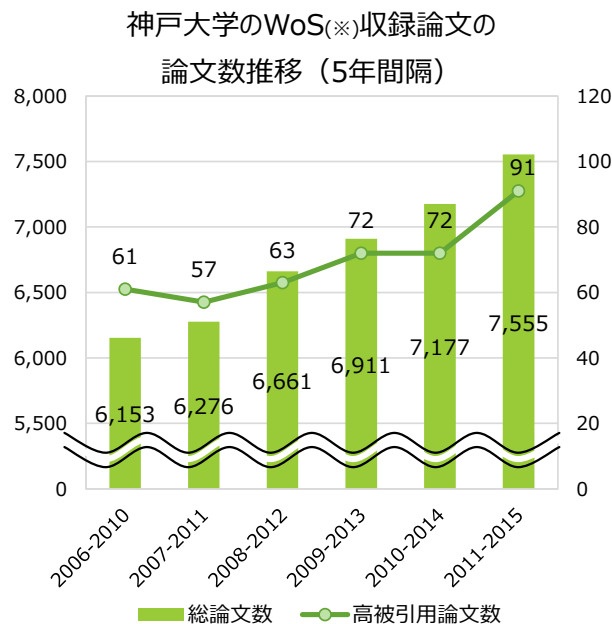
順位	機関名	高被引用論文数	当該大学の論文数に占める割合
1	東京大学	1,303	1.6%
2	京都大学	754	1.2%
3	国立研究開発法人 理化学研究所	624	2.5%
4	大阪大学	559	1.1%
5	東北大学	484	1.0%
6	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	368	1.3%
7	名古屋大学	364	1.1%
8	東京工業大学	286	1.1%
9	九州大学	279	0.8%
10	国立研究開発法人 物質・材料研究機構	273	1.9%
11	筑波大学	247	1.2%
12	北海道大学	206	0.6%
13	岡山大学	183	1.2%
14	広島大学	176	1.0%
15	神戸大学	158	1.1%
16	早稲田大学	156	1.4%
17	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構	149	1.2%
18	慶應義塾大学	143	0.8%
19	大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構	126	2.0%
20	国立がん研究センター	124	2.0%

出典：トムソン・ロイター社プレスリリース「インパクトの高い論文数分析による日本の研究機関ランキングを発表」より

当データは、同社のデータベース「InCites™ Essential Science Indicators™」に収録されている世界の研究機関情報から、同データベースの22研究分野において被引用数が上位1%の高被引用論文を集計し、ランキング化したものである。

10-2 論文の量と質についての比較 - 推移 -

- 総論文数・高被引用論文数・総被引用数・論文あたり被引用数のすべてにおいて増加傾向にあり、特に高被引用論文数において大きな伸びが見られる。



出典：「InCites™ Essential Science Indicators™」より

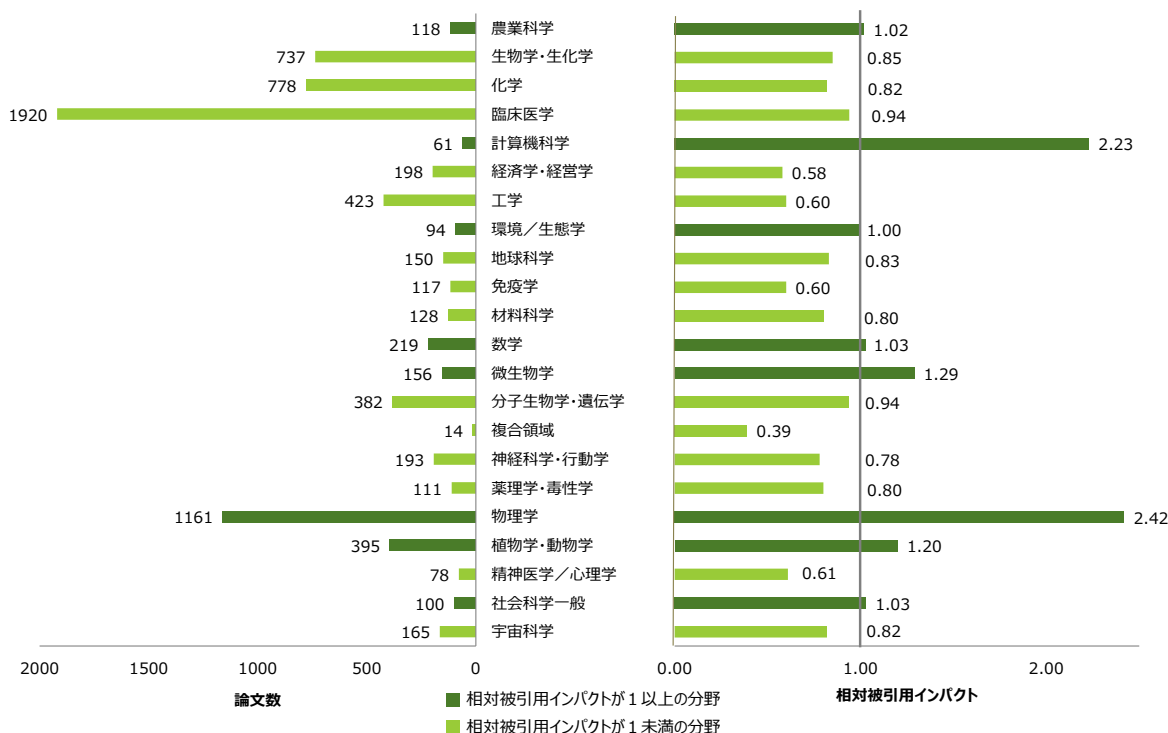
総論文数、高被引用論文数、総被引用数は5年間の累計値となる。なお、データは2016年7月21日現在の数値である。

※「WoS」＝「Web of Science™」（トムソン・ロイター社が提供する学術文献データベース）の略。

10-3 論文の量と質についての比較 - ESI22分野別 -

- InCites™を用いて、本学の研究をESI22分野別に比較した結果である。グラフ内の濃緑色に塗られた分野においては、相対被引用インパクトが世界平均1.0を超えており、質の高い研究が行われていることを示している。

神戸大学の論文のESI22分野別比較



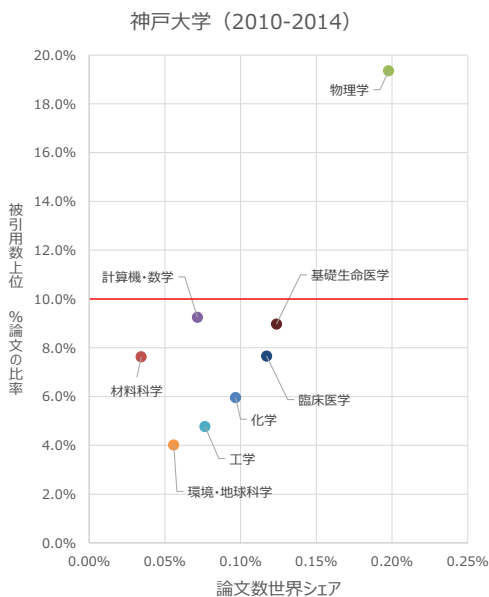
※2011年～2015年の論文において、「InCites™ Essential Science Indicators™」の22分野別でデータを分析。なお、データは2016年7月15日現在の数値である。

○相対被引用インパクト：各分野における1論文あたりの被引用数を世界平均1.0とした場合の相対的な割合を示す数値。

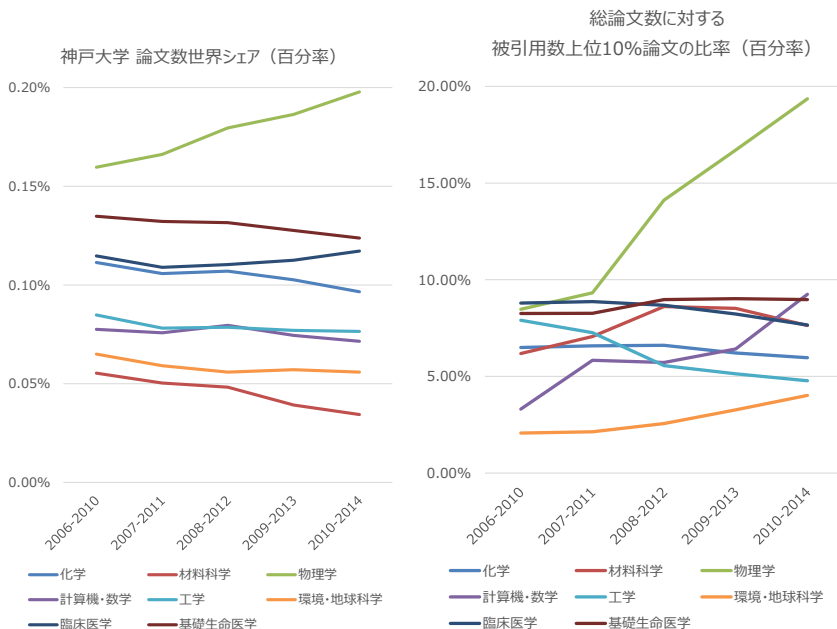
10-4 論文の量と質についての比較 - NS 8 分野別 -

○ 科学技術・学術政策研究所（NISTEP）が定義した研究ポートフォリオ8分野別に、本学の論文を分析した結果である。近年、**物理学分野**で**大きな伸び**を見せている。

◆マッピング



◆推移 (2006-2014年、5年間隔)

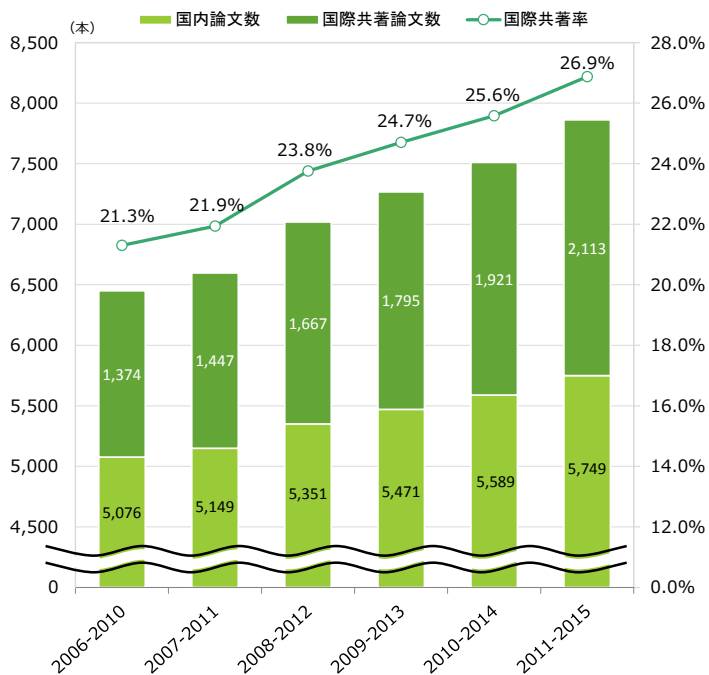


※「InCites™」により、4つのドキュメントタイプ (Article, Letter, Note, Review) の論文について、科学技術政策研究所「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2011」において用いられていた「研究ポートフォリオ8分野 (ESI22分野のうち19分野を再分類したもの)」別にデータを分析した。共著論文のカウント方法は整数カウント法である。また、本データは2016年7月15日現在の数値である。

10-5 論文の量と質についての比較 - 国際共著 -

○ 本学の国際共著論文数・国際共著率はともに**増加傾向**にある。分野別で見ると、物理学や生物学など広い分野で積極的に国際連携して研究を行っていることが分かる。

◆神戸大学の国際共著論文数の推移 (5年毎の合計値)



◆神戸大学の国際共著論文の多い分野 (2011-2015年の合計)

分野名 (Web of Science251分野)	国際共著論文数	国際共著率
PHYSICS, PARTICLES & FIELDS (物理学・粒子・界)	443	91.7%
ASTRONOMY & ASTROPHYSICS (天文学・宇宙物理学)	304	76.4%
PHYSICS, MULTIDISCIPLINARY (物理学・総合)	126	47.0%
BIOCHEMISTRY & MOLECULAR BIOLOGY (生化学・分子生物学)	125	24.7%
PHYSICS, NUCLEAR (物理学・核)	115	91.3%
BIOTECHNOLOGY & APPLIED MICROBIOLOGY (バイオテクノロジー・応用微生物学)	76	21.1%
CELL BIOLOGY (細胞生物学)	72	24.9%
ECONOMICS (経済学)	57	24.7%
PLANT SCIENCES (植物学)	55	24.6%
VIROLOGY (ウイルス学)	51	63.0%
MATHEMATICS (数学)	50	30.5%
GENETICS & HEREDITY (遺伝学・遺伝)	48	27.9%
PHYSICS, APPLIED (物理学・応用)	45	16.7%
NEUROSCIENCES (神経科学)	44	28.8%
IMMUNOLOGY (免疫学)	43	34.4%
MICROBIOLOGY (微生物学)	41	34.5%

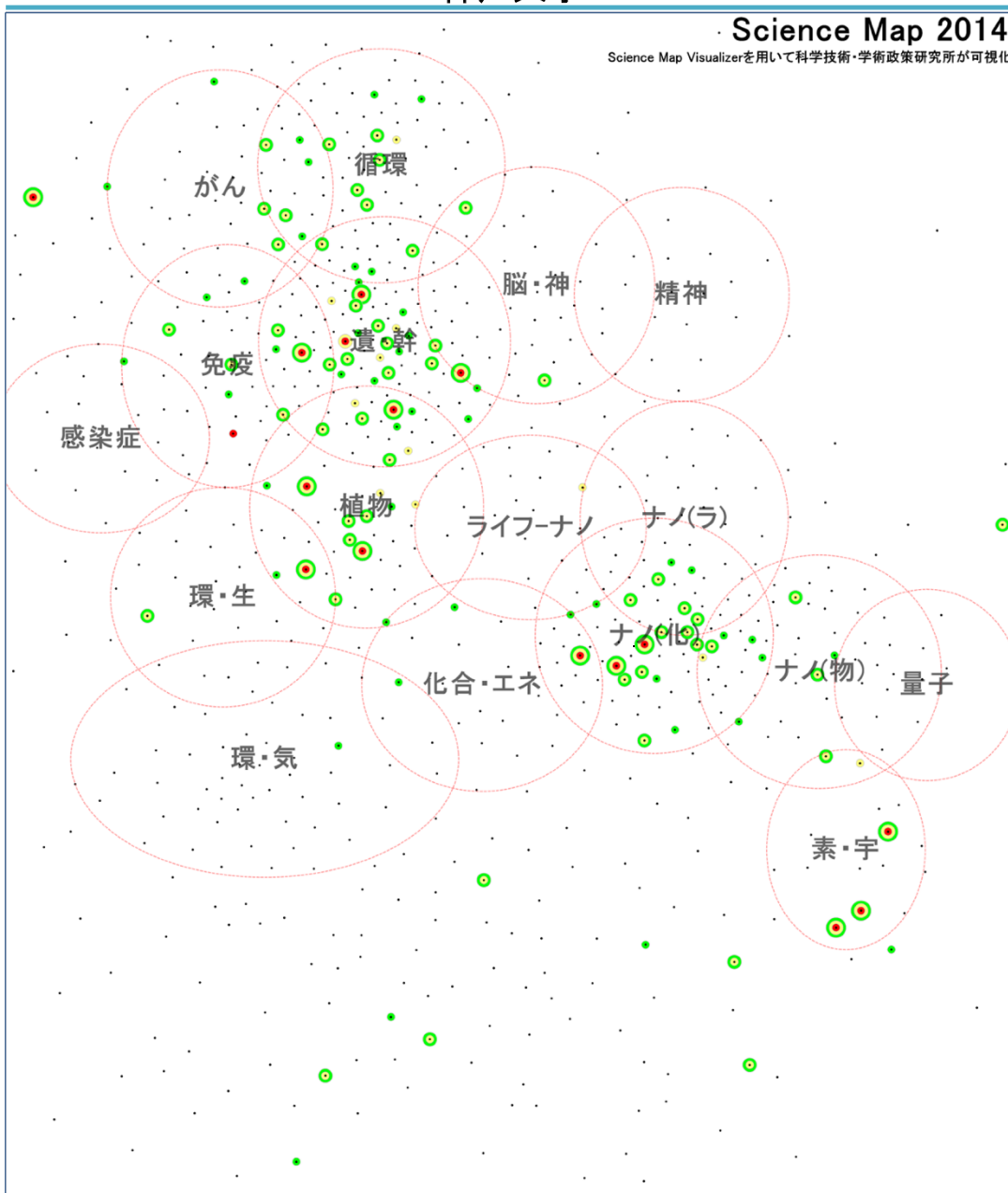
※「InCites™」より、4つのドキュメントタイプ (Article, Letter, Note, Review) の論文についてデータを分析した。また、本データは2016年7月15日現在の数値である。

- NISTEP（科学技術・学術政策研究所）が2016年9月に公表した「サイエスマップ2014」によると、神戸大学では遺伝子発現制御・幹細胞研究、植物・微生物研究、化学的アプローチによるナノサイエンス研究、素粒子・宇宙論研究の4分野を中心に、世界をリードする研究が行われていることがわかる。
- またペーパー数では、コアペーパーは伸び悩んでいるものの、サイティングペーパーは着実に増加している。

サイエスマップとは？

論文データベース分析により国際的に注目を集めている研究領域を定量的に把握し、それらが、互いにどのような位置関係にあるのか、どのような発展を見せているのかを示した科学研究の地図。

神戸大学



◆研究領域群名

- 【がん】 がん研究
- 【循環】 循環器疾患研究
- 【感染症】 感染症・公衆衛生
- 【免疫】 免疫研究（遺伝子発現制御を含む）
- 【遺・幹】 遺伝子発現制御・幹細胞研究
- 【脳・神】 脳・神経疾患研究
- 【精神】 精神疾患研究
- 【植物】 植物・微生物研究（遺伝子発現制御を含む）
- 【環・生】 環境・生態系研究
- 【環・気】 環境・気候変動研究（観測、モデル）
- 【ライフ・ナノ】 生物メカニズムとナノレベル現象の交差（ライフ・ナノブリッジ）
- 【化合・エネ】 化学合成研究・エネルギー創出
- 【ナノ(ラ)】 ナノサイエンス研究（ライフサイエンス）
- 【ナノ(化)】 ナノサイエンス研究（化学）
- 【ナノ(物)】 ナノサイエンス研究（物理学）
- 【量子】 量子物性科学研究
- 【素・宇】 素粒子・宇宙論研究

◆用語

研究領域

2009～2014年の6年間に発行された論文の中で、各年、ESI22分野の被引用数Top1%論文に対し、「共引用」を用いたグループ化を行うことにより得られた844の領域。

コアペーパー

各研究領域を構成しているTop1%論文。

サイティングペーパー

コアペーパーを引用している論文。

- 研究領域のコアペーパー、サイティングペーパー(Top10%)、サイティングペーパーに入っている場合
- 研究領域のサイティングペーパー(Top10%)、サイティングペーパーに入っている場合
- 研究領域のサイティングペーパー(Top10%)に1件入っている場合
- 研究領域のサイティングペーパーに入っている場合(2件以上)
- 参考していない場合

神戸大学	コアペーパー		サイティングペーパーのうちTop10%論文		サイティングペーパー	
	該当領域数	ペーパー数	該当領域数	ペーパー数	該当領域数	ペーパー数
サイエスマップ2008	12	21	79	188	100	592
サイエスマップ2010	26	33	100	207	118	642
サイエスマップ2012	21	53	76	284	106	821
サイエスマップ2014	16	41	79	278	114	926

11. 科学研究費

11-1 平成28年度科学研究費助成事業獲得状況

種 目	新規申請件数	採択件数			新規採択率	配分額（新規+継続）		
		新規	継続	合計		直接経費（千円）	間接経費（千円）	合計（千円）
特別推進研究	2	0	0	0	-	0	0	0
	0	0	0	0	-	0	0	0
新学術領域研究	82	7	20	27	8.5%	177,600	53,280	230,880
	79	11	22	33	13.9%	343,760	100,848	444,608
基盤研究(S)	12	1	4	5	8.3%	129,300	38,790	168,090
	6	1	4	5	16.7%	131,590	38,610	170,200
基盤研究(A)	62	9	16	25	14.5%	195,700	58,710	254,410
	40	7	19	26	17.5%	216,700	64,980	281,680
基盤研究(B)	221	74	112	186	33.5%	667,800	200,340	868,140
	204	47	115	162	23.0%	586,800	176,040	762,840
基盤研究(C)	393	149	311	460	37.9%	501,150	150,345	651,495
	387	156	316	472	40.3%	522,960	156,888	679,848
挑戦的萌芽研究	261	62	98	160	23.8%	175,738	51,780	227,518
	237	74	67	141	31.2%	164,400	49,320	213,720
若手研究(A)	18	5	10	15	27.8%	64,600	19,380	83,980
	18	6	9	15	33.3%	74,600	22,380	96,980
若手研究(B)	283	81	120	201	28.6%	211,200	63,360	274,560
	237	81	128	209	34.2%	211,900	63,570	275,470
研究活動スタート支援	34	-	8	8	-	7,400	2,220	9,620
	53	12	12	24	22.6%	22,600	6,720	29,320
国際共同研究加速基金※	-	-	16	16	-	144,700	43,410	188,110
	32	15	0	15	46.9%	133,700	40,110	173,810
合 計	1,368	388	715	1,103	28.4%	2,275,188	681,615	2,956,803
	1,293	410	692	1,102	31.7%	2,409,010	719,466	3,128,476

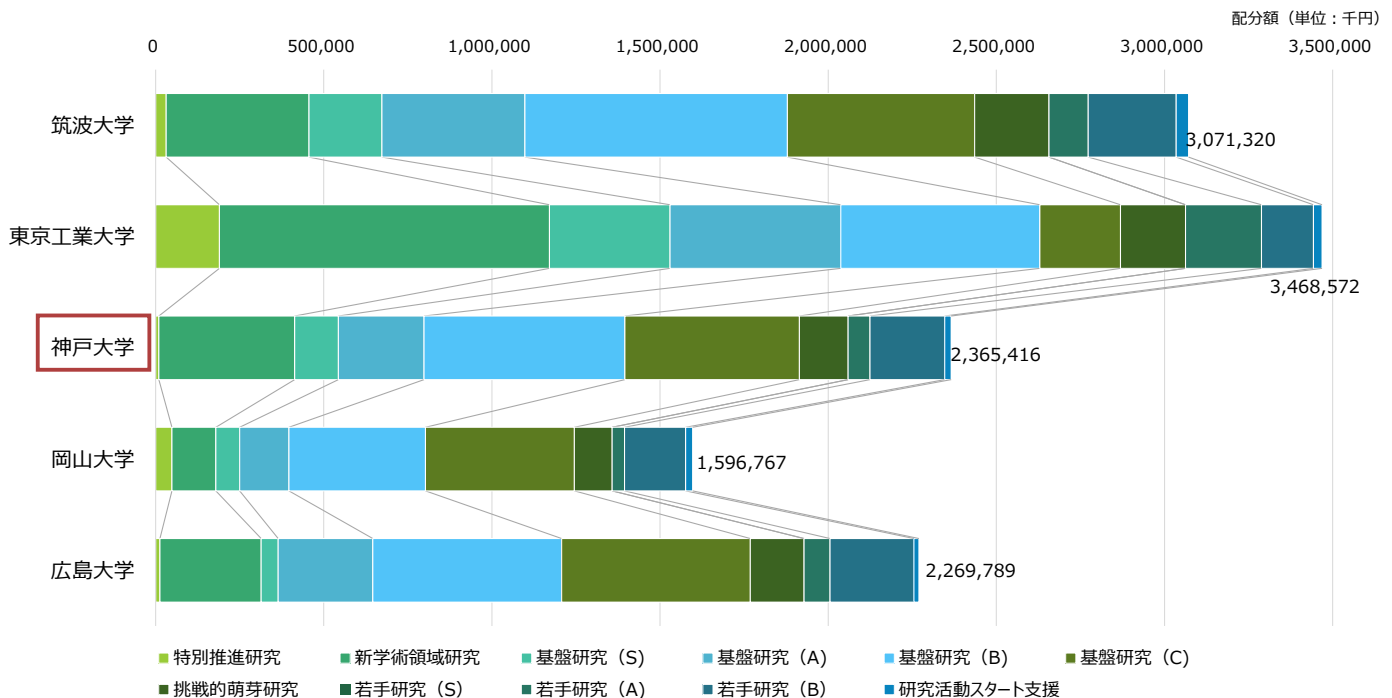
上段：平成28年度採択状況（H28.7現在）
 下段：平成27年度採択状況（最終版） □
 ※表中の件数欄の「-」は申請中を示す。

※国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

平成27年度から公募が始まった新規研究種目である。交付内定（採択）は、平成28年1月29日であったが、交付申請時期が平成29年3月31日まで猶予されており、かつ、研究機関として交付申請した日より研究及び契約の開始ができ、おつて入金されるものである。よつて、平成27年度採択状況の金額は、平成27年度中に交付申請した2件についてのみ記入しており、残りの13件については、平成28年度中に交付申請をした場合は、継続課題にて計上する予定である（辞退の可能性あり。辞退届も平成28年度中の提出が決まっている）。

なお、新規採択15件のうち、2件は、平成27年10月以降の転入者（他機関所属中に応募し、本学異動後に採択が判明したものが1件、他機関所属中に応募・採択の後、交付申請をする前に本学へ異動したものが1件）である。

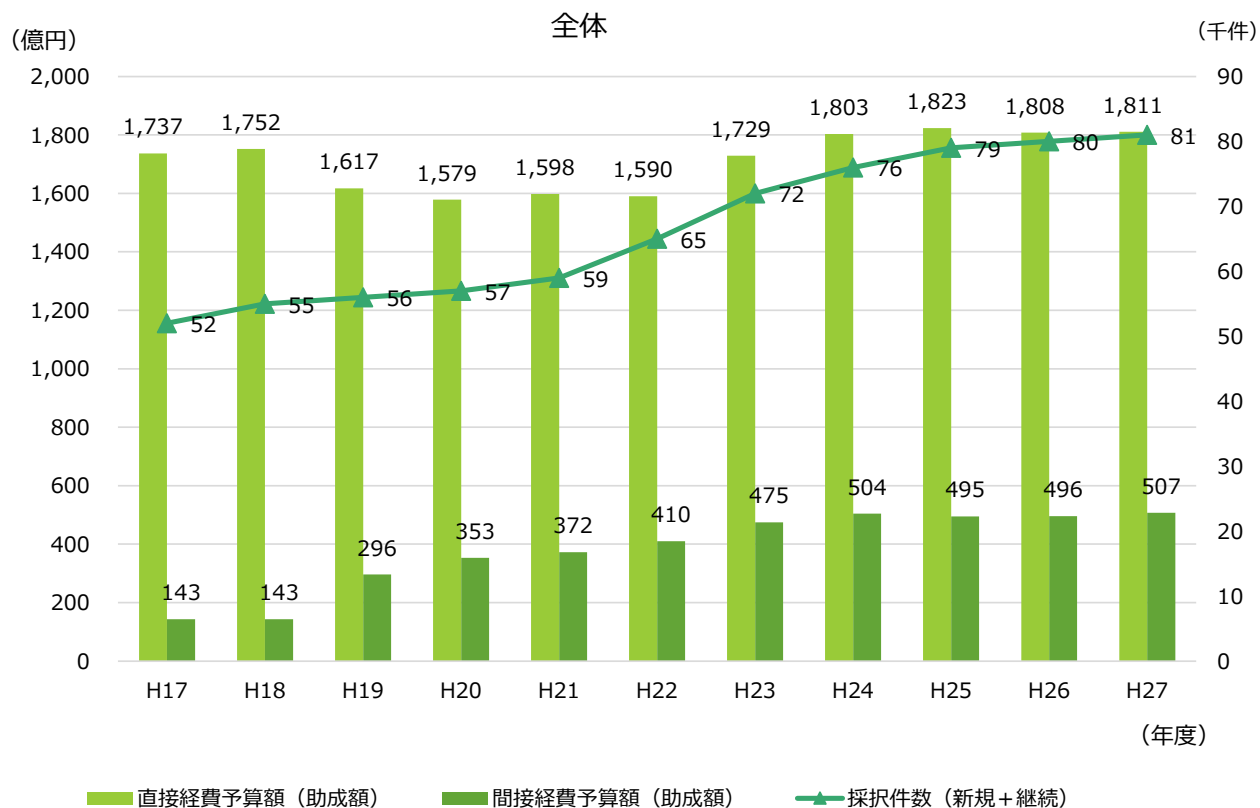
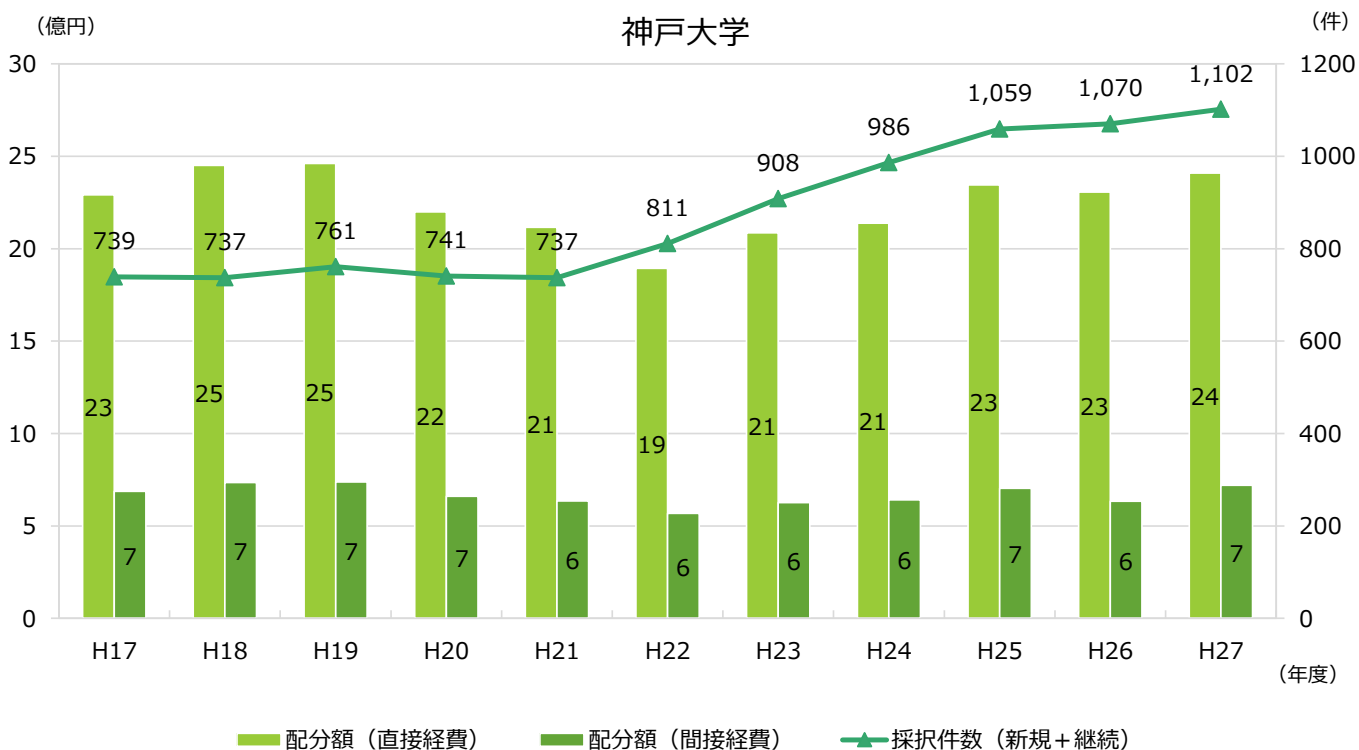
11-2 平成26年度科学研究費助成事業獲得状況



注：配分額は直接経費相当額のみ。
 出典：各大学財務諸表（平成26年度版）より作成

11-3 科学研究費助成事業採択状況 - 推移 -

○ 科研費の採択件数はH21年度以降著しく増加していたが、近年は緩やかな伸びになっている。配分額についても、採択件数に比例して、緩やかな増加にとどまっている。これは、科学研究費助成事業全体の傾向と類似している。

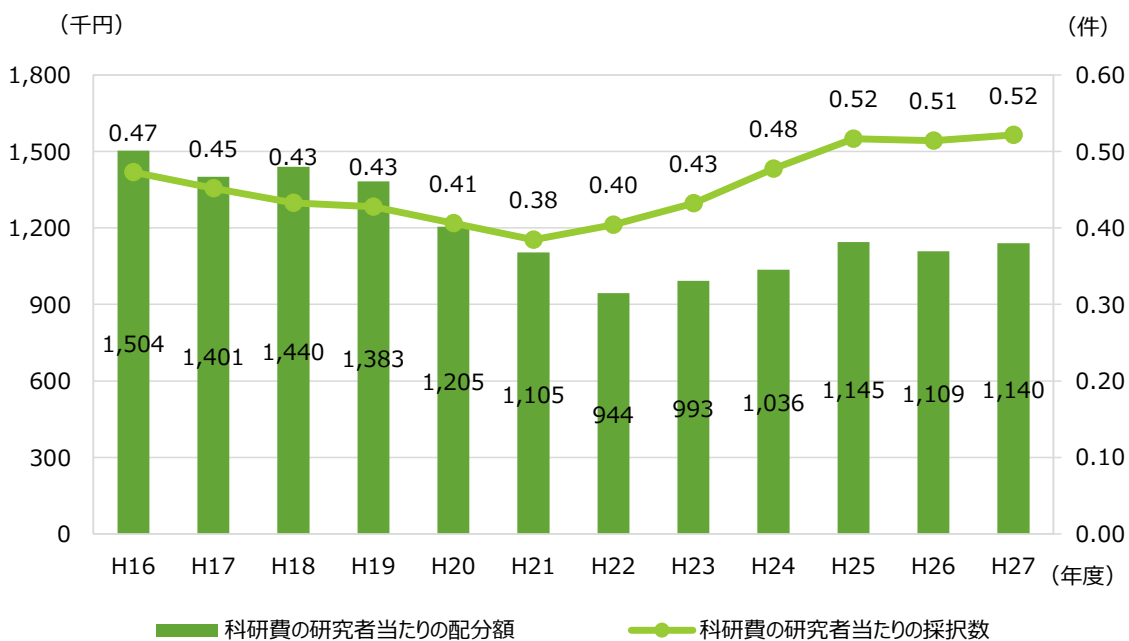


※H22までは、予算額=助成額、H23以降は助成額を記載。

出典：日本学術振興会ウェブサイトから作成。

11-4 科研費の研究者当たりの配分額・採択数 — 推移 —

減少を続けていた科研費の研究者当たりの配分額及び採択数は平成21～22年度に底を打ち、近年は緩やかではあるが増加に転じている。

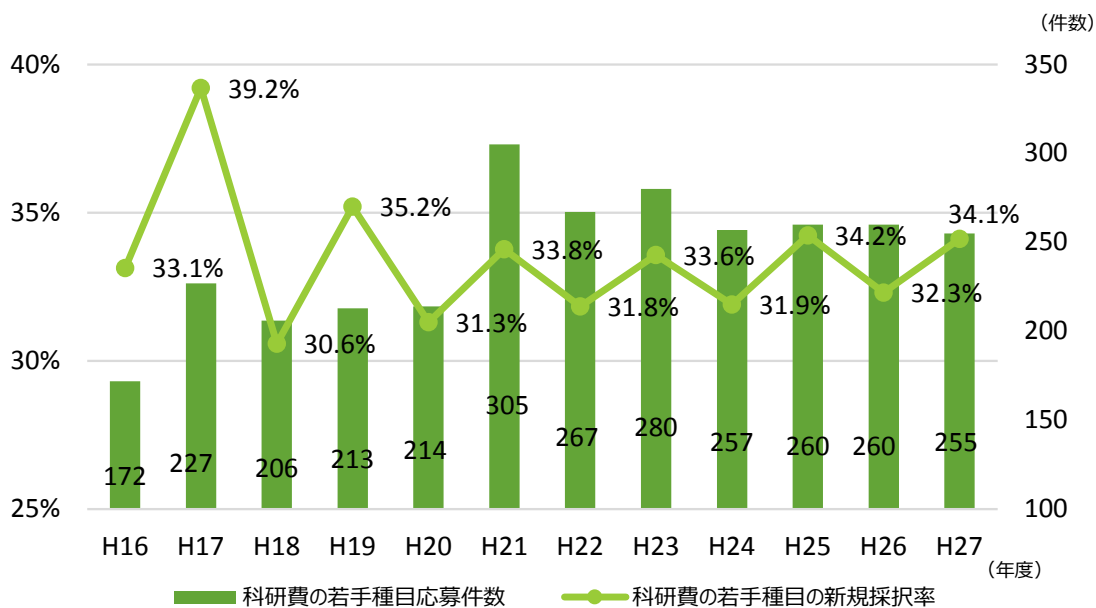


※科研費の研究者当たりの配分額 = 採択額（直接経費） / 科研費応募資格者

※科研費の研究者当たりの採択数 = 科研費採択件数（新規 + 継続） / 科研費応募資格者

11-5 科研費若手種目の新規採択率と応募件数 — 推移 —

科研費の若手種目の応募件数及び新規採択率は、どちらもここ数年ほぼ横ばいの状態が続いている。

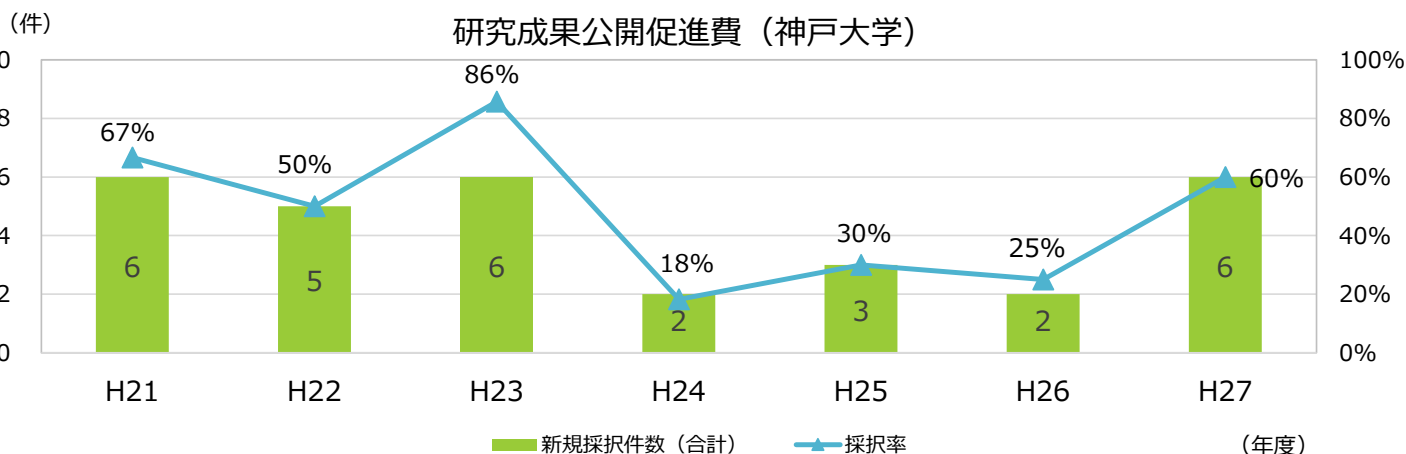


※科研費の若手種目の新規採択率 = 新規採択件数（若手研究(A) + 若手研究(B)) / 応募件数（若手研究(A) + 若手研究(B)）

○ 研究成果公開促進費とは？

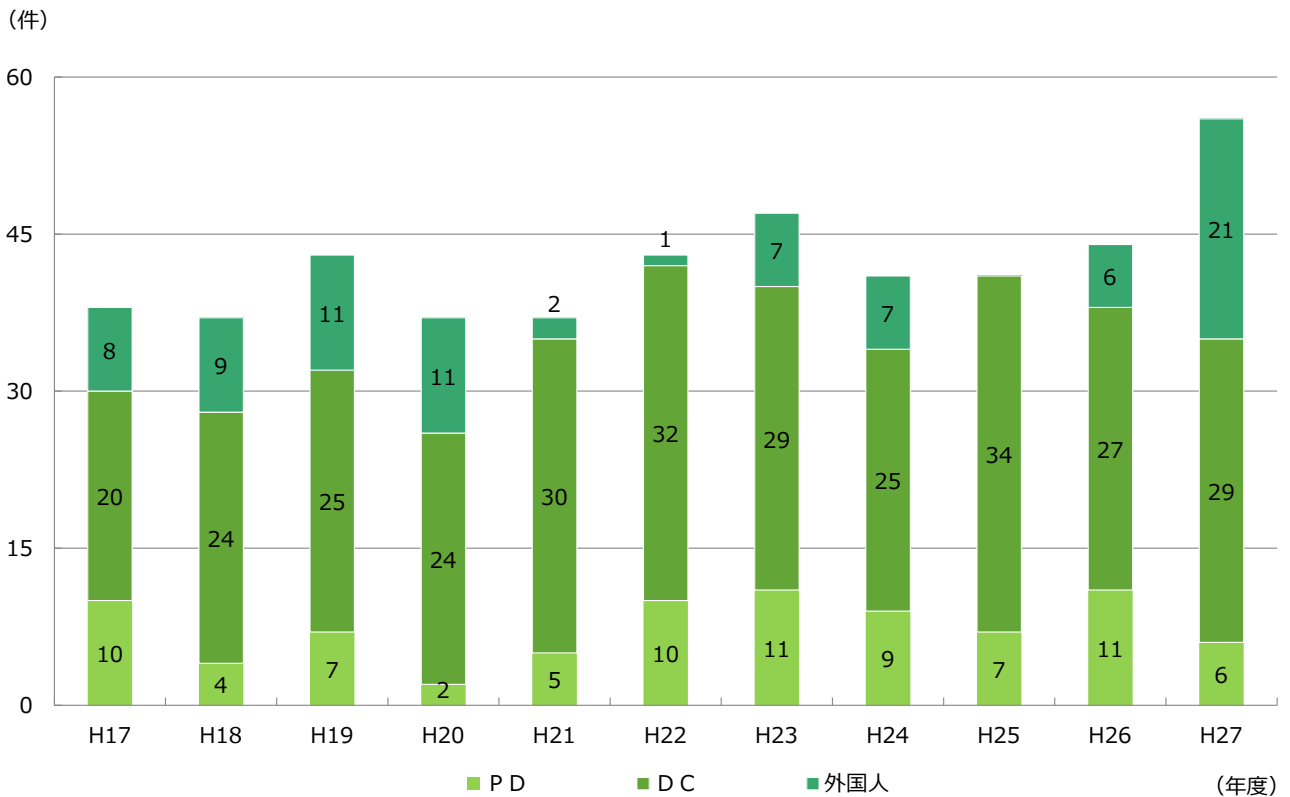
科学研究費助成金の種目で、研究成果の公開発表、重要な学術研究の成果の発信及び、データベースの作成・公開について助成することによって、我が国の学術の振興と普及に資するとともに、学術の国際交流に寄与することを目的とするものであり、優れた研究成果の公的流通の促進を図るものである。

- 本学の新規採択率は近年低迷していたが、平成27年度は、新規採択件数 6 件、採択率60%となり、前年度実績を大きく上回った。

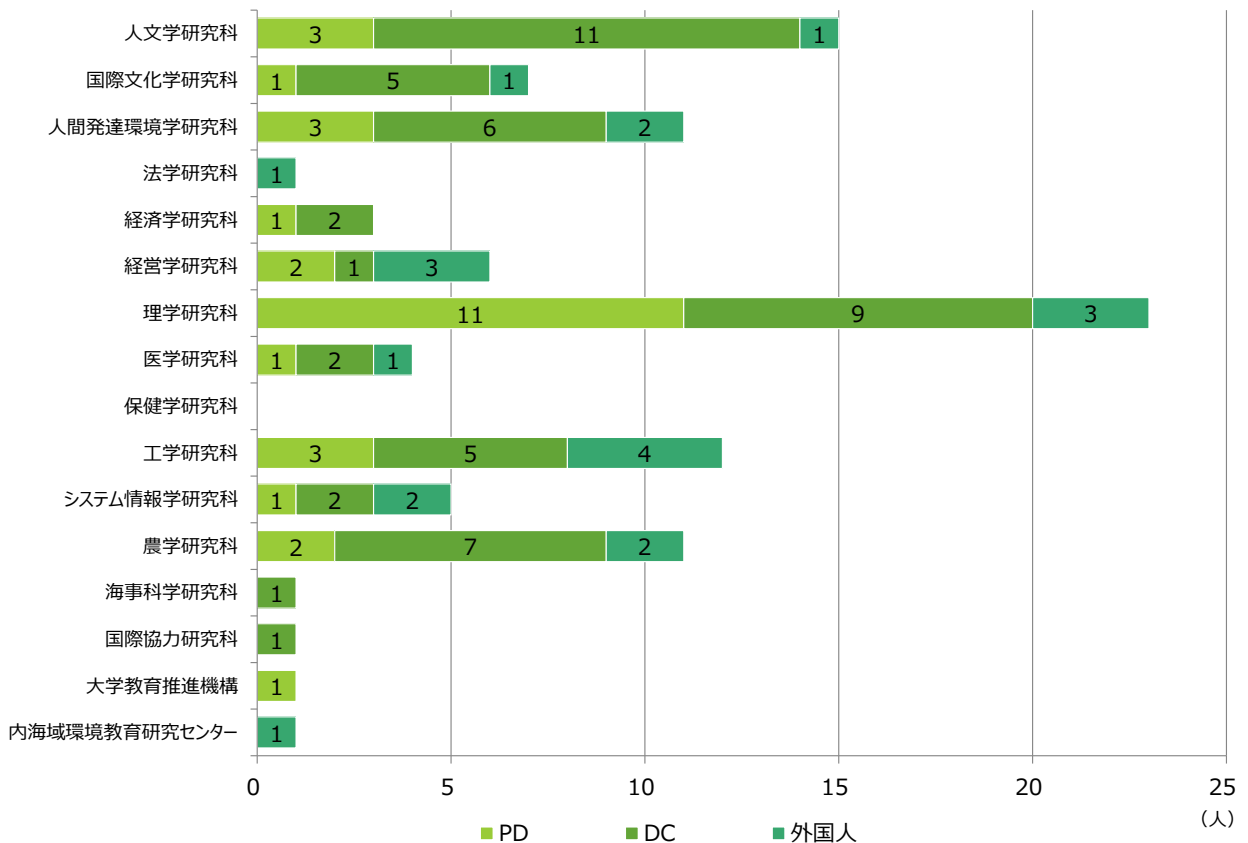


12. 日本学術振興会特別研究員

12-1 全学の受入れ状況 - 新規 -



12-2 研究科別受入れ状況 - 在籍者 -



※平成27年度内に在籍した者を集計。

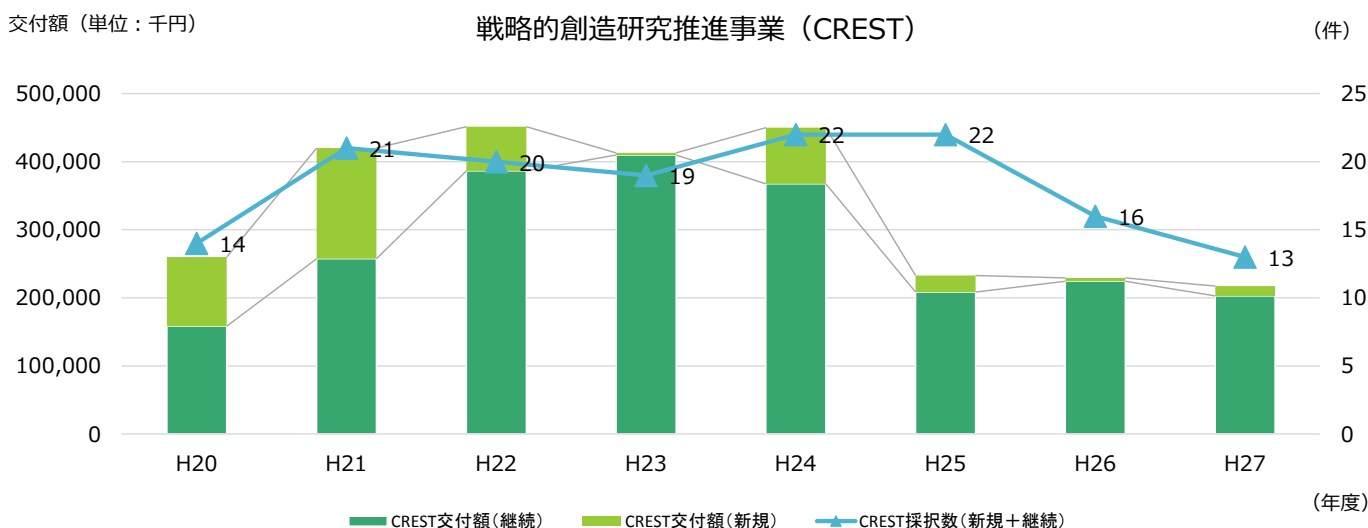
13. 研究プログラムの採択状況

13-1 戦略的創造研究推進事業 – CREST –

○ 「CREST」とは？

国が定める戦略目標の達成に向けて、課題型基礎研究を推進し、科学技術イノベーションを生み出す革新的技術シーズを創出するためのチーム型研究プログラムである。現在、神戸大学においては以下のプログラムが採択されている。

○ 採択件数については、平成21年度以降20件前後を保ってきたが、近年下降気味である。



CREST 継続中のプログラム一覧（代表研究のみ）

プログラム名・取組名	実施担当部署	概要
活性酸素生成抑制システムの非破壊評価系の確立とフィールドへの応用～危機早期診断システムの構築～	農学研究科	ROSマーカー測定装置とパルス照射装置開発を目的に、分光計器によるプロトタイプ作成に向けて、光合成解析に必要な検出感度、シグナル安定性、光応答の正確さなどの検証を行う。ROSマーカーとROS生成の因果関係、の検証を目的に、ROSマーカーの変動に伴うROSの生成とそれに伴う脂質ラジカル・脂質アルデヒドの蓄積を実験室レベルで、明らかにする。ROS耐性と生育の相関関係の検証を目的に、耐性コムギのフィールド、栽培試験で、生葉レベル・個体レベルにおけるROS蓄積と障害を明らかにしていく。
ネクチンとアフアディンによる海馬神経回路形成と可塑性の機構	医学研究科	本研究計画における中心的な役割を果たし、生化学、分子生物学、細胞生物学や電気生理学およびライブイメージング技術などを用いた研究全般を行う。海馬神経回路形成と機能発現における、ネクチンとアフアディンおよびその関連分子による神経細胞の標的細胞認識や、シナプスの形態形成と機能制御およびシナプス可塑性に着目して研究を行う。また、ノックアウトマウスの作成と維持・管理を行い、動物個体を用いた研究全般を行う。分子・細胞レベルで明らかにされた結果をもとに変異マウスの作成および解析を行い、海馬における神経回路の形成と機能発現の分子機構を個体レベルで明らかにする。
包括的メタボロミクスによるバイオマーカー探索、ならびに、医療質量分析システム開発	医学研究科	各種検体採取条件を揃えた質の高い臨床検体を、標準作業手順(Standard Operating Procedure)に基づいて収集し、その臨床検体を用いて、がん診断、抗がん剤効果・毒性予測マーカー候補のメタボロミクスによる探索を開始する。さらに、神戸大学、熊本大学、島津製作所との間で協議を行い、安定定量測定技術の開発、および、測定技術の自動化促進に向けて、問題点の洗い出しを行うとともに、技術開発に向けた方向性を決定する。
癌細胞の浸潤・転移を司る細胞膜の張力を介したシグナル伝達機構の解明	バイオシグナル総合研究センター	細胞膜の張力が、浸潤・転移を制御しているか解析するために必要となる、細胞膜の張力を誘導的に操作できる細胞株を樹立する。

13-2 戦略的創造研究推進事業 — さきがけ —

○ 「さきがけ」とは？

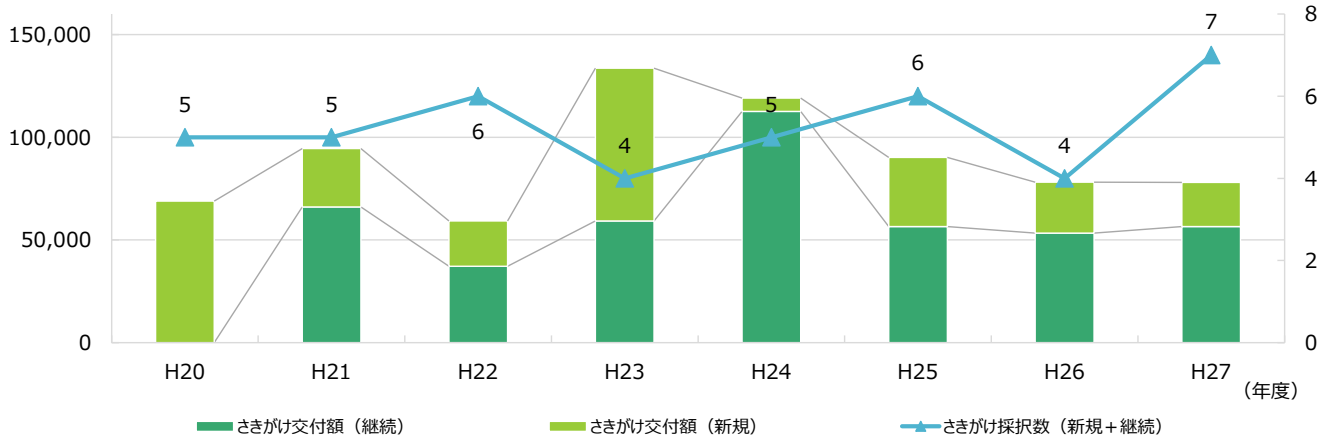
戦略目標に基づいて未来のイノベーションの芽を育む個人型研究プログラムである。現在、神戸大学においては以下のプログラムが採択されている。

- 採択件数については、平成27年度には新規と継続プログラムを合わせて7件と、過去最多の採択数となった。

交付額（単位：千円）

戦略的創造研究推進事業（さきがけ）

（件）



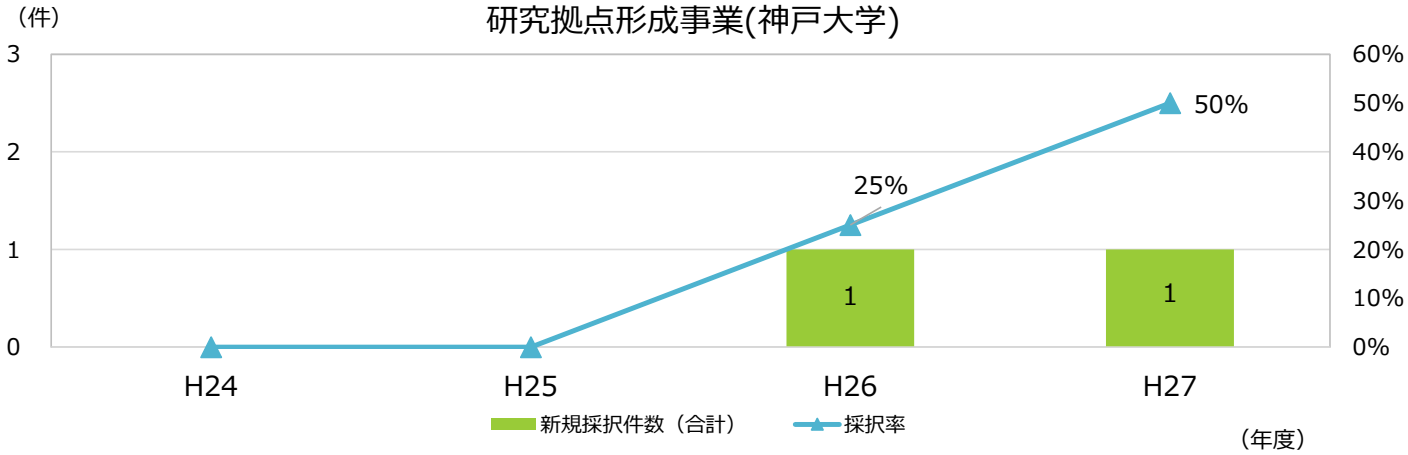
さきがけ 継続中のプログラム一覧

プログラム名・取組名	実施担当部署	概要
実世界指向ユーザーインターフェース実現のための動作認識基盤の確立	工学研究科	実世界における人とコンピュータとの自然なインタラクションを実現するために、ユーザの状況や動作を高度に理解し、それをユーザーインターフェースに応用するための基盤技術を確立する。人間の複合動作の分解や、即時性を高めた動作認識などの要素技術により、実世界において認識技術をインターフェースに適用する場合に生じる問題を解決したシステムプラットフォームを構築する。
骨を要とする多臓器恒常性維持機構の解明	附属病院	脳・神経による骨代謝制御を介した骨髄造血システムコントロールという多臓器間ネットワークを解明し、これまでの脳の制御機能とは違った角度から体中を俯瞰する末梢臓器「骨」の新たな制御機能の知見を創造することにより、臓器間ネットワークを利用し、既存の薬剤による本来の薬効と違った利用法による新たな治療や効果的に予防する先制医療へ応用する。
雑種強勢の分子機構の解明とその高バイオマス作物への活用	農学研究科	植物の生産量を増加させるためには、バイオマスの増加に関する分子機構の解明や、それに関わる遺伝子の同定が必要である。本研究では、収量増加に対する効果が既に明らかとなっている雑種強勢に関わる遺伝子の同定を試みる。また、同定された遺伝子の機能を明らかにし、育種の効率化、高バイオマス作物の作出に活用し、ナタネ等の有用作物の生産量の増加を可能にしたいと考えている。
ナノ粒子の高次空間制御による高効率光エネルギー変換系の創製	理学研究科	金属酸化物ナノ粒子が三次元的に規則正しく配列した超構造体である金属酸化物メソ結晶を開発する。結晶面、粒子間接合界面、細孔空隙を含む不均一界面で起こる分子拡散や物質変換過程を1分子レベルで蛍光観測することで、これまで明らかにされていなかった反応の特異性を見出す。さらに、メソ結晶の構造的・物理化学的特徴を生かした異種材料との複合化により、メソ結晶を基盤とした新たな高効率光エネルギー変換系を構築する。
気候変動と病原菌の進化に頑強な作物設計システムの構築	先端融合研究環	病害抵抗性のコムギ育種と絶対寄生菌による抵抗性崩壊という軍拡競争の悪循環を断ち切るために、従来の感染初期における病害抵抗性強化を目指す研究と一線を画した別の「絶対寄生菌の寄生持続性の攪乱による病害抵抗性強化」というコンセプトのもと、気候変動と絶対寄生菌の進化に頑強なコムギ設計システムの構築を目指す。このシステムを実現するために必要なバイオマーカーの単離を研究期間における達成目標とする。
脳性麻痺障害者の個人適応型コミュニケーション支援システムの開発	都市安全研究センター	脳性麻痺（構音）障害者の発話内容を健常者が聴き取る事が困難な場合がある。なぜなら、脳性麻痺障害者の発話様式は健常者と全く異なり、更に筋肉の緊張から生じる発話様式の変動が非常に大きくなる点など、様々な問題が存在するからである。本研究では、このような問題の解決に向けて、音声と顔部位画像の統合による発話認識及び話者性を維持しながら聴き取りやすい声への声質変換の実現を目指す。
「提示系心理情報学」確立のためのウェアラブルシステムプラットフォーム	工学研究科	本研究では、ヘッドマウントディスプレイやスマートフォンなどに表示される情報を常時閲覧する環境において、私たちがいかに提示情報に影響されるのか、あるいは、情報閲覧によって情報を上手く活用したときに、我々がいかに健康に幸せに生きられるのかを明らかにし、その影響を予測可能な形で定式化を試みる。その理論をベースに、情報提示ガイドラインの策定や応用システムの作成などへの適用し、提示系心理情報学と呼ぶ新たな研究分野の開拓を目指す。

○ **研究拠点形成事業とは？**

我が国において先端的かつ国際的に重要と認められる研究課題、または地域における諸課題解決に資する研究課題について、我が国と世界各国の研究教育拠点機関をつなぐ持続的な協力関係を確立することにより、当該分野において世界的水準または地域における中核的な研究交流拠点の構築とともに、次世代の中核を担う若手研究者の育成を目的とした事業である。

○ 本学における平成27年度の新規採択率は、50%であった。



14. 文化勲章受章者等一覧

○所属教員

賞名等	氏名	決定年	所属（旧所属）	官職
【文化勲章】	西塚 泰美	昭和63年	医学部	教授・学長
【文化功労者】	西塚 泰美	昭和62年	医学部	教授・学長
	五百旗頭 真	平成23年	法学研究科	名誉教授
	中井 久夫	平成25年	医学部	名誉教授
【紫綬褒章】	岩井 誠三	平成元年	医学部	教授
	三嶋 豊	平成6年	医学部	教授
	天野 明弘	平成12年	経営学部	教授
	岡村 均	平成19年	医学系研究科	教授
	春日 雅人	平成19年	医学系研究科	教授
	清野 進	平成23年	医学研究科	教授
【ウルフ賞】	西塚 泰美	平成6年	医学部	教授・学長
【アルバート・ラスカー医学研究賞】 基礎医学研究賞	西塚 泰美	平成元年	医学部	教授・学長
【ガードナー国際賞】	西塚 泰美	昭和63年	医学部	教授・学長
【朝日賞】	西塚 泰美	昭和61年	医学部	教授・学長
	戸田 達史	平成20年	医学研究科	教授
【京都賞】基礎科学部門	西塚 泰美	平成4年	医学部	教授・学長
【女性化学賞】	相馬 芳枝	平成23年	自然科学研究科	客員教授・特別顧問
【武田医学賞】	西塚 泰美	昭和57年	医学部	教授・学長
	春日 雅人	平成19年	医学系研究科	教授
	高井 義美	平成26年	医学研究科	教授

※本学在籍時の受章等のみ掲載

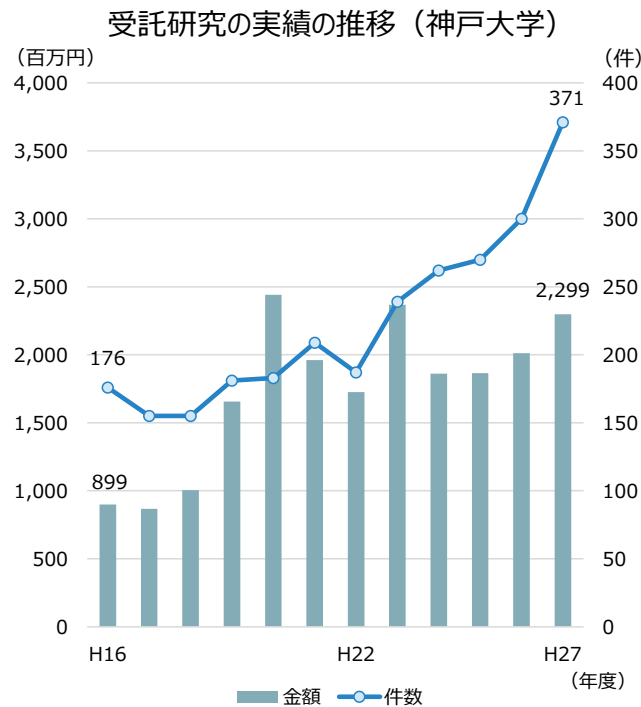
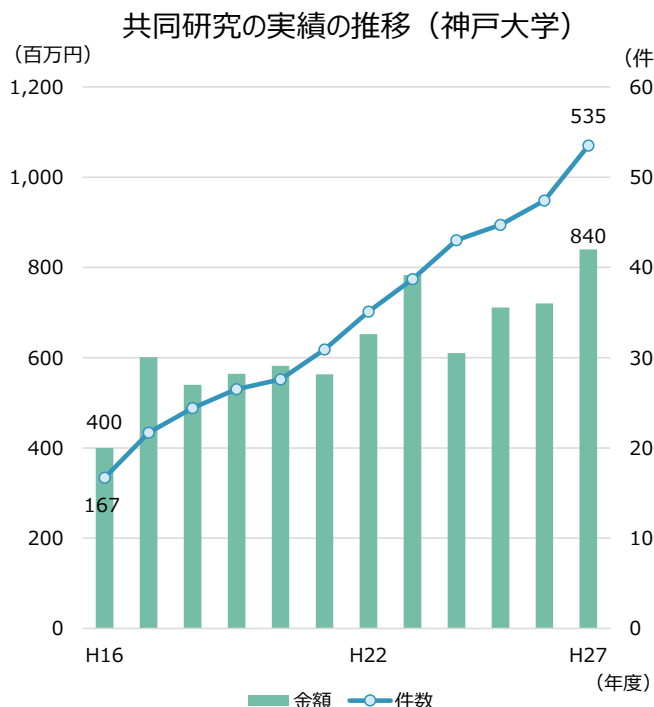
○神戸大学出身者の主な受賞一覧

氏名	賞名等	受賞部門	決定年	卒業校等
河合 隼雄	【朝日賞】	-	平成9年	神戸工業専門学校卒 (神戸大学工学部の前身)
山中 伸弥	【ノーベル賞】	生理学・医学賞	平成24年	神戸大学医学部卒
	【文化勲章】	-	平成24年	
	【ウルフ賞】	医学部門	平成23年	
	【アルバート・ラスカー医学研究賞】	基礎医学研究賞	平成21年	
	【ガードナー国際賞】	-	平成21年	
	【ミレニアム技術賞】	-	平成24年	
	【京都賞】	先端技術部門	平成22年	
	【武田医学賞】	-	平成20年	
脇田 晴子	【文化勲章】	-	平成22年	神戸大学文学部卒
	【朝日賞】	-	平成2年	神戸大学工学部卒
佐川 真人	【日本国際賞】	-	平成24年	神戸大学大学院工学研究科修了
	【ノーベル賞】	物理学賞	昭和48年	兵庫県師範学校附属小学校高等科 (神戸大学附属中等教育学校の前身)
【文化勲章】	-	昭和49年		
【日本国際賞】	-	平成10年		
野依 良治	【ノーベル賞】	化学賞	平成13年	兵庫師範学校男子部附属小学校卒 (神戸大学附属小学校の前身)
	【文化勲章】	-	平成12年	
	【ウルフ賞】	化学部門	平成13年	
	【朝日賞】	-	平成4年	

15. 産学官連携状況

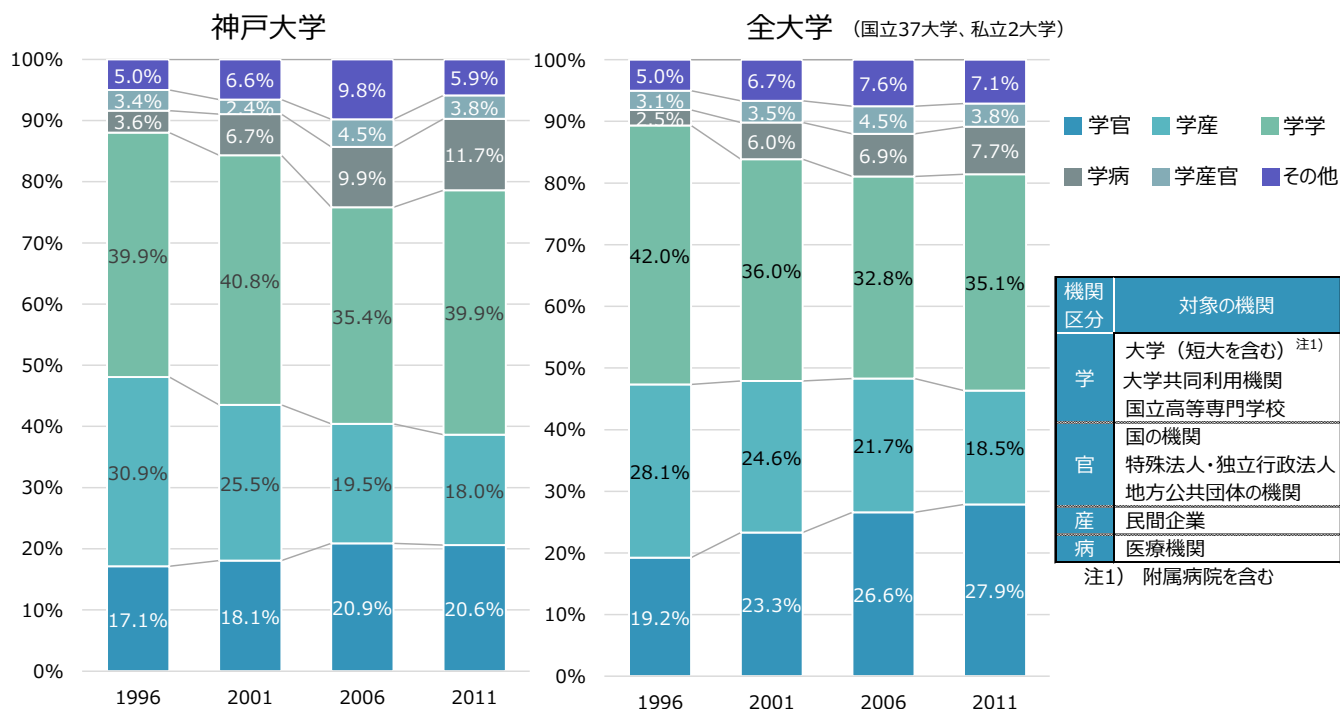
15-1 共同研究・受託研究の状況

○ 本学の共同研究・受託研究については、いずれも順調に件数を伸ばしており、特に平成27年度の受託研究の件数は、前年度比約24%増と飛躍的に増加した。



15-2 共著関係から見る産学官連携パターン

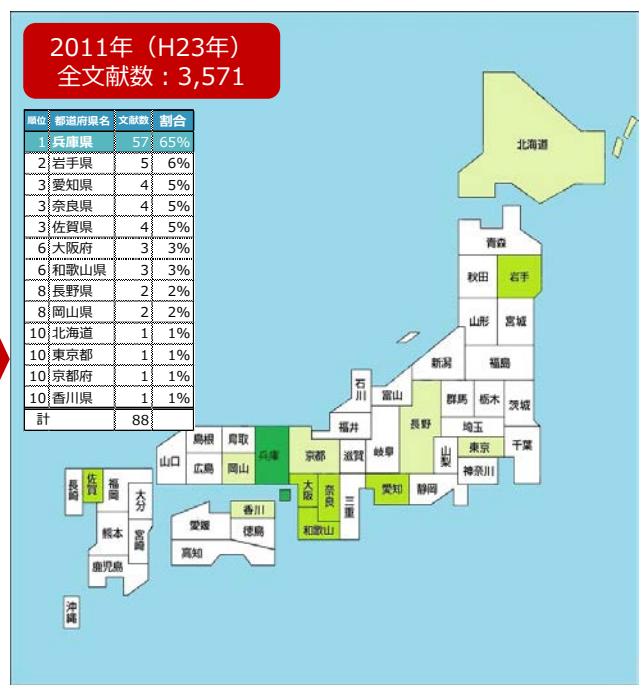
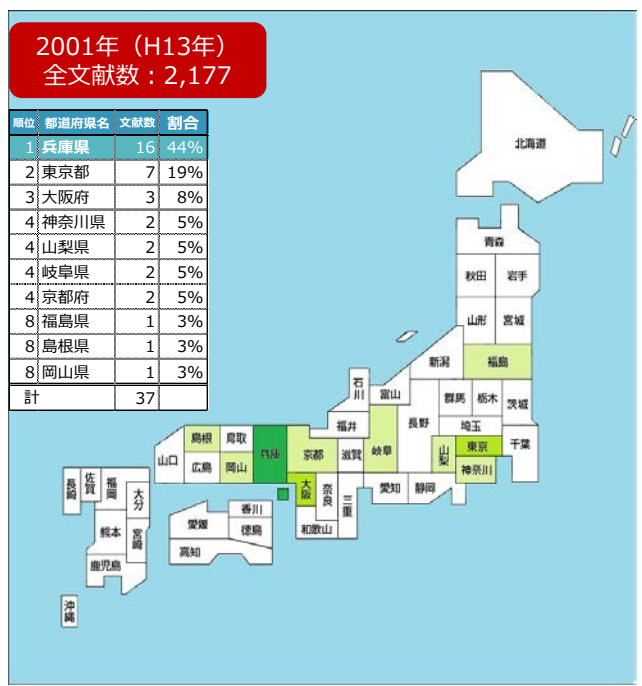
○ JSTが収集しデータベース化している予稿集・会議録記事の書誌データによると、全国的には学官連携、学病連携の比率が上昇傾向にあるが、神戸大学では比較的学官連携の伸びは小さく、学病連携の伸びが大きいことがわかる。（2011年では全国平均の約1.5倍）



※出典：科学技術振興機構（JST）「共著関係から見る産学官連携パターン」より作成

15-3 地方公共団体関係機関との共著文献数

- 神戸大学と公設試験研究機関などの地方公共団体の機関との共著関係に着目し、その連携度合いを色の濃さで判別することができるよう日本地図上に表したもの。大学が「地域のハブ」とどのくらい連携しているかを捉えている。
- 10年間で共著文献数は37件から88件へと約2.5倍に増えており、地方公共団体との連携が確実に進んでいることがわかる。



出典：科学技術振興機構（JST）「地域との連携（各県の共著関係）」、「地域との連携（対象文献数）」より作成

15-4 マッチングプランナープログラム(研究成果展開事業) 採択数ランキング

- 神戸大学は、平成27年度探索試験（第1回、第2回の合計数）で **2位**、平成28年度企業ニーズ解決試験で **5位**であり、科学技術イノベーション研究を重視する本学の特徴が現れているといえる。

◆平成27年度探索試験

順位	研究機関名	採択数	採択数	
			第1回	第2回
1	大阪大学	13	11	2
2	神戸大学	12	9	3
3	名古屋工業大学	11	11	0
	大阪府立大学	11	11	0
	山形大学	11	8	3
6	大阪府立産業技術総合研究所	8	5	3
	北海道大学	8	3	5
	東北大学	8	3	5
	九州大学	8	2	6
10	大阪市立工業研究所	7	7	0
11	岐阜大学	6	6	0
	名古屋大学	6	6	0
	岩手大学	6	4	2
	金沢大学	6	3	3
	徳島大学	6	3	3
	鹿児島工業高等専門学校	6	3	3
17	信州大学	5	5	0
	関西大学	5	5	0
	岡山大学	5	5	0
	埼玉大学	5	4	1
	静岡大学	5	4	1
	中部大学	5	4	1
	大阪市立大学	5	4	1
	琉球大学	5	4	1
	熊本大学	5	2	3
	早稲田大学	5	1	4
	愛媛大学	5	1	4

以下省略(全126機関)

◆平成28年度企業ニーズ解決試験

順位	研究機関名	採択数
1	大阪府立大学	11
2	九州大学	9
3	関西大学	8
	山口大学	8
5	神戸大学	7
6	大阪市立大学	6
	長崎大学	6
8	岩手大学	5
	東北大学	5
	産業技術総合研究所	5
	大阪大学	5
	近畿大学	5
	広島大学	5
	熊本大学	5
	大分大学	5

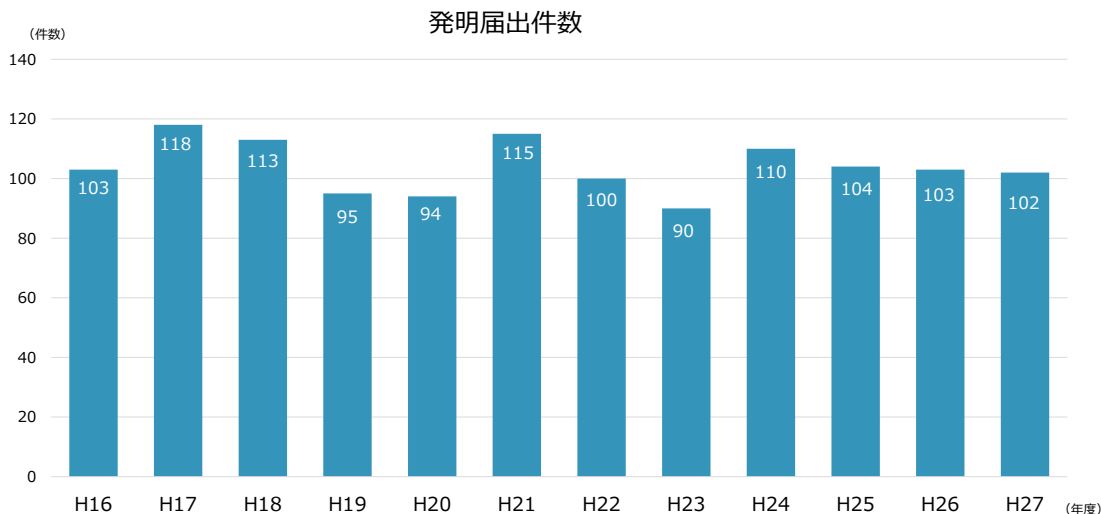
以下省略(全113機関)

マッチングプランナープログラムとは

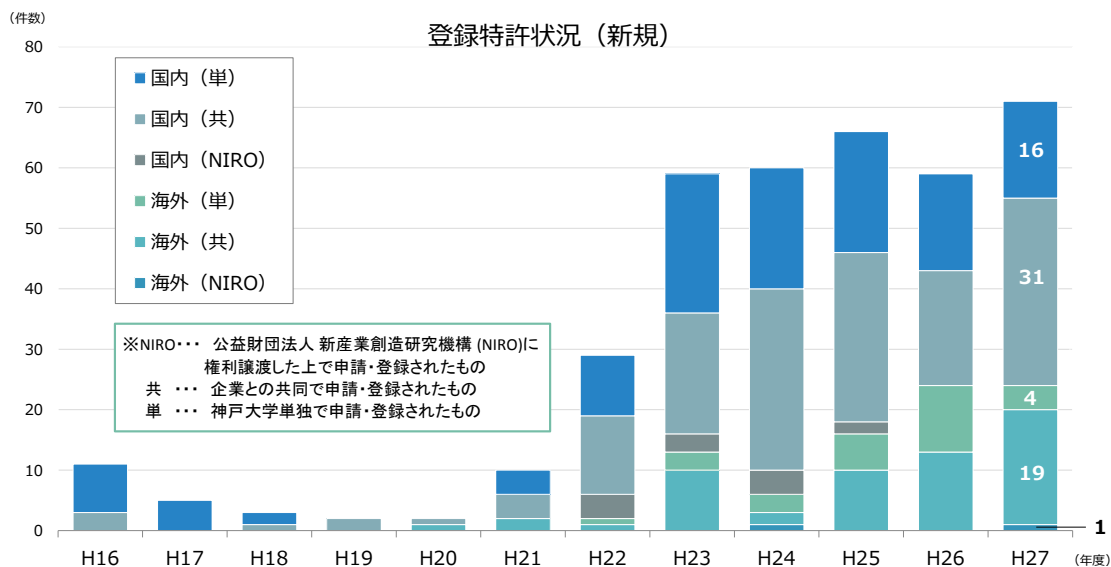
地域における企業の開発ニーズを戦略的に把握し、全国の大学等の研究成果、知的財産の中からその解決に資するものを結びつける専門人材「マッチングプランナー」を配置して企業の開発ニーズを解決し、高付加価値・競争力のある地域科学技術イノベーションを創出することを目的としたプログラム。

出典：科学技術振興機構（JST）HP（マッチングプランナープログラム採択課題掲載ページ）より作成

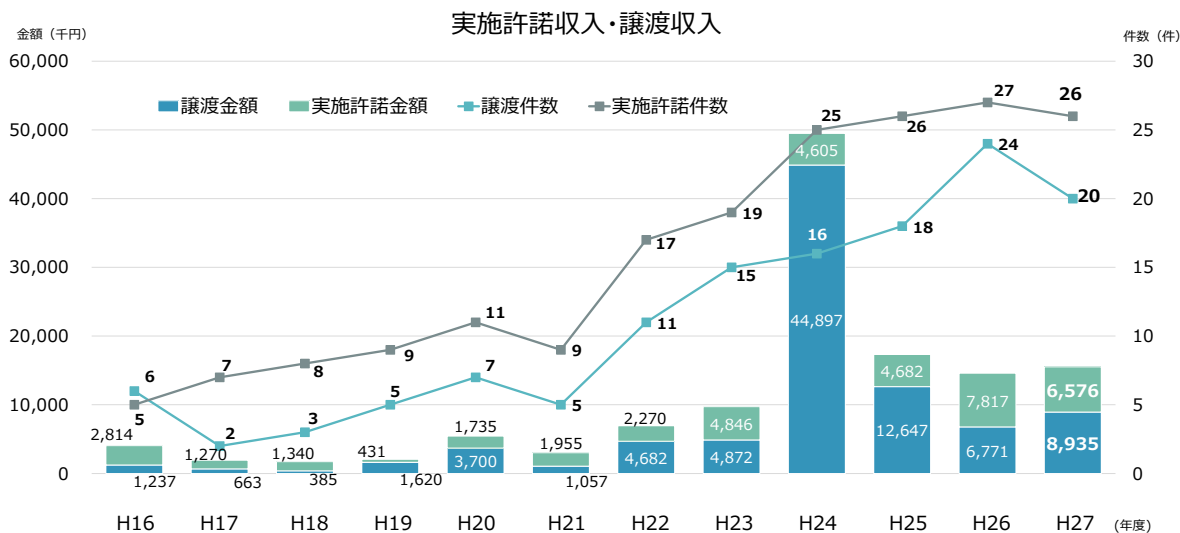
○ 発明届出件数は、過去11年間、**100件程度/年**を推移している。



- 登録特許は、平成21年度以降**増加傾向**。特許の登録には、通常申請から5～6年の審査期間を要するため、法人化後に特許申請に力を注いできたことが、この時期から結果として現れている。
- 近年は**60件/年**程度を推移しており、**平成27年度には71件**に増加した。



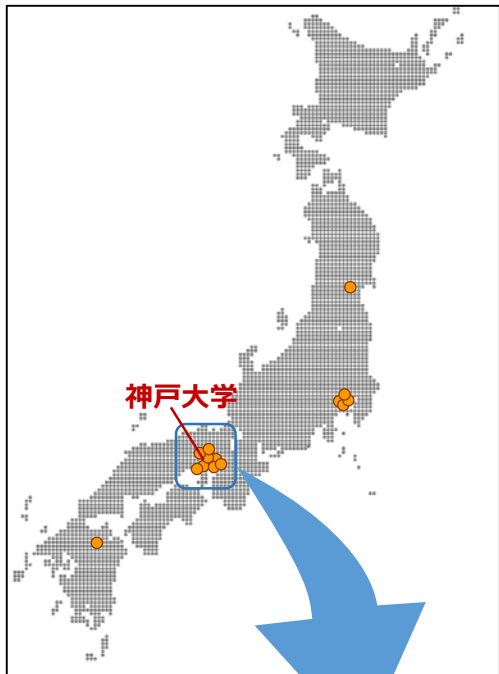
- 実施許諾件数、譲渡件数は平成26年度まで**増加傾向**であったが、平成27年度は減少となった。しかし、平成16年度と比較すると、**約3～5倍**と大きく伸びていることがわかる。



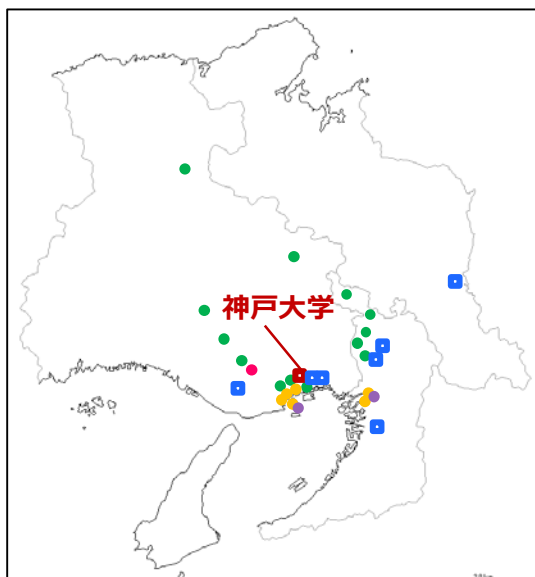
16. 国内の大学等との連携協定

○ 神戸大学は、国内の数多くの機関や企業と連携協定を結び、研究・教育・医療の各分野において、充実した社会発展への寄与に取り組んでいる。

◆ 大学間連携協定等締結状況 (H28.5.1現在)



◆ 近畿地方の大学間連携協定等締結先 (H28.5.1現在)



- = 大学(本部所在地)
- = 自治体等(庁舎等所在地)
- = 民間企業(本社所在地)
- = 国立研究開発法人等(所在地)
- = 官公庁(庁舎)

(注) このページにて記されている連携協定は神戸大学が締結した「大学間連携協定等」であり、部局において締結された連携協定については記載していない。

○ 東北地方の連携先との大学間連携協定

区分	協定名称	協定締結機関	締結日
大	国立大学法人神戸大学と国立大学法人東北大学との災害科学分野における連携協力に関する協定	東北大学	H23.10.23

○ 関東地方の連携先との大学間連携協定等 (一部近畿地方の連携先含む)

区分	協定名称	協定締結機関	締結日
大・研	国立大学法人神戸大学、兵庫県立大学及び独立行政法人海洋研究開発機構 ^(※) の教育研究に関する包括協定	兵庫県立大学 国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC)	H19.8.6
大	一橋大学、神戸大学及び大阪市立大学における教育交流に関する協定	一橋大学 大阪市立大学	H22.2.1
民	国立大学法人神戸大学と一般社団法人日本プロジェクト産業協議会との連携協力に関する協定	一般社団法人日本プロジェクト産業協議会	H26.4.1
	国立大学法人神戸大学と一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携協力に関する協定	一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	H26.6.23
独	国立大学法人神戸大学と独立行政法人国際協力機構との連携協定	(独) 国際協力機構 (JICA)	H23.3.1
研	国立大学法人神戸大学と独立行政法人海洋研究開発機構 ^(※) との包括連携協定	国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC)	H24.12.20
	現代中国地域研究に関する研究協力協定	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	H25.8.1

○ 近畿地方の連携先との大学間連携協定等

区分	協定名称	協定締結機関	締結日
大	国立大学法人神戸大学と学校法人神戸薬科大学との連携に関する協定	神戸薬科大学	H19.7.17
	国立大学法人神戸大学と国立大学法人京都大学との計算科学分野における連携協力に関する協定	京都大学	H22.4.1
	京都大学、大阪大学及び神戸大学における相互の協力に関する協定	京都大学、大阪大学	H25.12.21
自	国立大学法人神戸大学と神戸市灘区との連携協力に関する協定	神戸市灘区	H16.12.2
	国立大学法人神戸大学と小野市との連携協力に関する協定	小野市	H17.1.26
	国立大学法人神戸大学と兵庫県朝来郡生野町(現・朝来市)との連携協力に関する協定	朝来市	H17.3.23
	国立大学法人神戸大学と加西市との連携協力に関する協定	加西市	H21.5.19
	国立大学法人神戸大学と兵庫県との連携に関する協定	兵庫県	H22.8.2
	国立大学法人神戸大学と篠山市との連携協力に関する協定	篠山市	H22.8.30
	教員養成のための神戸大学と豊能地区3市2町教育委員会との連携協力に関する協定	大阪府豊能地区(豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町)教育委員会	H24.12.18
	国立大学法人神戸大学と神戸市との連携に関する協定	神戸市	H25.5.24
	三木市と国立大学法人神戸大学との連携に関する協定	三木市	H25.6.27
	神戸大学と兵庫県教育委員会との連携に関する協定	兵庫県教育委員会	H26.1.30
	国立大学法人神戸大学と神戸市教育委員会との連携に関する協定	神戸市教育委員会	H27.11.6
民	国立大学法人神戸大学と川崎重工業株式会社との産学連携の推進に関する協定	川崎重工業株式会社	H18.10.23
	連携協力協定	本州四国連絡高速道路株式会社	H21.7.1
	神戸大学と池田銀行(現・池田泉州銀行)の連携協力に関する協定	池田泉州銀行	H21.8.6
	国立大学法人神戸大学と株式会社カネカとの包括的な産学連携推進に関する協定	株式会社カネカ	H22.12.14
	国立大学法人神戸大学と株式会社神戸新聞社との連携に関する協定	㈱神戸新聞社	H26.7.7
	国立大学法人神戸大学とバンドー化学株式会社との包括的な産学連携推進に関する協定	バンドー化学株式会社	H26.9.24
	国立大学法人神戸大学と阪神高速道路株式会社との連携に関する協定	阪神高速道路株式会社	H27.12.15
	国立大学法人神戸大学と独立行政法人理化学研究所 ^(※) 計算科学研究機構との計算科学、計算機科学及びこれらに関連する分野における連携・協力に関する協定	国立研究開発法人理化学研究所計算科学研究機構 (AICS)	H24.5.15
	独立行政法人防災科学技術研究所 ^(※) 兵庫耐震工学研究センターと国立大学法人神戸大学との連携に関する協定	国立研究開発法人防災科学技術研究所兵庫耐震工学研究センター	H26.9.29
	国立大学法人神戸大学と国土交通省近畿地方整備局との連携・協力に関する協定	国土交通省近畿地方整備局	H27.7.8
官	サイバー空間の脅威に対処するための連携及び協力に関する協定	兵庫県警察本部、兵庫県立大学	H28.2.19

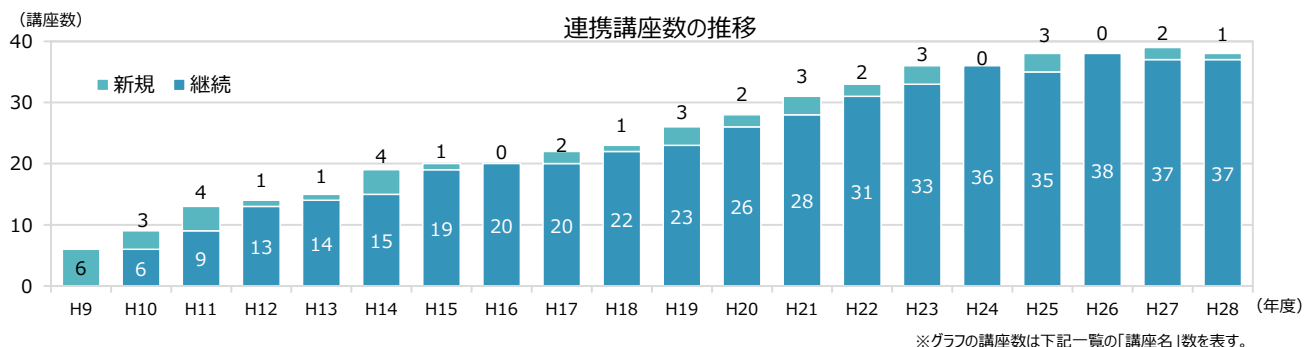
○ 九州地方の連携先との大学間連携協定

区分	協定名称	協定締結機関	締結日
自	国立大学法人神戸大学と中津市との連携に関する協定	大分県中津市	H28.4.22

[区分] 大…大学、自…自治体等、民…民間企業等、独…独立行政法人、研…国立研究開発法人等、官…官公庁等
 (※)…平成27年4月1日、国立研究開発法人となった。

17. 連携大学院実施状況

○ 神戸大学では、ほとんどの研究科において、多様な分野で官・民・病等の組織と連携講座を設けており、その数も増加してきたが、近年は安定傾向にある。



◎連携講座一覧（平成28年5月1日現在）

研究科名	専攻名	講座名	連携先	開始年度
人文学研究科	社会動態専攻	文化資源論	(財)大和文華館 (独)国立文化財機構 奈良国立博物館	平成19年度
国際化学研究科	グローバル文化専攻	先端コミュニケーション論	(株)国際電気通信基礎技術研究所	平成19年度
人間発達環境学研究科	人間環境学専攻	環境先端科学	国立研究開発法人国立環境研究所 国立研究開発法人産業技術総合研究所	平成19年度
経営学研究科	経営学専攻・現代経営学専攻	マネジメント・システム設計	(株)野村総合研究所	平成10年度
		事業価値評価	GCAサヴィアグループ(株)	平成18年度
		経営戦略システム設計	アクセント(株)	平成11年度
理学研究科	化学専攻	構造解析化学	(財)高輝度光科学研究センター	平成19年度
		理論生物化学	国立研究開発法人理化学研究所 計算科学研究機構	平成23年度
	生物学専攻	発生生物学	国立研究開発法人理化学研究所 多細胞システム形成研究センター	平成19年度
		生物制御科学	住友化学(株) 健康・農業関連事業研究所	平成27年度
惑星学専攻	惑星地球変動史	国立研究開発法人海洋研究開発機構 大学共同利用機関法人自然科学研究機構 国立天文台	平成25年度	
	応用惑星学	気象庁気象研究所	平成28年度	
医学研究科	医科学専攻	生理学・細胞生物学	国立研究開発法人理化学研究所 多細胞システム形成研究センター	平成14年度
			(株)カン研究所 アスピオファーマ(株)	平成22年度 平成23年度
		生化学・分子生物学	(財)高輝度光科学研究センター	平成12年度
			(株)カン研究所	平成22年度
		微生物感染症学	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所	平成19年度
		地域社会医学・健康科学	兵庫県立健康生活科学研究所	平成20年度
		内科学	(独)医薬品医療機器総合機構	平成23年度
			(株)カン研究所	平成22年度
		内科系	兵庫県立姫路循環器病センター	平成27年度
			兵庫県立粒子線医療センター	平成13年度
			(財)先端医療振興財団 先端医療センター (財)先端医療振興財団 先端医療センター	平成13年度 平成20年度
		外科系	兵庫県立こども病院	平成25年度
兵庫県立総合リハビリテーションセンター 兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター	平成19年度			
外科学	兵庫県立こども病院 兵庫県立姫路循環器病センター	平成25年度 平成27年度		
保健学研究科	保健学専攻	リハビリテーション科学	国立研究開発法人情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター	平成25年度
工学研究科	建築学専攻	地域減災計画	総務省消防庁消防大学校消防研究センター	平成19年度
	電気電子工学専攻	機能性薄膜学	パナソニック(株) 先端技術研究所	平成19年度
		知的製造システム	(株)神戸製鋼所技術開発本部 神戸総合技術研究所	平成19年度
	機械工学専攻	機能適応モデル	国立研究開発法人情報通信研究機構	平成19年度
		開智型ものづくり	川崎重工(株) 技術開発本部	平成21年度
	応用化学専攻	局所場反応・物性解析学	国立研究開発法人産業技術総合研究所 関西センター	平成19年度
		化学エネルギー変換プロセス学	国立研究開発法人産業技術総合研究所 関西センター	平成19年度
生物機能工学		(財)サントリー-生物有機科学研究所	平成21年度	
システム情報学研究科	システム科学専攻	ケミカル・バイオセンシング	国立研究開発法人産業技術総合研究所	平成23年度
	情報科学専攻	応用システム	三菱電機(株)	平成19年度
システム情報学研究科	計算科学専攻	感性アートメディア	(株)国際電気通信基礎技術研究所	平成19年度
		応用計算科学	国立研究開発法人海洋研究開発機構	平成22年度
システム情報学研究科	計算科学専攻	大規模計算科学	国立研究開発法人理化学研究所 計算科学研究機構	平成25年度
		大規模計算科学	国立研究開発法人理化学研究所 計算科学研究機構	平成25年度
農学研究科	資源生命科学専攻	食料生産フィールド科学	兵庫県立農林水産技術総合センター	平成19年度
海事科学研究科	海事科学専攻	海洋環境計測科学	国立研究開発法人海洋研究開発機構	平成19年度
		地域環境科学	(財)ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター	平成21年度

18. 教育関係共同利用拠点

- 平成26年度、教育関係共同利用拠点への認可申請を行い、以下の3施設について認可された。
(認定期間：平成26年7月31日～平成31年3月31日)

内海域環境教育研究センター マリンサイト

(平成28年度～自然科学系先端融合研究環より移行)

拠点名：都市域沿岸の海洋生物・生態系と環境管理に関わる教育共同利用拠点

平成27年度実施プログラム (抜粋)

課題	概要
全国公開臨海実習 Aコース	沿岸域生態系の主要な構成要素の1つである海藻類を対象に、その生物多様性を、分類・生態・形態・生理・進化・遺伝子などの多様な側面から学んだ。(履修学生：8大学9名)
全国公開臨海実習 Bコース	ため池と河川の生物群集が陸域からの資源供給に支えられていることを実測するとともに、それら陸域-淡水域間の相互作用が河口付近に形成される干潟の生物群集とどのように関係しているか検証した。(履修学生：8大学8名)
全国公開臨海実習 Cコース	調査実習船「おのころ」、練習船「深江丸」による海上実習を行い、海水の水温・塩分・溶存酸素濃度・光量・流速などの観測、海水・プランクトン・海底堆積物の採取・分析を通して、内湾環境の多様性とその原因を考察した。(履修学生：4大学7名)
奈良女子大学 臨海実習	藻類の多様性と進化・沿岸環境との関わりについての講義、船舶を用いた沿岸環境の観察、淡路島の沿岸における海藻類・海産底生動物の生態観察・採集、実験室における海藻類・海産底生動物の同定、標本作製、組織観察などを行った。(履修学生：1大学20名)
原生生物合同セミナー	原生生物学を研究している関西の複数の大学(神戸大学・奈良女子大学・京都大学・兵庫県立大学・福井工業大学など)の教員と学生が集まり、合同セミナーを実施した。(参加人数：5大学19名)

平成27年度共同利用状況 (学内を除く)

区分	所属機関数	利用人数	延べ人数
国立大学	15	58	223
公立大学	4	23	55
私立大学	9	14	44
大学共同利用機関法人	1	1	2
民間・独立行政法人等	8	8	13
外国の研究機関	1	1	3
計	38	105	340



平成27年度共同利用状況 (学内を除く)

区分	所属機関数	利用人数	延べ人数
国立大学	10	17	20
公立大学	4	71	122
私立大学	7	212	265
大学共同利用機関法人	0	0	0
民間・独立行政法人等	1	32	64
外国の研究機関	0	0	0
計	22	332	471

大学院農学研究科附属 食資源教育研究センター

拠点名：農場と食卓をつなぐフィールド教育拠点

平成27年度実施プログラム (抜粋)

課題	概要
農場と食卓をつなぐフィールド演習	大学コンソーシアム単位互換科目。2泊3日の日程で、肉用牛の管理、ブドウの収穫と調製、イネの管理、キャベツの定植、里山散策などを実習した。(5大学24人)
食料生産実習 (大阪府立大学)	利用大学開講科目「食料生産実習」を本学で実施。2泊3日の日程で、肉用牛の給餌、鼻紋採取、去勢、体重測定、トラクター操作、里山散策などを実習した。(1大学17人)
農場から食卓まで (兵庫県立大学)	利用大学開講科目「環境と人間」の一環として実施。日帰りで、肉用牛の体測定、サツマイモの収穫、パレイショの食比べなどを実習した。(1大学31人)
農場から食卓まで (吉備国際大学)	利用大学開講科目「フィールド演習Ⅱ」の一環として実施。肉用牛の管理と体測定、野生ナシの試食、カキの収穫・脱洗体験などを実習した。(1大学43人)
農場から食卓まで (兵庫大学)	利用大学開講科目「食品学実験Ⅱ」の一環として実施。2度の日帰りで、ナシの摘果、田植え、里山散策、カキの脱洗、パレイショの食比べなどを実習した。(1大学122人)



大学院海事科学研究科附属 練習船深江丸

拠点名：グローバル海上輸送に関わる海事技術・海洋環境とヒューマンファクタの教育のための共同利用拠点

平成27年度実施プログラム (抜粋)

課題	概要
大阪大学 人間行動学実験実習Ⅱ	安全行動学に関連する諸問題を研究する上で必要な心理学の基礎的な研究方法(実験法、観察法、調査法等)について、現場との連携を密にするため、神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸を利用し、海洋安全体験実習を実施した。(利用学生数：17名)
兵庫県立大学大学院 電子情報工学特別実験Ⅰ	電子情報工学専攻の教員がオムニバス形式で指導し、同部門の所属学生に電子情報工学に関する高度な実験技術について習得させるため、神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸を利用し、コンピュータ制御機能を用いたリアルタイム制御実験を行った。(利用学生数：13名)
帝塚山大学大学院 心理科学基礎論Ⅱ	心理学の諸問題に対処するための高度な知識や技能を修得することを目的とし、特に、応用・社会心理学的なアプローチに基づき、近年の動向を中心とした授業内容の理解を促進するため、神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸を利用して実習等を行った。(利用学生数：18名)
大阪府立大学 船舶工学特殊講義	船舶工学の中でも特に他の講義では深く取り扱うことのない船用機関、及び船用機関と船舶推進装置の関係などに関して基礎から概説・詳述するため、神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸による演習航海を通して、船舶の運航に関する理解を深めた。(利用学生数：28名)

平成27年度共同利用状況 (学内を除く)

区分	所属機関数	利用人数	延べ人数
国立大学	2	129	181
公立大学	2	49	82
私立大学	7	139	239
大学共同利用機関法人	0	0	0
民間・独立行政法人等	1	32	32
外国の研究機関	0	0	0
計	12	349	534



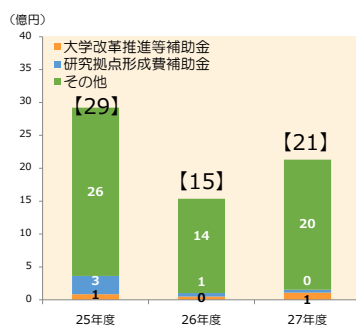
19. 外部資金

19-1 外部資金の受入額

- 国立大学の法人化以降、運営費交付金は大学改革促進係数により毎年減額されているため、受託研究や共同研究、寄附金などの外部資金の重要性がより高まっています。

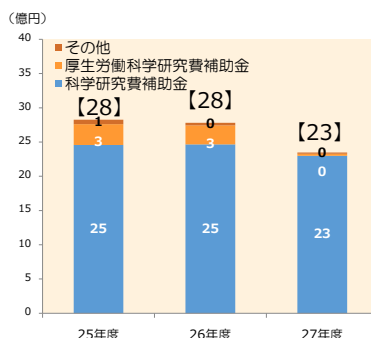
■ 補助金

国等の公的機関から教育・研究活動の推進のために交付される金銭的給付です。



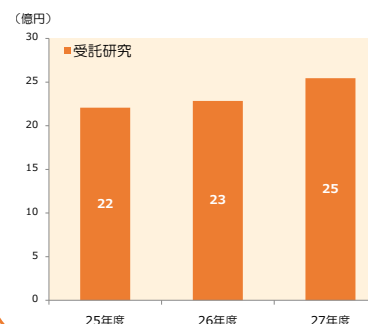
■ 科学研究費補助金

多岐の分野にわたり学術研究を進展させることを目的とする競争的資金です。

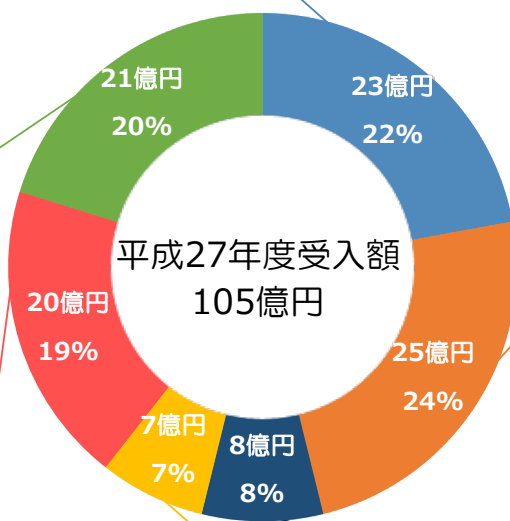


■ 受託研究

委託者の負担する経費を使用して、大学の教員が業務として実施する研究で、その成果を委託者へ報告する制度です。

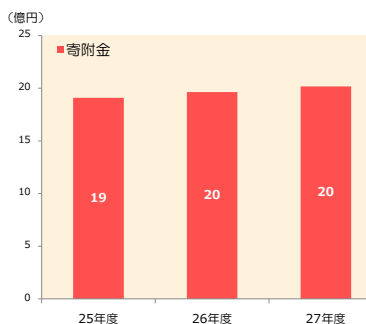


平成27年度受入額
105億円



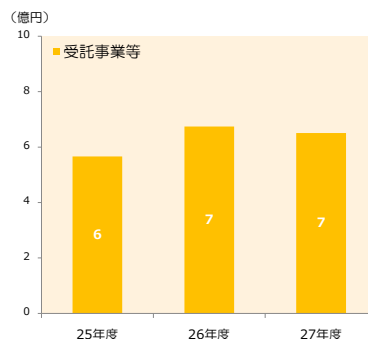
■ 寄附金

学術研究、教育研究の奨励等を目的とする経費に充てるべきものとして、民間企業・諸団体・個人等から受け入れるものです。



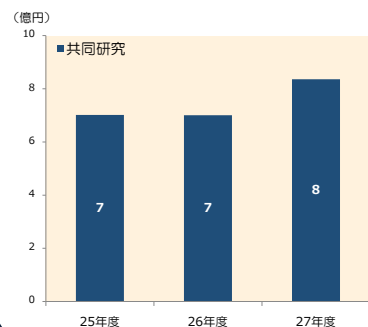
■ 受託事業

司法解剖など外部からの委託を受けて行う事業です。



■ 共同研究

大学の教員と民間等の研究者が契約に基づき、対等の立場で共通の課題について共同して研究を行う制度です。



(単位：百万円)

区 分	平成25年度 受入額	平成26年度 受入額	平成27年度 受入額	前年比較 受入額
受託研究等	3,474	3,660	4,031	371
受託研究	2,207	2,285	2,545	260
共同研究	701	701	836	135
受託事業	566	674	651	△ 24
寄附金	1,910	1,964	2,017	54
科学研究費補助金等(直接経費相当額)	2,827	2,780	2,347	△ 433
科学研究費補助金(文部科学省)	2,459	2,467	2,299	△ 168
厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)	302	275	29	△ 246
先導的産業技術創出事業費補助金(NEDO)	12	10	4	△ 7
環境研究総合推進費補助金(環境省)	6	18	11	△ 7
建設技術研究開発費補助金(国土交通省)	11	10	-	△ 10
その他	37	-	4	4
補助金等	2,922	1,537	2,131	594
研究拠点形成費等補助金	278	53	44	△ 9
卓越した大学院拠点形成支援補助金(研究拠点形成費)	215	-	-	-
先進的医療イノベーション人材養成事業	63	53	-	△ 53
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	-	24	22	△ 2
未来医療研究人材養成拠点形成事業	-	-	22	22
大学改革推進等補助金	85	50	110	60
大学病院における医師等の勤務環境改善のための人員の雇用	33	-	-	-
大学病院人材養成機能強化事業	19	15	-	△ 15
基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成	16	16	10	△ 6
情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業	17	18	15	△ 3
大学教育再生加速プログラム	-	-	19	19
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業	-	-	65	65
その他の補助金	2,560	1,434	1,977	543
国立大学法人設備整備費補助金	385	21	-	△ 21
国際化拠点整備事業費補助金	151	131	117	△ 14
科学技術人材育成費補助金	100	194	89	△ 106
国宝重要文化財等保存整備費補助金	58	-	-	-
感染症予防事業費等国庫負担(補助)金	10	12	12	0
政府開発援助国際化拠点整備事業費補助金	48	41	33	△ 9
先導的創造科学技術開発費補助金	87	34	-	△ 34
地域産学官連携科学技術振興事業費補助金	673	573	503	△ 70
若手研究者戦略的海外派遣事業費補助金	7	-	-	-
地域医療活性化センター整備支援事業補助金	800	-	-	-
研究大学強化促進費補助金	200	200	194	△ 6
災害拠点病院設備整備事業補助金	12	-	-	-
戦略的国際研究交流推進事業費補助金	-	43	48	5
DMATカー整備事業	-	19	-	△ 19
国立大学改革強化推進補助金	-	59	767	708
シミュレーション実習機器等整備事業補助金	-	15	5	△ 10
沖縄県地域医療介護総合確保基金事業補助金	-	30	30	0
その他	28	63	181	118
合 計	11,133	9,941	10,527	586

事業者名/事業・プログラム名/取組名	実施担当部局	補助金 交付済総額	採択期間	概要
文部科学省				
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)				
地域創生にできる実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム	地域連携推進室	44,502	H27～H31	本プログラムでは、阪神・淡路大震災以来20年の蓄積を持つ神戸大学の先導的な地域社会形成のための教育研究、兵庫県各地で実践的な取組を進める県内COC4大学の事業成果、大学と連携して進めてきた自治体、商工会議所、工業会等の実践的人材育成を結合するためにひょうご神戸プラットフォームを構築する。それにより、日本の縮図といわれる兵庫県の多様な地域課題の問題解決能力と実践力を有する人材の育成と地元定着を図る。そのために、住民としての資質を養う基礎カリキュラムと、多様な課題に応え、専門分野で問題解決力と実践力を養う「歴史と文化」「自然と環境」「子育て高齢化対策」「安全安心な地域社会」「イノベーション」の5分野に関するカリキュラムの開発と体系化を共同で行う。また、大学教職員、自治体職員、企業幹部、NPO職員等に対する多様なトレーニングを進め、協力してプラットフォームの教育力を恒常的に高めていく。
地域イノベーション戦略支援プログラム(国際競争力強化地域)				
「関西ライノベーション戦略推進地域」	連携創造本部・医学研究科	238,993	H24～H28	生命医学系研究領域の専門性に加え、国内外の医薬品、医療機器ならびに健康科学関連産業の現状や最先端の研究開発動向、将来展望等について幅広い知識・情報を有し、産業界およびアカデミアにおいて医薬品、医療機器および健康製品の研究開発や事業開発の第一線に立ち、イノベーション創出を自ら実践・リードする真のグローバルリーダーを育成する。ポर्टアイランドの神戸医療機器開発センター(MEDDEC)に設置している、消化器内視鏡システム、超音波内視鏡下穿刺吸引システムの共有化を図る。
研究拠点形成等補助金「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」				
7大学連携先端のがん教育基盤創造プラン	医学研究科	103,555	H24～H28	本プランは、阪神地区の国公私立7大学8学部(医学、看護学、薬学系)大学院研究科が相互に連携し、高度ながん診療と研究を実践できる人材養成の基盤整備を推進するものである。基盤整備のため教育改革、地域医療、研究者養成の3部門を設置し、教育改革部門では、がん診療に携わる若手医師及び医療人の発掘と育成を旨とした専門教育プログラムの開発に取り組み、地域医療部門では、地域の医療機関で活躍するがん医療専門人の養成や人の交流、がん医療情報の共有を図り、多職種が連携した広域医療ネットワーク構築を目指す。研究者養成部門では、ゲノム薬理学的個別化治療や高精度放射線治療法の開発など基礎研究と臨床研究を融合した教育プログラムのもと、国際競争力を有する研究者を養成する。これらを実現するため、臨床腫瘍学、放射線腫瘍学、緩和医療学の講座を新設し、包括的がんセンターを具体化することで、がん教育拠点としての機能を強化する。
基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成プログラム				
基礎・臨床融合による基礎医学研究の養成	医学部	62,902	H24～H28	本事業は、本医学部医学科学生への基礎医学研究に対する興味を喚起し、研究に魅力を感じる学生が、積極的に研究に参加できる「基礎医学研究医養成コース」を設置し、本コースを履修する学生が研究に必要な実験手技、科学的思考法として学術的研究発表を行うために必要な技能を身につけるための学生教育支援を行う取組である。この取組により研究に興味を持つ医学科学生は、他の学生と同様に医師になるために必要な教育を受けると同時に、基礎医学系分野に於いて少人数で個別研究指導を受け、新発見を得る喜びを体験し基礎研究部門に必要な技能を習得する。卒業後は卒後臨床研修を受けながら大学院を修了できる大学院ダブルコースに進み、更に基礎臨床融合教員(学術研究員や特定助教)として、基礎医学系分野で研究を続けるとともに大学附属病院で臨床活動を行う真のクリニシャン・サイエンティストの養成を目指す。
「スーパーグローバルハイスクール」に関する研究開発				
地球安全保障への提言を目指す「グローバルキャリア人育成神戸モデル」	附属中等教育学校	9,999	H27～H31	本校は「優れた課題発見力を持ち、世界の中で自己を位置付け、文化理解と行動を踏まえて国際協力による関係構築を積極的に行おうとする『グローバルキャリア人』を「グローバルリーダー」と位置付け、その育成を教育目標に掲げている。現在のグローバル社会の諸課題を解決するには「地球安全保障」の実現を図ることが不可欠であり、本事業においては、次の3観点を核として生徒のグローバルキャリア力を総合的に向上させ、高校生視点に基づく「地球安全保障への提言」を発信する。 ①課題研究を核とする教科横断型体系的グローバル人材育成カリキュラムの開発 ②国内外での圧倒的なグローバルアクションプログラムの実施 ③高大一体による実践を支える確かな調査研究の推進 これによる「世界の課題を自ら発見・探究し、具体的な解決を提案できる次代を担う人材を育成する『グローバルキャリア人育成神戸モデル』の開発」を本事業の目的とする。
文部科学省/日本学術振興会(JSPS)				
大学教育再生加速プログラム(AP) テーマIV 長期学外必修プログラム(ギャップイヤー)				
神戸グローバルチャレンジプログラム	全学(学部対象)	21,373	H27～H31	本取組は、1・2年生の1つのクォーターをギャップイヤーとして設定し、この期間に学生が国際的なフィールドで行う自主的な活動を正課のプログラムとして単位認定する取組である。平成28年4月から全学でクォーター制を導入することで設定が可能となるギャップイヤー(「チャレンジイヤー」)の期間中に学生が国際的なフィールドにおいて多種多様な学外必修に取り組みためのプログラムを全学的に開発する。 本補助事業の全体の目的は、「課題発見・解決型グローバル人材」として「神戸スタンダード」に定められた本学の全学生の卒業時に身につけるべき3つの能力(①複眼的に思考する能力、②多様性と地球的課題を理解する能力、③協働して実践する能力)の必要性をプログラム参加学生自らが体感し、「学びとは何か」を主体的に考え、「学びの動機づけ」を得ることにある。本補助事業において、学生は国際的なフィールドで自主的な活動を行うことから、異文化環境の下で自らの体験に基づき課題発見・解決能力の必要性に気づくことができる。これらの気づきにより、学生は低年次において主体的な学修姿勢を身につけ、今後の海外留学等の国際的なフィールドでの更なる活動にチャレンジすることが期待される。
国際化拠点整備事業				
スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成 支援(旧グローバル人材育成推進事業)	国際文化学部・文学部・発達科学部・法学部・経済学部・経営学部・人文科学研究科・経済学研究科	340,195	H24～H28	本事業では、教育目的に掲げる「人間性の教育」、「創造性の教育」、「国際性の教育」、「専門性の教育」を踏まえつつ、人文科学系及び社会科学系の6学部(国際文化学部、文学部、発達科学部、法学部、経済学部、経営学部)がそれぞれの教育プログラムを通じて互いの専門性を越えて協力し、深い教養と高度な専門性、グローバルな視野と卓越したコミュニケーション能力を備えた「問題発見型リーダーシップ」を発揮できる「グローバル人材」を育成することを目的とする。
大学の世界展開力強化事業				
ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成	医学研究科	139,476	H24～H28	神戸大学、大阪大学、インドネシア大学、ガジャマダ大学、アイルラング大学、マヒン大学、フェニックス大学、WHO健康開発総合研究センター(WHO神戸センター)、兵庫県立健康科学研究所(Hyogo-IPHES)がコンソーシアムを構成し、既に神戸大学がインドネシア拠点及び大阪大学がタイ拠点を有する優位性を活用し、神戸大学及び大阪大学の世界標準の教育を通して、ASEAN諸国との連携・協働による「次世代医学・保健学グローバルリーダー」を育成する。
文部科学省/欧州委員会				
大学の世界展開力強化事業～海外との戦略的高等教育連携支援～ ICI-ECPプロジェクト				
日・EU間学際的前端教育プログラム(EU-JAMM)	国際連携推進機構	6,750	H25～H29	日本側4大学(神戸大学、九州大学、大阪大学、奈良女子大学)、EU側6大学(ルーヴァン・カトリック大学、エッセクス大学、ヤゲウォ大学、ルド大学、ティルブルグ大学、グローニンゲン大学)からなるコンソーシアムを形成し、修士レベルのダブルディグリープログラムを推進し、5年間のプロジェクト期間中に、コンソーシアム全体で43人(EUから20人、日本から23人)の学生交流を目指す。 ICI-ECPプロジェクト：日本政府が欧州連合(EU)と実施する教育連携プログラムの一環として、日本の複数の大学と欧州の複数の大学からなるコンソーシアムが、文部科学省とEUの執行機関である欧州委員会による支援の下で実施する学生交流プロジェクト

事業者名/事業・プログラム名/取組名	実施担当部署	補助金 交付総額	採択期間	概要
文部科学省/科学技術振興機構(JST)				
イノベーションシステム整備事業・先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム				
バイオプロダクション次世代農工連携拠点	科学技術イノベーション 研究科・農学研究科・ 工学研究科	2,500,788	H20~H30 (予定)	バイオテクノロジーは、従来、日本が世界にリードしてきた技術分野である。本拠点では、バイオテクノロジーの基礎を固める生物資源(=バイオマス)や遺伝子資源の開発・利用を担う農工と、実地的な化学物質生産に必要な発酵・反応・分離技術を培う工学を融合的に発展させ、すべての生物資源を可能な限り有効活用する物質生産(バイオプロダクション)の美学の確立を目指し、バイオプロダクションの基礎から製品化までを一環したプロセスの体系化を行う。具体的には、バイオマスを原料とした「次世代燃料・化成品原料」、「バイオプラスチック・バイオ繊維」及び「バイオファインケミカル」の物質生産に関わる研究拠点を化を目指す。
科学技術人材育成費補助事業				
女性研究者研究活動支援事業(連携型)	男女共同参画推進室	26,456	H26~H28	神戸大学、関西学院大学、兵庫県立大学が互いに連携することにより、女性研究者の研究力・マネジメント力を増強させ、女性研究者の上位職への登用を進める。また、企業との連携を図ることにより、産学共同研究の促進や女子学生及び女性研究者のキャリアパスの拡大を目指している。取組としては、大学トップから実務レベルまでの緊密な3大学連絡体制を構築し、「連携型共同研究」でのPI経験や外部資金獲得支援などの研究力増強による上位職増強支援と女性研究者昇任状況調査に基づくPDCAを機能させ、上位職階への昇任比率20%を目指している。さらに、子育て支援と柔軟な働き方の拡充によるワークライフバランス支援を実施している。
日本学術振興会(JSPS)				
頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム				
高精度粒子線飛跡検出器が拓く新物理探索と国際共同研究	理学研究科	44,460	H26~H28	ヒッグス粒子発見後も、標準模型にはまだ多くの謎や不完全点がある。また、宇宙観測で存在が確実な暗黒物質がまだ見つからない。どちらも、TeVスケールの新物理を示唆している。神戸大学の高精細飛跡検出器技術を鍵に、海外機関(CERN 研究所、INFNボローニャ研究所、ウエルズリー大学、オクスフォード大学、ハワイ大学、シェフィールド大学)と連携し、LHC/14TeV アトラス実験による、TeV 領域の新物理を解明し(ミュオントリガーアップグレード、衝突データ解析によるTeV新物理探索)、また、暗黒物質の「風向き」を測り、直接検出の確実な証拠をつかむ。そして、暗黒物質の性質を加速器実験、非加速器実験の両面から明らかにするとともに、ネットワークをさらに拡張し、神戸大粒子物理研究室を世界的な素粒子物理の研究拠点とすることを旨とする。
科学技術振興機構(JST)				
戦略的創造研究推進事業				
多孔性電極中のイオン輸送現象の解明と高出力電池への展開	工学研究科	100,750	H24~H29	二相共存における電極反応系において高速な充放電反応を達成するためには、電極内のイオン輸送速度を回避する必要がある、そのための構造最適化が不可欠である。とりわけ、実用的な合剤電極中にはマイクロ孔、メソ孔、マクロ孔が存在しており、高容量電池におけるイオン移動の最適化におけるモデル電極においては、高い構造規則性を有する研究が多く行われてきたが、実用的な観点においては、短距離秩序性(SRO)のみを有するランダムな細孔モデルが必要であり、その中でマイクロ孔やメソ孔中でのイオン輸送について、どの程度の活性化障壁があるのかなどを解明する。
内閣府				
SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)/革新的設計生産技術				
リアクティブ3Dプリンタによるテーラーメイドラバー製品の設計生産と社会経済的な価値共創に関する研究開発	連携創造本部、システム情報学研究科、工学研究科、経営学研究科	223,213	H26~H30	本研究開発では、神戸の代表的地域産業であるシューズを対象とし、従来の3Dプリンタ成形では不可能であった熱可塑性成形工程と架橋工程のトレードオフを、リアクティブ3Dプリンタとして融合させた研究開発で打破する。これによりシューズの底(アウトソール)からセンシング機能を持ったミッドソール、インソールまで、つま先から踵まで複雑な形状/組成が傾斜し界面のない構造を消費者のフィッティングニーズを越えてオンデマンド一体設計、生産を可能とし、主としてテーラーメイドシューズへの市場展開を目指す。それと共に、デジタル情報に基づくテーラーメイドラバーを、例えばランニングシューズとしてユーザに提供することで、多種多様なユーザとの密な関係性による新たなライフスタイルの提供と価値共創についての実証的な取組を行う。
日本医療研究開発機構(AMED)				
医療分野研究成果展開事業(先端計測分析技術・機器開発プログラム)				
次世代乳癌スクリーニングのためのマイクロ波散乱断層イメージングシステムの開発	理学研究科	16,026	H27~H30	乳癌スクリーニングに活用されているX線マンモグラフィは、癌と正常組織のコントラスト比が低く、特に高濃度乳房においては小腫瘍の識別が容易ではない。一方、マイクロ波はコントラスト比が高く、次世代乳癌診断ツールとして期待されているが、画像再構成の処理時間の長さのため実用化に至っていなかった。本プロジェクトは、独自に開発に成功した高速画像再構成技術を基にした、マイクロ波散乱断層イメージングシステムを完成させ、無痛、非侵襲、高感度な次世代乳癌スクリーニングを実用する。
感染症研究国際展開戦略プログラム				
インドネシアにおける新興・再興感染症の国際共同研究拠点形成	医学研究科	769,972	H22~H31	インドネシアに形成した神戸大学新興・再興感染症国際共同研究拠点において、日本人研究者を常駐させ、BSL3施設を稼働し、インドネシアとの共同研究を推進し、さらに国内外の多機関が利用できる拠点として発展させる。
臨床研究・治験推進研究事業				
小児難治性ネフローゼ症候群に対する新規治療法の開発を目指した全国多施設共同臨床試験	医学研究科	179,660	H25~H29	本事業では、日本で生み出された基礎研究の成果を薬事承認に繋げ、革新的な医薬品・医療機器を創出すること等を目指して、基礎研究の成果を治験等に適切に橋渡しするための非臨床試験や、科学性及び倫理性が十分に担保され得る質の高い臨床研究等を推進するとともに、日本の臨床研究や治験の更なる活性化を目的とした研究を推進する。本研究は、研究期間終了時の到達目標を小児難治性頻回再発型/ステロイド依存性ネフローゼ症候群を対象としたリツキシマブ治療併用下でのミコフェノール酸モフェチルの多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験(JSKDC07試験)と小児期発症難治性ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を対象としたリツキシマブ+ステロイドパルス療法多施設共同単群臨床試験(JSKDC08試験)の2つの臨床試験を先進医療Bとして実施し、ミコフェノール酸モフェチル(MMF)及びリツキシマブの薬事承認を得ることとして開始したが、薬事戦略相談及び先進医療B申請・承認等約2年間を要し、研究開発実施期間終了時に薬事承認を得ることは現実的には不可能となつたため、本研究開発実施期間終了時の到達目標を“薬事承認を得る”ことから、“2つの試験を先進医療Bとして実施すること”に変更した。
臨床研究・治験推進研究事業				
医薬品としての薬事承認申請をめざしたアンチセンス核酸による福山型筋ジストロフィー治療薬探索と非臨床試験	医学研究科	118,700	H26~H28	本事業では、日本で生み出された基礎研究の成果を薬事承認に繋げ、革新的な医薬品・医療機器を創出すること等を目指して、基礎研究の成果を治験等に適切に橋渡しするための非臨床試験や、科学性及び倫理性が十分に担保され得る質の高い臨床研究等を推進するとともに、日本の臨床研究や治験の更なる活性化を目的とした研究を推進する。本研究では、GLP原薬製造およびGLP試験(分析・規格、動態試験および安全性試験)を実施し、臨床試験への橋渡しを行うとともに、モデル動物の整備等、医薬品開発をサポートするための基礎研究を実施し、橋渡しに次ぐ次世代の医薬品であるアンチセンス核酸による新たなFCMD治療法開発を行う。研究開発として①動物モデルの整備とこれを用いた候補配列の薬効証明、②PMDAによる薬事戦略相談、③GLP原薬製造およびGLP試験を行う。

○ 平成18年12月に設置された「神戸大学基金」は多くの皆様のご支援を賜り、様々な分野において活用させていただいております。

□使途指定基金

寄附講座の設置、冠奨学金の設立、課外活動団体OBからの使途指定寄附など、寄附者のご意志による使途指定事業へのご寄附です。

平成27年度 使途指定基金

寄附受入額	5億8,547万円
支援実績額	5億6,360万円
基金残高増減額	2,187万円

●神戸大学基金フェロー制度の開始

神戸大学基金へご寄附いただいた方へ感謝の意を表するとともに、継続的なご支援をお願いするため、「神戸大学基金フェロー」制度を始めました。

年間の累計額で20万円以上(※)ご寄附いただいた方に翌年、「神戸大学基金フェロー」の称号を授与するとともに、学長との懇談会にご招待します。(年2回、神戸と東京で開催予定)

※これまでの寄附累計額が100万円以上の方は、年間の累計額が10万円以上



▲神戸大学東京六甲クラブにて

□一般（基盤事業）基金

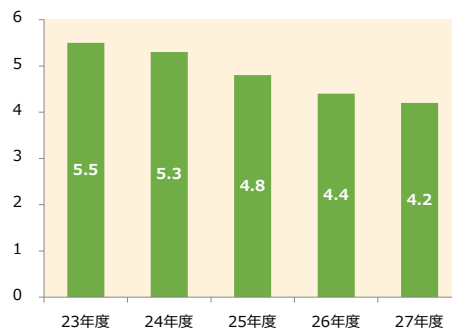
学生支援を中心とした多彩な活動を継続的に支援していく基盤事業へのご寄附です。

基盤事業の残高は年々減少しており厳しい状況です。今後もこの基盤事業を継続・発展させていくため、ご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成27年度 一般（基盤事業）基金

寄附受入額	3,693万円
支援実績額	6,447万円
基金残高増減額	▲2,754万円

一般（基盤事業）基金残高の推移 (億円)



活用事業例

国際化対応 25百万円

- 海外留学・研修への派遣支援
【利用者数 132名/年間】
-協定校等への海外派遣助成
-一部局企画プログラム
(留学・研修・海外ボランティア等)
-大学院学生国際学会等派遣事業
- アカデミック・ランゲージ&コミュニケーションサポートへの助成
(英語論文校正・学会発表指導等)
【利用者数 延べ792名/年間】
- 海外からの優秀な留学生の受入
【支給者数 延べ10名/年間】



▲留学生の受入支援

神戸大学基金奨学金 21百万円

- 「神戸大学基金」緊急奨学金 【支給者数 5名/年間】
- 「神戸大学基金」奨学金(学部新1年次生) 【支給者数 67名/年間】

東京地区におけるプレゼンス向上活動支援 3百万円

- 神戸大学東京オフィスの運営
- シンポジウム
- 「神戸大学のミリョク」開催



▲神戸大学東京 オフィス

課外活動の支援 5百万円

(ボランティア活動含む)

- 課外活動支援 団体/個人
【51件支援/年間】
- 東日本大震災関連ボランティア活動支援
【被災地派遣学生数 71名/年間】
-被災地へのボランティアバス派遣



▲ボランティア活動

施設・環境整備

○グラウンドの人工芝化
平成27年4月、エレコム株式会社からの物納によるご寄附により鶴甲第1キャンパスに「神戸大学エレコムグラウンド」が完成しました。人工芝化のためにいただいたご寄附は、今後の環境整備及び更新に備えた資金等として活用させていただきます。



▲神戸大学エレコムグラウンド

※各分野への拠出金額は概算です。

20. 留学

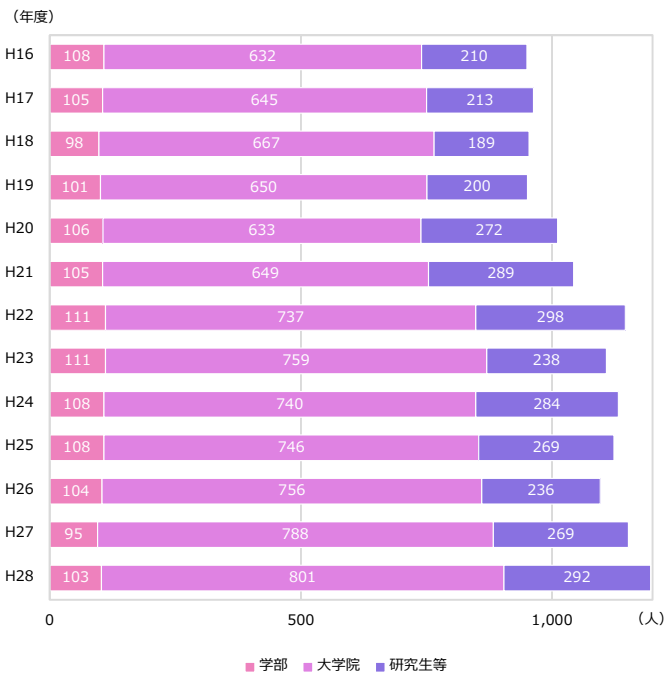
国際

○留学生の受入れについて、平成23年度から26年度にかけて横ばい傾向となっていたものの、平成28年度には、平成27年度の1,152名を上回り、**過去最多**となる**1,196名**の留学生を受け入れた。留学生比率を見ると、本学の学部留学生の比率については国立大及び全国と比して低調であるが、大学院留学生比率については高水準を維持しており、近年増加傾向にある。

20-1 外国人留学生受入れ状況 - 在籍段階別 -

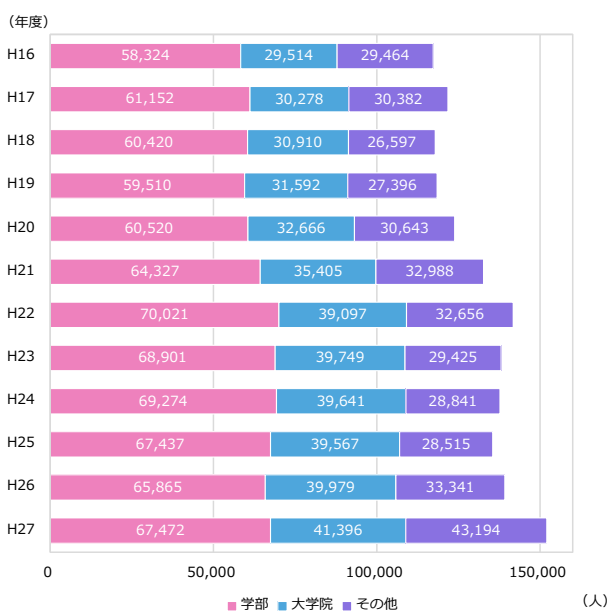
◆神戸大学◆

留学生の受入れ人数の推移(各年度5月1日現在)



◆全国◆

留学生の受入れ人数の推移(各年度5月1日現在)

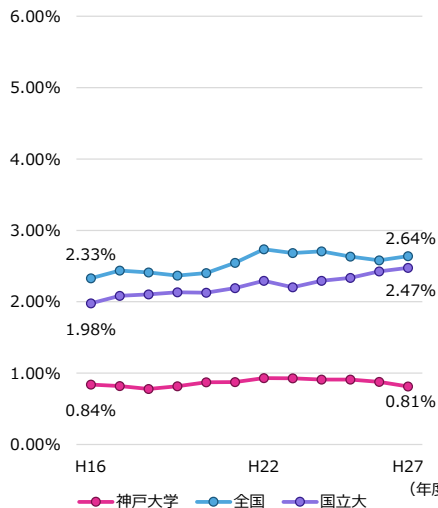


注)「その他」の内訳は、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)、準備教育課程の留学生。

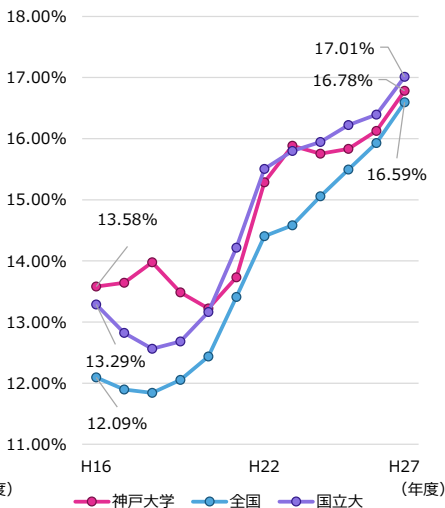
出典(全国): JASSO「外国人留学生在籍状況調査」

20-2 在籍学生に占める外国人留学生の比率

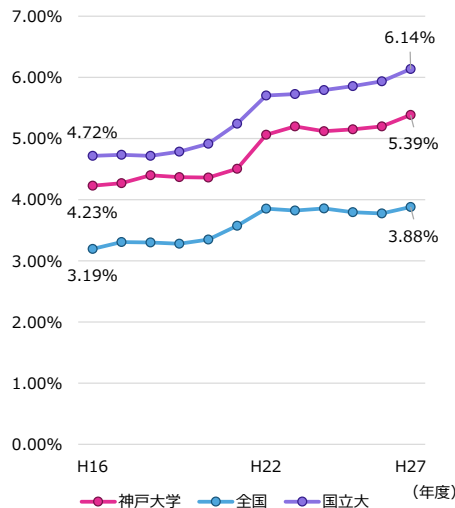
学部留学生比率



大学院留学生比率



学部・大学院留学生比率

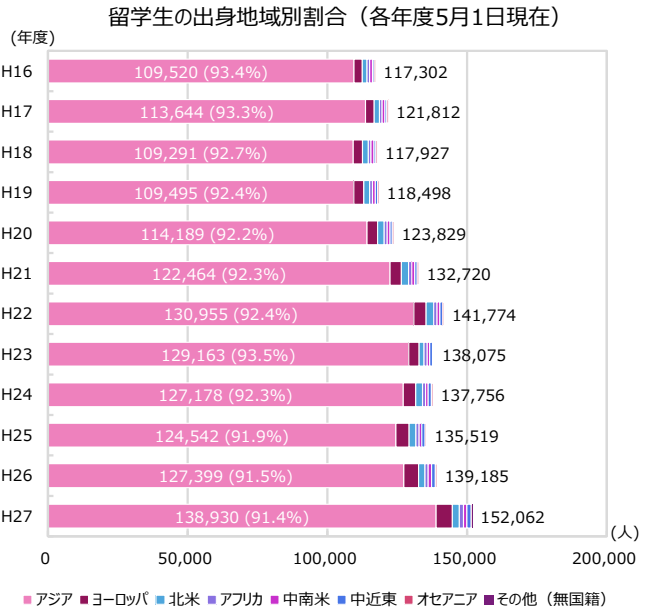
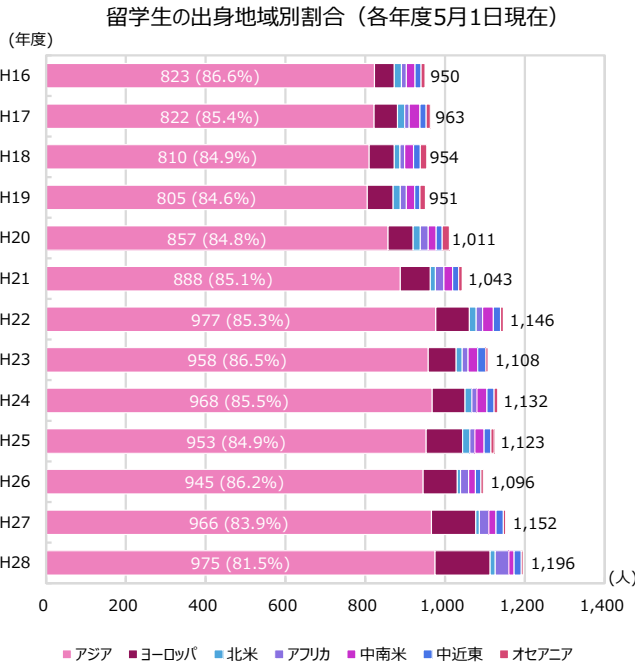


注) 留学生比率(学部・大学院留学生比率) = (学部留学生数 + 大学院留学生数) ÷ (学部学生数 + 大学院学生数) × 100 ※ 研究生・聴講生・科目等履修生等は含まない。

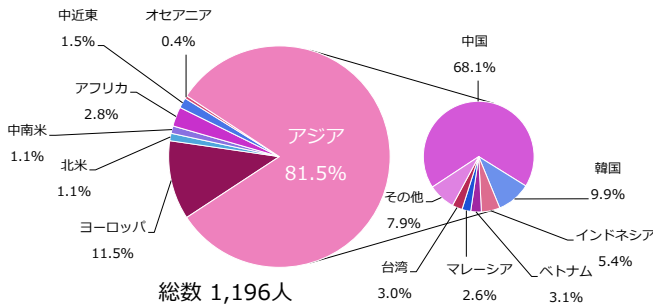
出典(国立大、全国): JASSO「外国人留学生在籍状況調査」(留学生数)、文部科学省「学校基本調査」(学生数)

◆神戸大学◆

◆全国◆



受入れ留学生数の地域別割合 (平成28年5月1日現在)



出典 (全国) : JASSO「外国人留学生在籍状況調査」

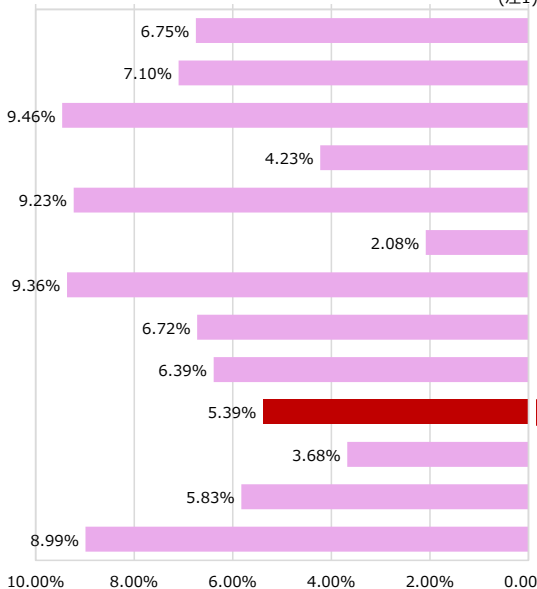
注1) ()内は各年度における全体に対するアジア出身留学生の割合。

注2) 全国の留学生には、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)、準備教育課程の留学生を含む。

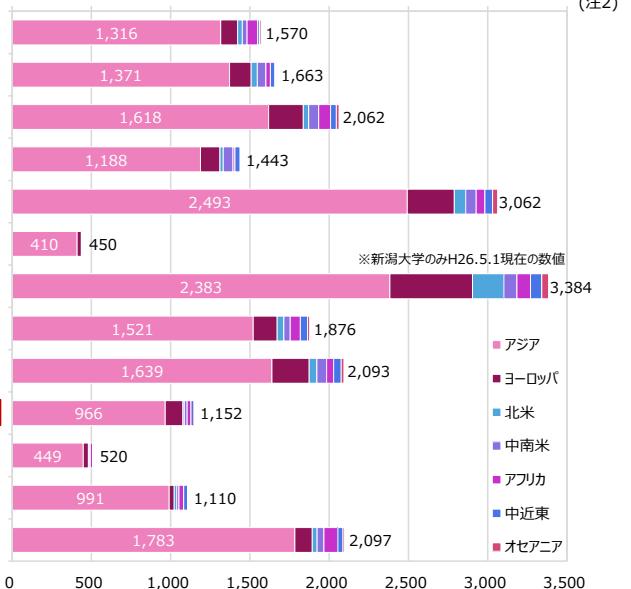
注3) 四捨五入により小数第一位までの数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

20-4 大規模13大学の外国人留学生受入れ状況

学生に占める留学生の割合 (H27年度) (注1)



大規模13大学における地域別留学生受入れ数 (H27.5.1現在) (注2)



(注1) 留学生の割合 = (学部留学生数 + 大学院留学生数) ÷ (学部学生数 + 大学院学生数) × 100 ※研究生・聴講生・科目等履修生等は含まない。

(注2) 名古屋大はH27年度

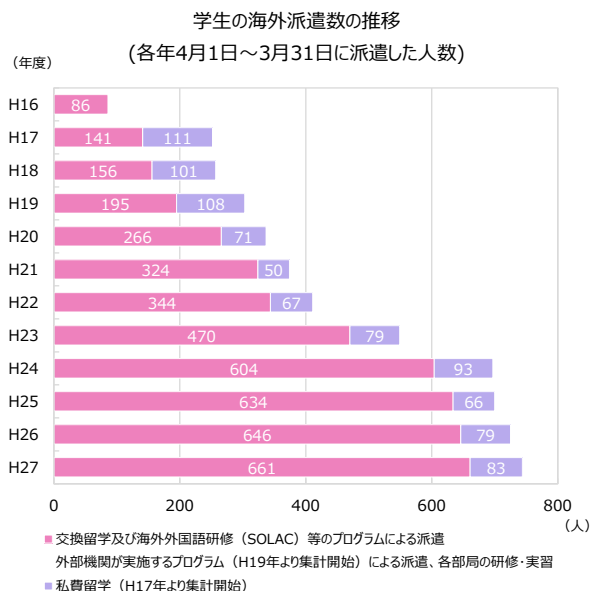
出典 (左) : 「朝日大学ランキング2017」(留学生数)、各大学公表資料(学生数)

出典 (右) : 各大学公表資料(研究生等を含む)

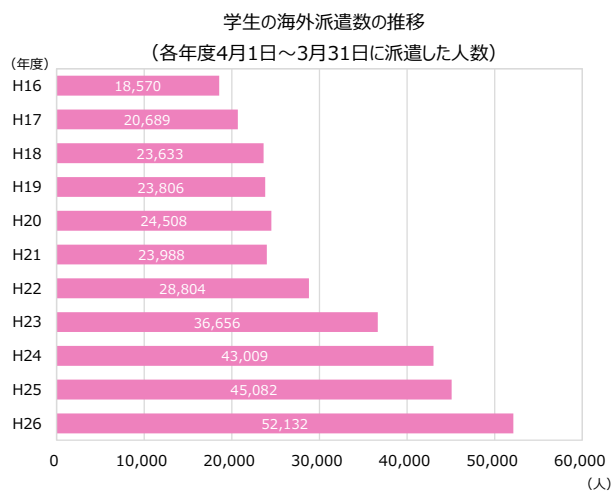
○ 日本人学生の海外派遣数について、神戸大学は年々増加傾向にある。その地域別割合を見ると、他大学と比して、北米地域やオセアニアへの学生派遣比率が低い一方、ヨーロッパへの派遣比率は高く、EUの中心地であるブリュッセルにオフィスを構え、ヨーロッパ諸国との国際連携活動を展開している本学の特徴と言える。

20-5 日本人学生の海外派遣数の推移

◆神戸大学◆

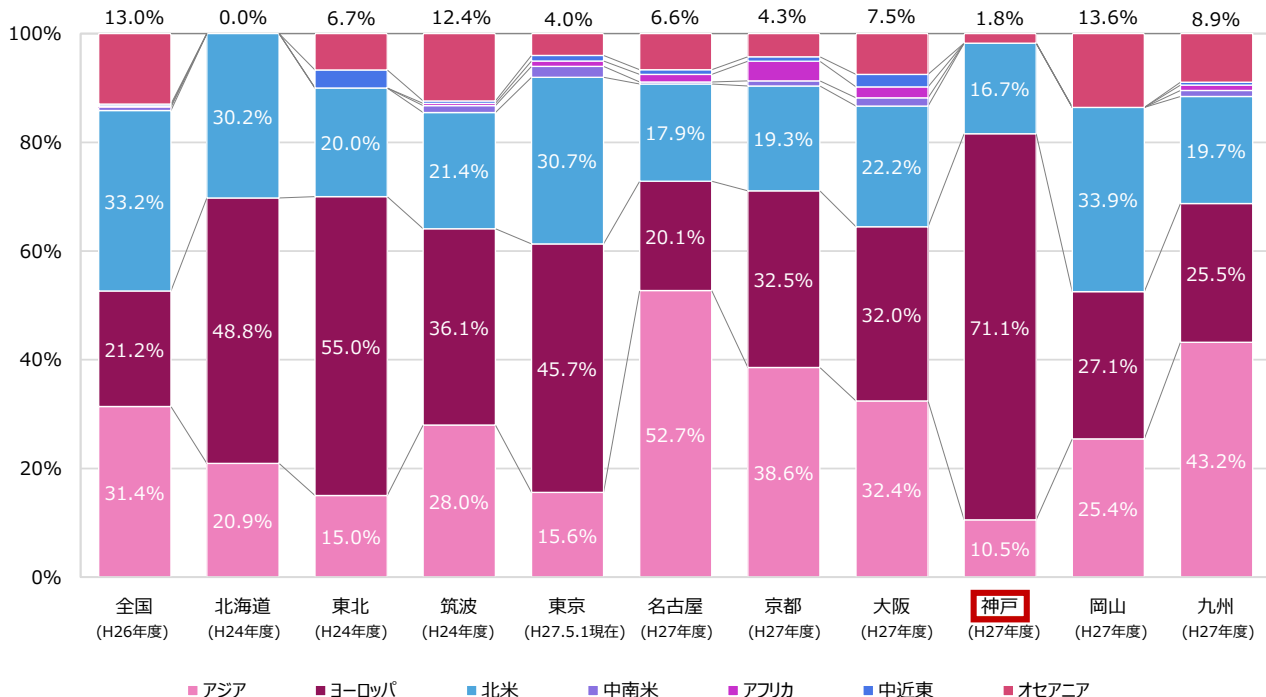


◆全国◆



出典：JASSO「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」

20-6 各大学における日本人学生の海外派遣状況(地域別割合)



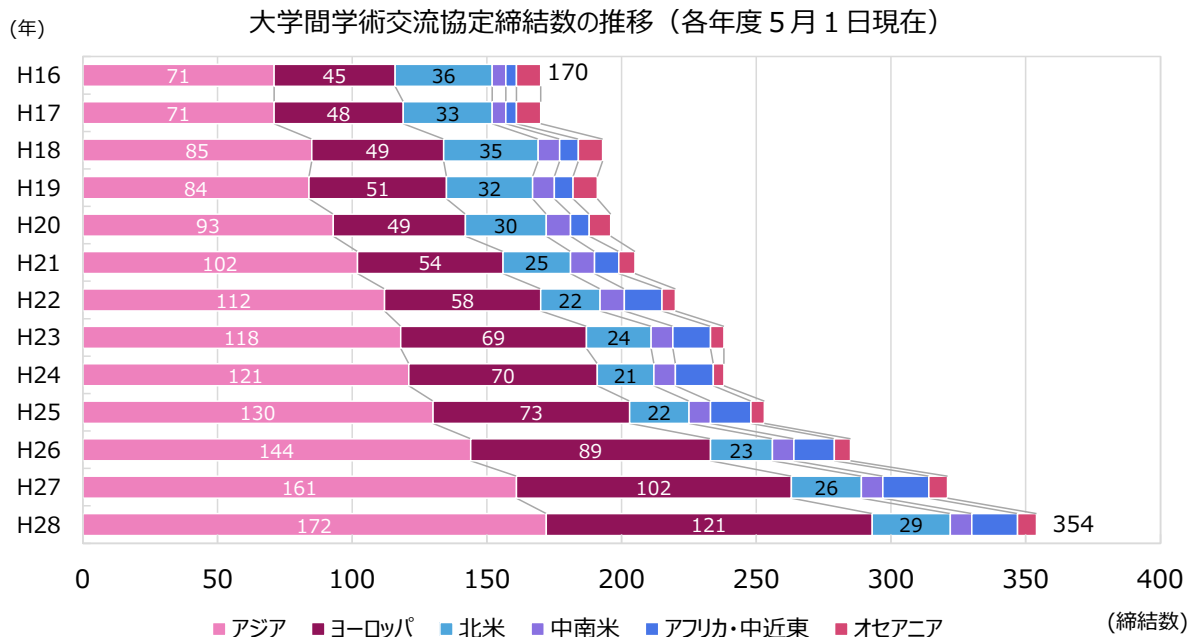
注) 全国については、JASSO「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」より作成した。各大学については、各大学のHP等により確認した。なお、グラフ内には、比較的割合の大きいアジア、ヨーロッパ、北米、オセアニアの割合のみ記載している。

※下記の通り、大学によって定義が異なるので、単純比較はできない。
 北海道大学、東北大学…協定等に基づく交換留学生
 筑波大学、東京大学、大阪大学…定義の記載なし
 名古屋大学…海外留学の種類・目的は交換留学、研究、語学研修、学位取得等
 京都大学…外国へ渡航した学生数
 神戸大学…大学間学術交流協定に基づく留学者数
 岡山大学…「留学願」受付数より算出
 九州大学…過年度に留学を開始した者を含む

21. 海外大学との交流状況

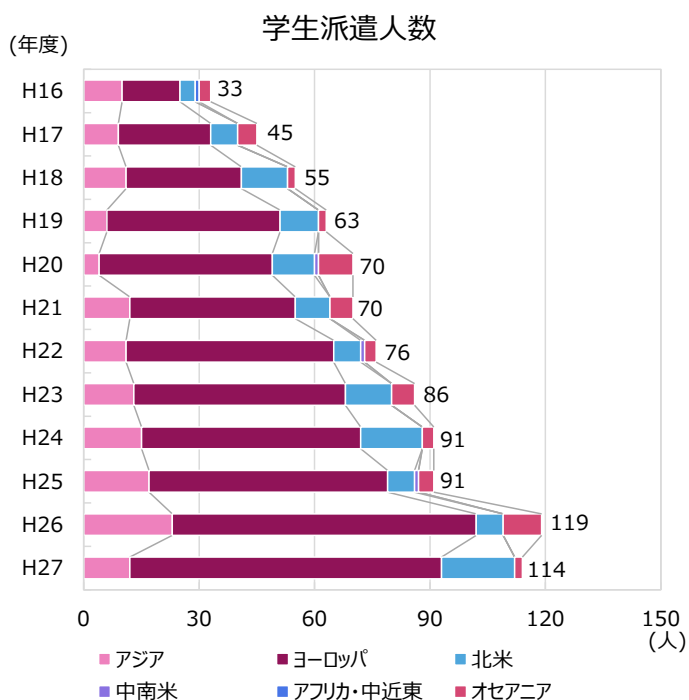
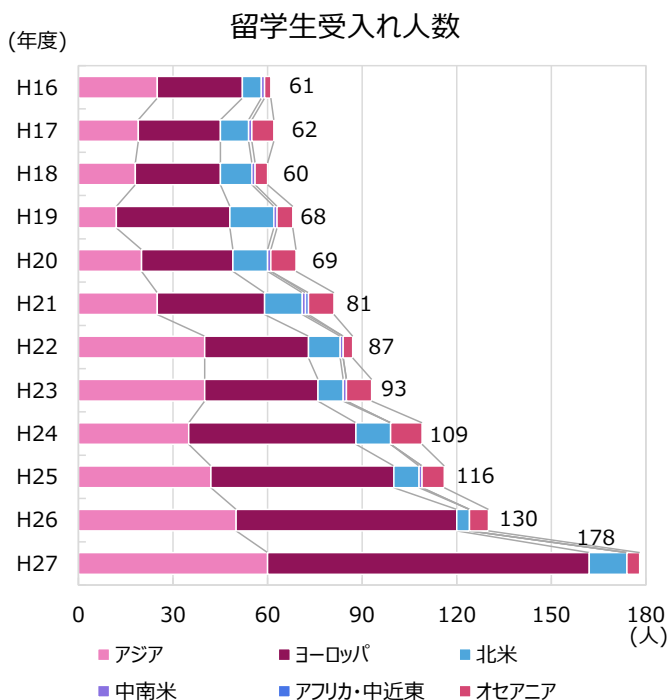
21-1 外国の大学等との学術交流協定の締結状況

○ 大学間学術交流協定締結数について、平成19年度に一度減少したものの、その後は着実に増加しており、近年アジア、ヨーロッパを中心に締結数が著しく増加している。減少傾向にあった北米との協定も近年は少しずつ増加している。



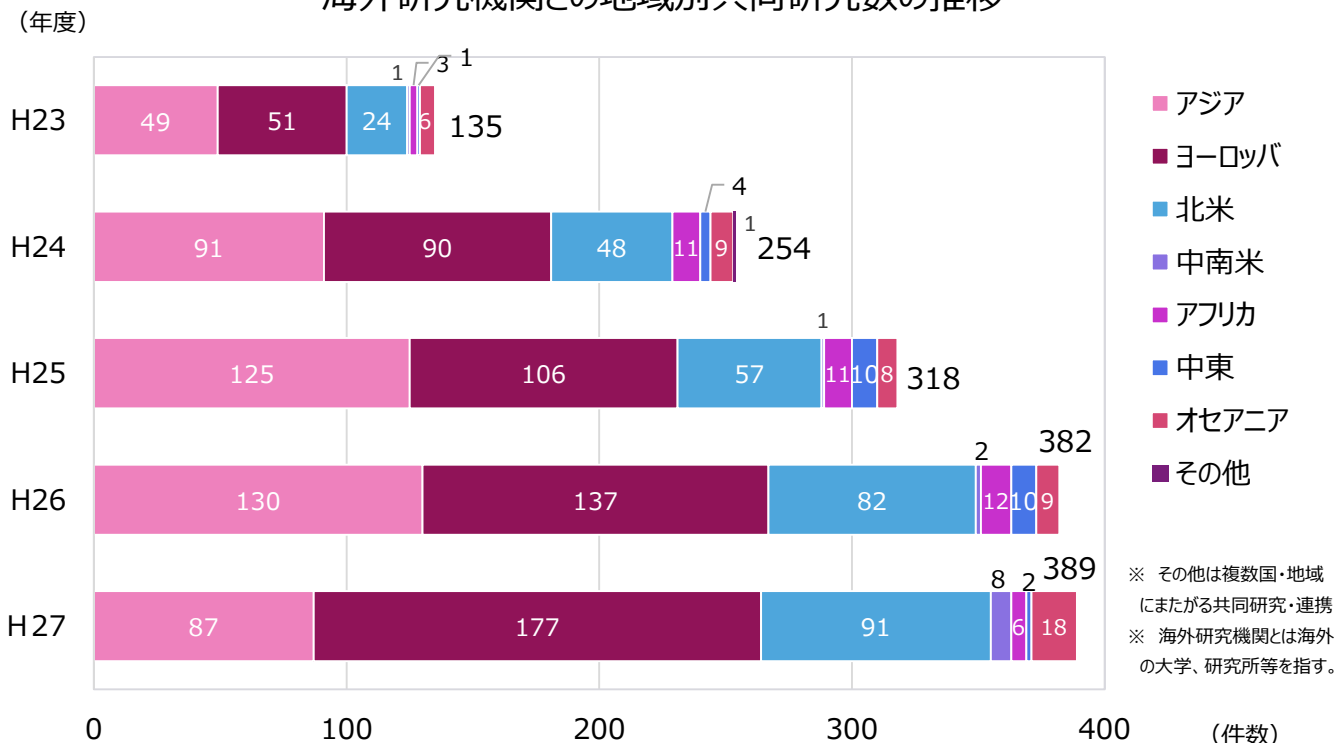
21-2 大学間学術交流協定に基づく留学生受入れ・学生派遣状況

○ 留学生の受入れでは、近年ヨーロッパからの留学生の増加が目立ち、ヨーロッパとの教育・研究の連携に重点を置く本学の特徴が現れている。北米については、H27年度の留学生受入れ、学生派遣共に人数が増加しており、近年の学術交流協定数の伸びも含め交流の活発化が伺える。

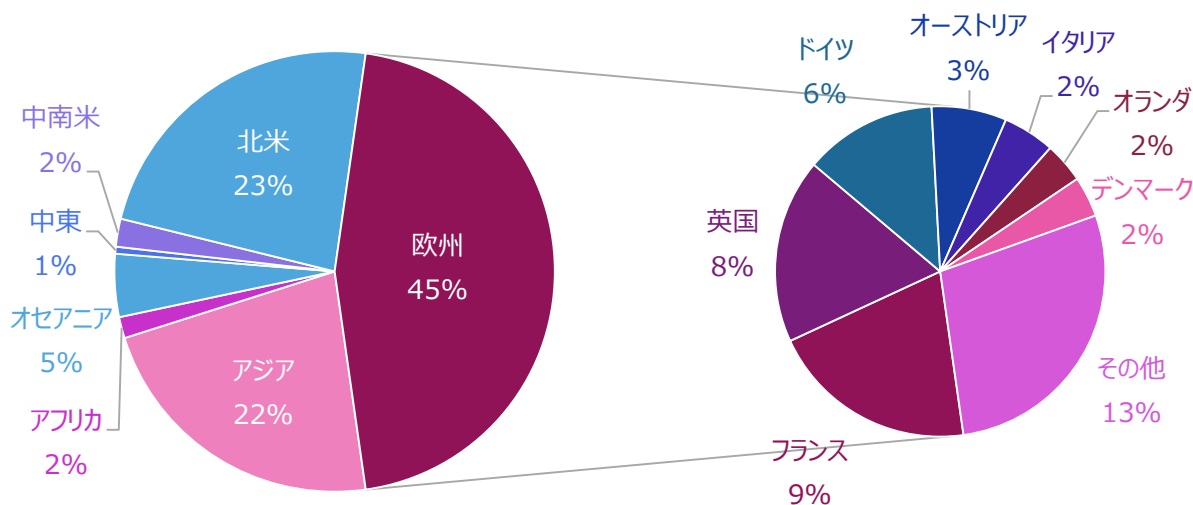


- 海外研究機関との共同研究については、アジア、ヨーロッパ、北米地域との共同研究が、全体のほとんどを占めている。
- 平成27年度は、初めて北米地域との共同研究数がアジア地域との共同研究数を上回った。統計を開始した平成23年度からの件数の伸び率は北米が3.7倍となっており、地域別比較で一番の伸びを見せている。また、ヨーロッパ地域との共同研究が近年大きく伸びており、平成27年度には、全体の半分近くを占めていることがわかる。
- ヨーロッパ地域の共同研究を国別に見ると、本学のブリュッセルオフィスに近いフランス、英国、ドイツを中心に様々な国との研究が進んでいることが伺える。平成27年10月にはポーランドのクラクフにもオフィスを開所しており、今後東欧諸国の研究機関との共同研究の活発化が期待される。

海外研究機関との地域別共同研究数の推移



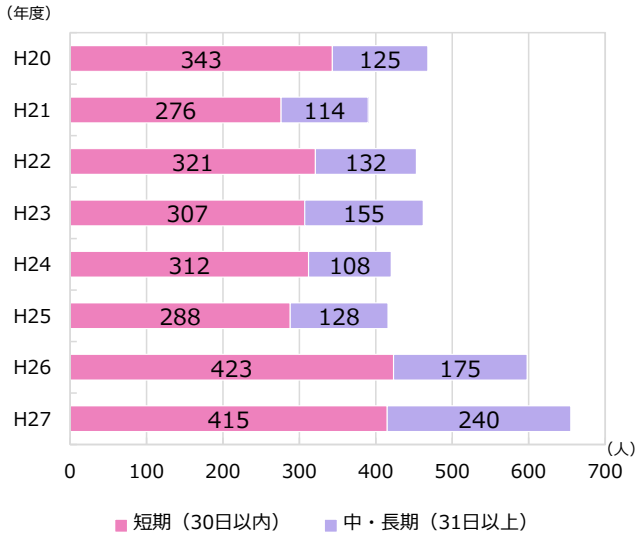
平成27年度海外研究機関との共同研究の国・地域別割合



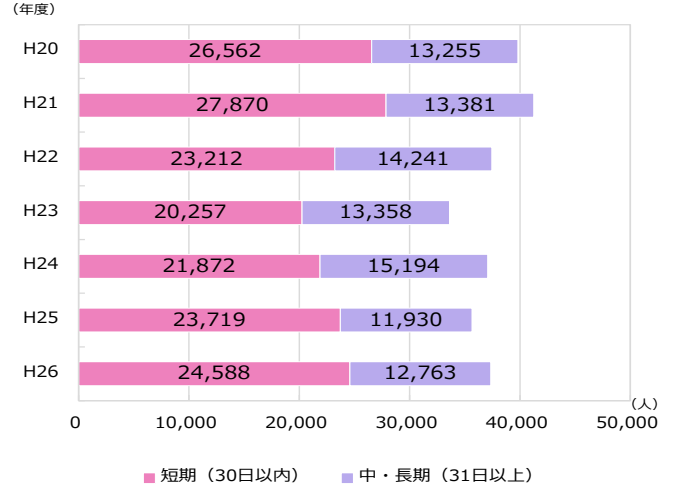
22. 研究者等交流状況

22-1 外国人研究者受入れ数の推移

神戸大学における期間別外国人研究者受入れ数

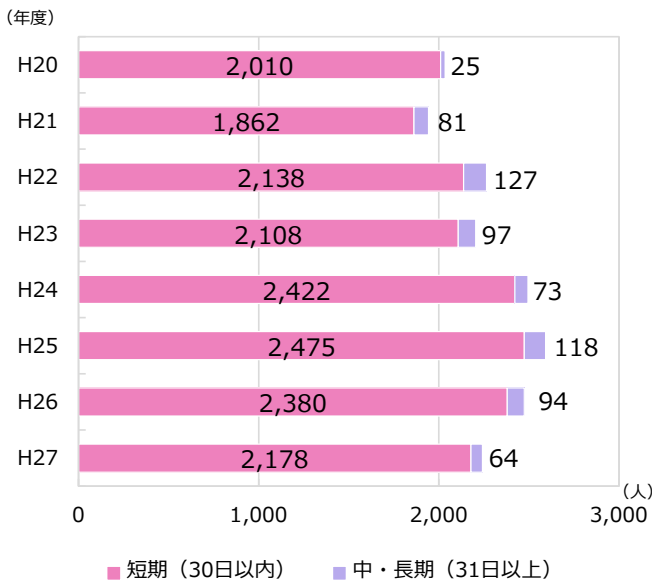


国公立大学・独立行政法人等の期間別受入れ研究者数

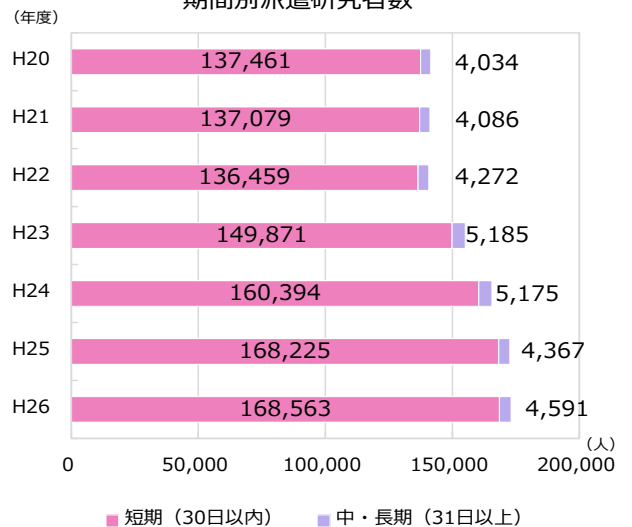


22-2 研究者海外派遣数の推移

神戸大学における期間別研究者派遣数



国公立大学・独立行政法人等の期間別派遣研究者数



23. 国際化の状況

23-1 神戸大学の位置

外国人教員等数の割合

(平成28年5月1日現在)

順位	大学名	外国人教員等数	総教員数	外国人教員等の割合
1	神戸大学	641	1,627	39.4%
2	九州大学	832	2,417	34.4%
3	北海道大学	711	2,430	29.3%
4	東北大学	921	3,187	28.9%
5	筑波大学	493	1,900	25.9%
6	千葉大学	285	1,367	20.8%
7	新潟大学	128	1,124	11.4%

外国人教員等数当たりの学生数

(平成28年5月1日現在)

順位	大学名	総学生数	外国人教員等数	外国人教員等数当たりの学生数
1	東北大学	18,556	921	20.15
2	九州大学	18,660	832	22.43
3	北海道大学	17,415	711	24.49
4	神戸大学	16,356	641	25.52
5	筑波大学	16,652	493	33.78
6	千葉大学	14,163	285	49.69
7	新潟大学	12,756	128	99.66

外国語による授業の実施率

(平成27年度実績)

順位	大学名	外国語による授業数	全授業数	実施率
1	筑波大学	2,813	13,957	20.2%
2	九州大学	1,350	9,932	13.6%
3	北海道大学	875	7,526	11.6%
4	神戸大学	446	5,374	8.3%
5	東北大学	521	6,662	7.8%
6	千葉大学	75	3,778	2.0%
7	新潟大学	90	5,680	1.6%

外国人留学生の全学生に対する割合

(平成28年5月1日現在)

順位	大学名	外国人留学生数	全学生数	外国人留学生の割合
1	筑波大学	2,490	16,652	15.0%
2	九州大学	2,181	18,973	11.5%
3	東北大学	2,023	18,556	10.9%
4	北海道大学	1,777	18,191	9.8%
5	神戸大学	1,304	16,356	8.0%
6	千葉大学	877	14,591	6.0%
7	新潟大学	503	12,756	3.9%

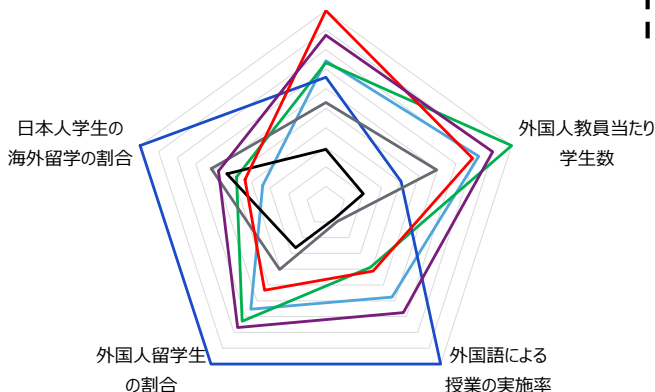
日本人学生の海外留学生の全学生に対する割合

(平成27年度実績)

順位	大学名	海外留学生数	全学生数	海外留学の割合
1	筑波大学	1,378	16,652	8.3%
2	千葉大学	745	14,591	5.1%
3	九州大学	813	17,013	4.8%
4	新潟大学	562	12,756	4.4%
5	東北大学	734	18,460	4.0%
6	神戸大学	589	16,356	3.6%
7	北海道大学	511	18,191	2.8%

割合等が最も上位の大学の指数を1とした場合の相対比較

外国人教員等数の割合



— 北海道大学 — 東北大学 — 筑波大学 — 千葉大学 — 新潟大学 — 神戸大学 — 九州大学

出典：独立行政法人 日本学術振興会「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（旧グローバル人材育成推進事業）」平成28年度フォローアップ結果

事業採択大学から、学生収容定員1万人以上の国立大学法人を比較

- 注1) 外国人教員等数：外国籍の教員に加え、国外の大学での学位取得、通算1年以上教育研究に従事した日本人教員を含む。
- 注2) 外国語による授業の実施率：日本語の併用や外国語教育を主たる目的とするものを除く。
- 注3) 日本人学生の海外留学生数：平成27年4月1日から平成28年3月31日までに海外の大学において留学を開始した日本人学生数
- 注4) 外国人留学生：「留学」の在留資格を有さない短期留学生、「日本人の配偶者等」等の在留資格により大学に在学する外国人学生、学位や単位の取得を目的としないもの、大学院生レベルの教育指導を受ける外国人研究者として当該大学が受け入れている者を含む。

○ 神戸大学は、外国人教員等数の総教員数に対する割合（ただし、641人のうち外国籍の教員は59人）が比較的高い。

一方、外国人留学生の割合はそれほど高くなく、他大学を見ると外国語による授業の実施率との相関関係が見受けられることから、外国語による授業の増加を含めた教育プログラムの国際通用力を強化することにより、外国人留学生の割合も高くなる可能性がある。

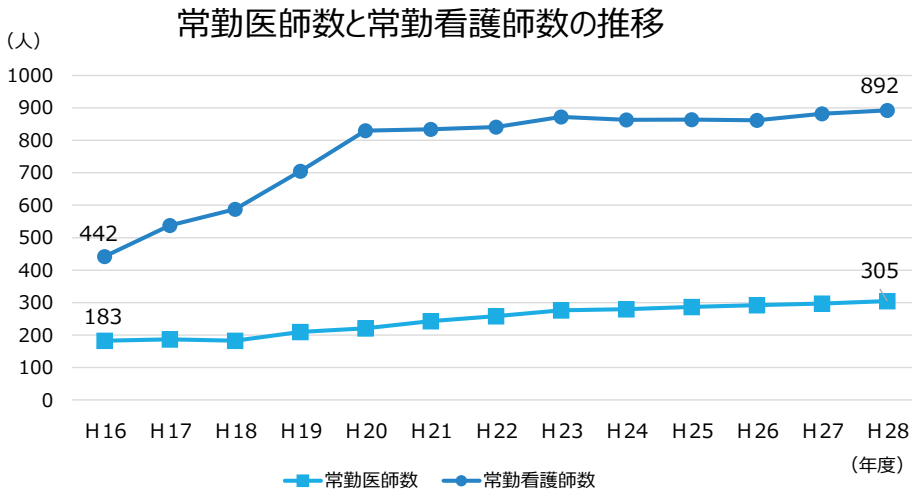
24. 附属病院

24-1 附属病院の病床数・常勤医師数・常勤看護師数

○ 常勤医師数は平成16年度と比較すると、約**1.7倍**となっている。また、常勤看護師数は平成16年度から平成20年度にかけて約**2倍**に増加し、平成21年度以降は微増となっている。

病床数		常勤医師数	常勤看護師数
一般病棟	精神病棟		
888床	46床	305名	892名

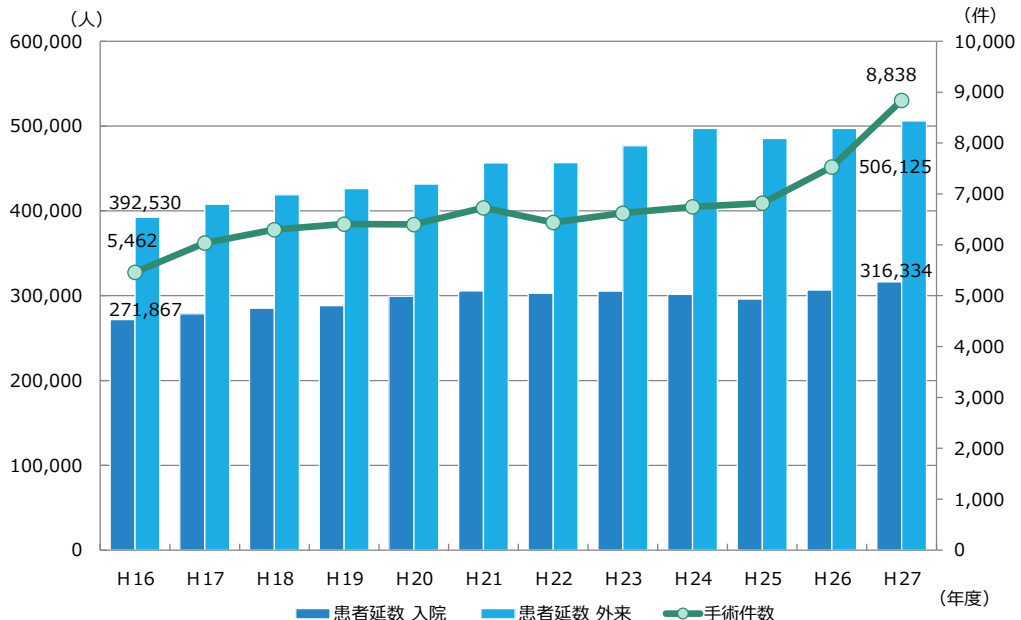
平成28年5月1日現在



24-2 附属病院の患者数と総手術件数の推移

○ 患者延べ数、総手術件数ともに、**増加傾向**にある。平成16年度に比べて、患者延べ数約**1.2倍**、総手術件数は約**1.6倍**、となっている。

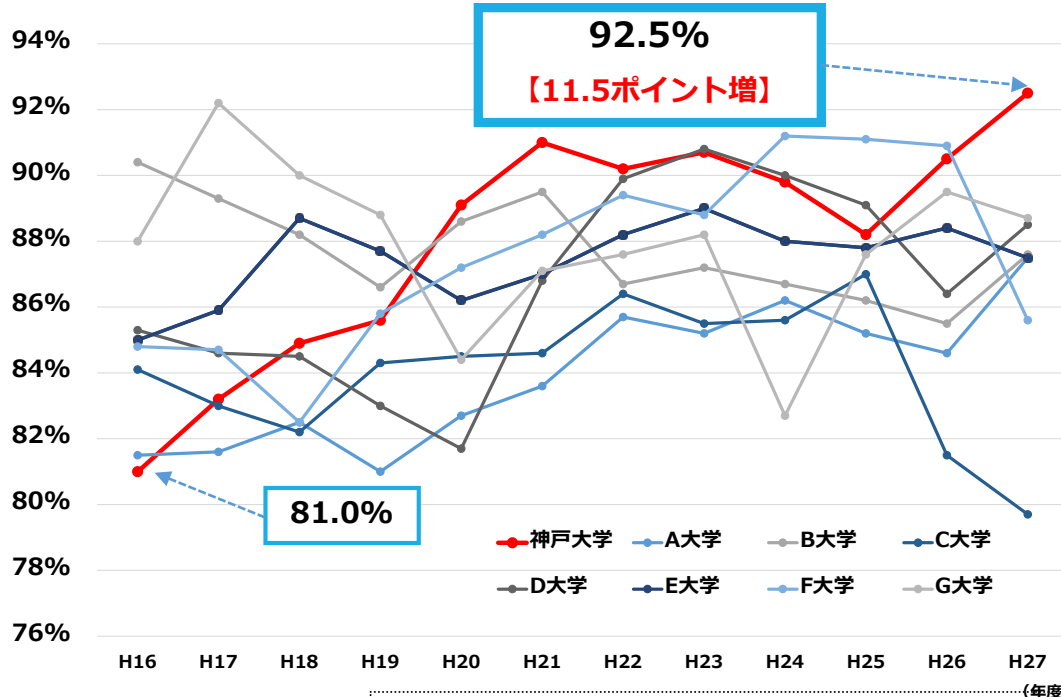
特に総手術件数は、平成26年度に低侵襲総合診療棟の増築による手術室の拡張及び増室等により、平成26年度と比べて、**1,307件（対前年比117%）の大幅増**となっている。



・患者延数 入院・・・退院患者数+在院患者延数
 ・患者延数 外来・・・新来患者数+再来患者数

○ 平成27年度の本学を含む8国立大学における病床稼働率は**1位**となっており、平成16年度以降大きく改善し、近年高水準を維持している。なお、全国の国立大学附属病院における病床稼働率においても**1位**となっている。

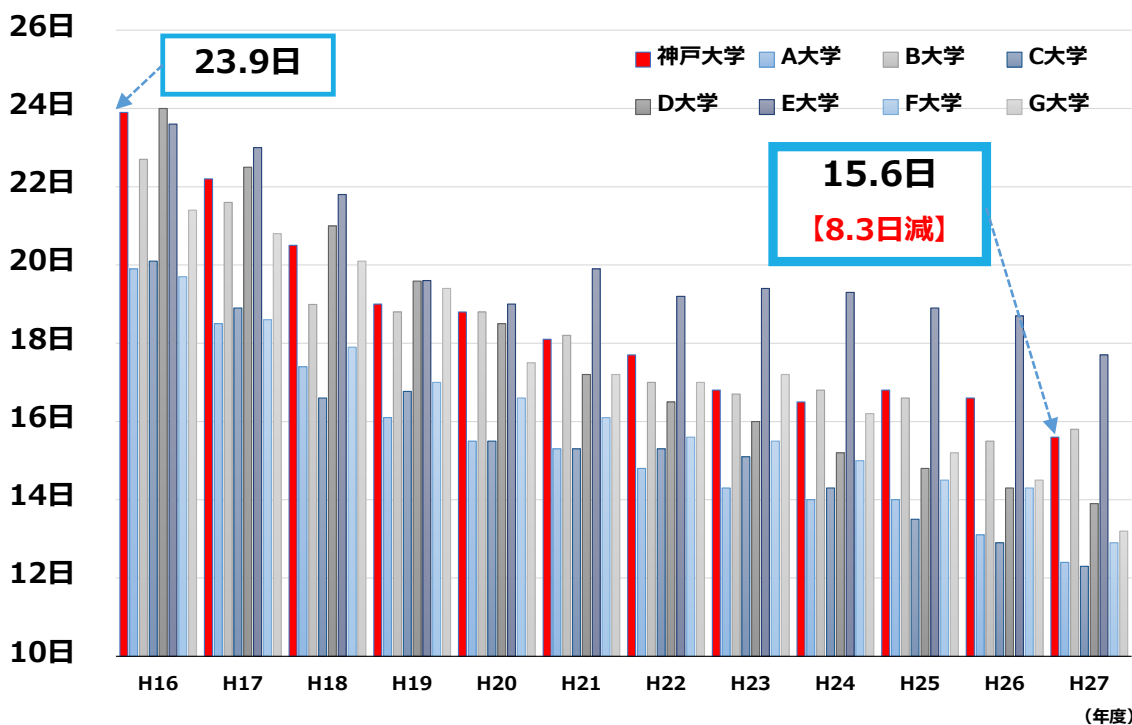
病床稼働率の推移（H16～H27年度） 病床数が同規模である8国立大学について比較



【出典】

・病床稼働率（分院除く）・・・H16～H27:国立大学病院DBC病院資料

平均在院日数（一般病床）の推移（H16～H27年度） 病床数が同規模である8大学について比較



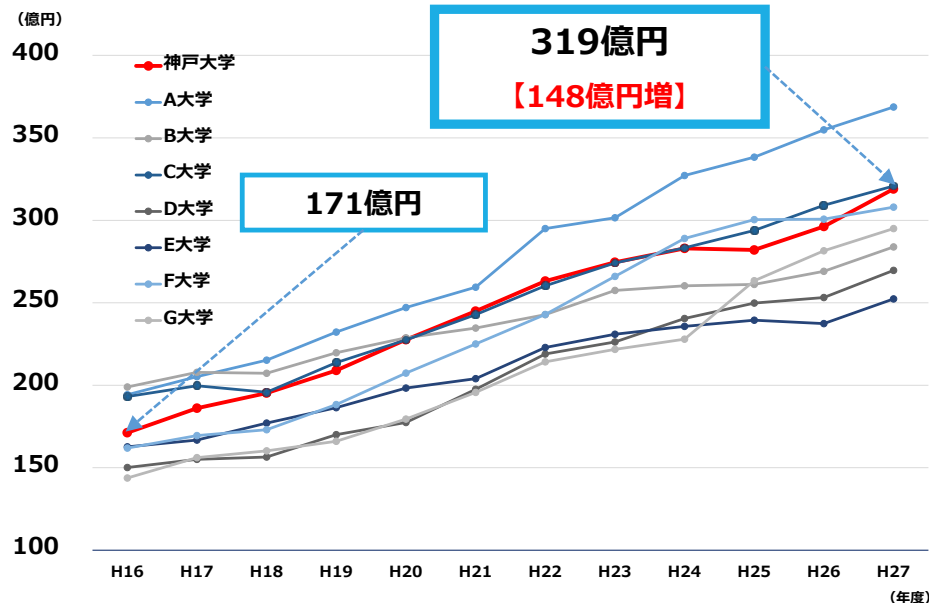
【出典】

・平均在院日数（一般病床）・・・H16～H27:国立大学病院DBC病院資料

附属病院の診療報酬請求額の推移

診療報酬請求額の推移（H16～H27年度）

病床数が同規模である8国立大学について比較



○ 本学の平成27年度診療報酬請求額は319億円となっており、平成16年度と比べ148億円の増となっている。

本学を含む8国立大学における診療報酬請求額の平成27年度の対前年度比の伸び率は**1位 (108%)**となっている。

また、全国の国立大学附属病院における診療報酬請求額についても、平成26年度からの増加額は**2位 (伸び率は3位)**となっている。

《参考》

(千円)

大学名	病床数	運営費交付金 (H26年度)	大学名	病床数	運営費交付金 (H26年度)
神戸大学	934床	3,128,767	D大学	862床	3,366,899
A大学	1,035床	4,769,716	E大学	838床	3,217,293
B大学	946床	2,940,110	F大学	835床	3,383,361
C大学	909床	3,335,320	G大学	800床	3,065,229

【出典】

- ・診療報酬請求額 … H16～H27：国立大学病院DBC病院資料
- ・病床数 … 国立大学病院DBC病院資料（H27.6.1現在）
- ・運営費交付金 … 各大学の財務諸表（附属病院の運営費交付金収益）

その他 教育・研究・高度医療・地域医療 への貢献

教育

将来の医療を担う医療従事者の育成

- ・医学生、看護学生等の教育
- ・初期研修医（91名）の指導
- ・専門医の養成（プログラム登録者611名）
- ・エキスパートコメディカル育成（H28.5.1現在コース修了者121名）

診療

- ・地域の中核病院として専門性を有した質の高い医療の提供
- ・小児科、産科、救急医療など地域医療の充実のための診療部門における医療の提供
- ・中央診療棟の増築により手術室の拡張・増室など基盤強化した診療の提供



手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」



ハイブリット手術室

研究

臨床医学発展の推進と医療技術水準の向上への貢献

- ・新薬等開発のための臨床試験(治験)
- ・先進医療の開発
ベベルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法（適応症：閉塞性動脈硬化症等）
- ロボット支援手術（適応症：腎癌等）ほか

社会貢献

- ・地域がん診療連携拠点病院
- ・災害拠点病院
- ・エイズ治療拠点病院
- ・2次救急医療機関（3次的機能病院）
- ・兵庫県総合周産期母子医療センター指定
- ・医師が不足している地域に医師を派遣

25. 附属学校

基本データ

平成28年5月1日現在

附属学校園	生徒数	クラス数	教諭数
附属幼稚園	129	6	7
附属小学校	436	12	20
附属中等教育学校	935	26	61
附属特別支援学校	50	9	31
計	1,550	53	119

- 附属幼稚園・小学校
(文部科学省事業)
・平成25年度～平成28年度 文部科学省 研究開発学校指定
- 附属中等教育学校
(文部科学省事業)
・平成27年度スーパーグローバルハイスクール (SGH) 指定
・平成25年度～平成28年度 文部科学省 研究開発学校指定

中等教育学校卒業生の進路状況

中等教育学校では、平成27年3月に初めての卒業生 (1回生) を輩出し、主に大学等へ進学している。

【1回生及び2回生の主な進学先】

(国公立大学)

神戸大学、北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、兵庫県立大学、大阪市立大学、大阪府立大学 他

(私立大学 (大学校を含む。))

自治医科大学、防衛医科大学校、早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、明治大学、青山学院大学、東京理科大学、東京農業大学、関西学院大学、関西大学、同志社大学、立命館大学、近畿大学、甲南大学 他

単位: 人

区分	1回生 (平成27年度入試)			2回生 (平成28年度入試)		
	男	女	計	男	女	計
国公立大学	12	15	27	11	12	23
海外の大学	1	0	1	0	0	0
私立大学 (大学校含む)	30	43	73	20	41	61
短期大学	0	3	3	1	2	3
各種・専門学校	1	2	3	1	0	1
就職: 企業等	0	0	0	0	0	0
就職: 公務員	0	1	1	0	0	0
進学準備	21	13	34	36	13	49
卒業生数	65	77	142	69	68	137

教育実習等の実施

附属学校園では、神戸大学の学生を中心に教育実習や介護等体験を実施している。

附属学校園	実習の種類	実習者数(人)
附属幼稚園	教育実習	14
附属小学校		36
附属中等教育学校		55
附属特別支援学校	介護等体験	26
		176

神戸大学dayの開催

平成27年6月

中等教育学校において3・4年生の生徒を対象とした、神戸大学全体及び各学部のガイダンスや講義を実施する「神戸大学day」を開催した。本取組は平成24年度から開催しており、平成27年度は神戸大学全学部から12名の教員と22名の学生が協力した。

【内容】

- ◇教育担当理事による神戸大学の概要等説明
- ◇神戸大学に進学した中等教育学校卒業生からの話
- ◇各学部ガイダンス・講義・質問対応



連携授業の実施

平成27年10月

経済学部との協力の下、六甲台第1キャンパスにある経済学部において、約170名の小学生・中等教育学校生及び保護者が大学の授業を受けた。

【授業内容・見学】

『どうなる!? 日本経済』

『環境と経済は両立する: 環境経済学って何か?』

『消費行動の実験』



26. 公開講座等

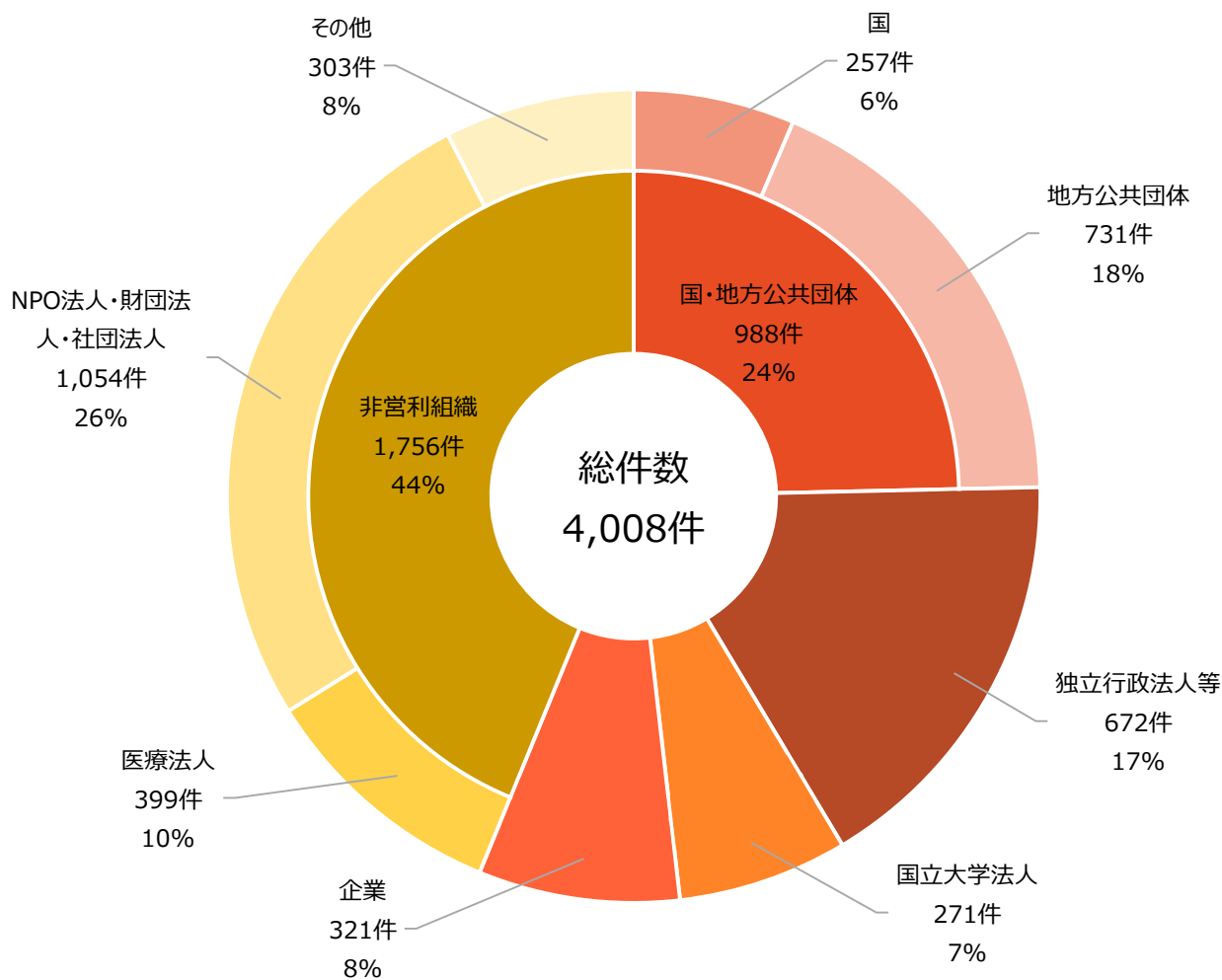
《平成27年度実施の公開講座等》

部 局 名	講 座 名	受講対象者	時間数 (時間)	募集人数 (人)	受講者数 (人)
全学	神戸大学研究最前線～グローバルに活躍する研究者たち～	一般市民、学生	9	180	136
	第4回シンポジウム 「神戸大学のミリョク」	中学生・高校生とその保護者	4	200	104
人文学研究科	境界を作る・越える	一般市民、学生	6	100	83
	まちづくり地域歴史遺産活用講座2015	一般市民、学生	9	20	9
	まちづくり地域歴史遺産活用講座2015オプションプログラム古文書解説講座	一般市民	6	20	12
国際文化学研究科	人類の営為 -言語と行動-	一般社会人、学生(中学生以上)	6	200	136
人間発達環境学研究科	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト 第17回アカデミックサロン 「～神戸大学大学院生企画～みんなで楽しもう！新しい遊び！」	鶴甲地区住民、教職員、学生	2	—	50
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト「講習会&みんなでラジオリ体操」	鶴甲地区住民、教職員、学生	1	—	100
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト 第18回アカデミックサロン 「みんなで楽しもう！大学でひと味違う お月見会」	鶴甲地区住民、教職員、学生	1.5	20	52
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト 第19回アカデミックサロン 「ニュートリノ振動 -ニュートリノとは何か？ニュートリノ振動とは何か-」	鶴甲地区住民、教職員、学生	1.5	—	60
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト 第20回アカデミックサロン 「首でたどる山田耕祐～知られざるその人生～」	鶴甲地区住民、教職員、学生	2	—	66
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト 連続講座第4弾 「園芸教室 -野菜や草花を育ててみよう-」	鶴甲地区住民、教職員、学生	4.5	25	25
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト 連続講座第5弾 「秋の園芸教室 -野菜や草花を育ててみよう-」	鶴甲地区住民、教職員、学生	6	25	30
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト 連続講座第6弾「健康教室」	鶴甲地区住民、教職員、学生	3	30	24
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト 連続講座第7弾 「睡眠教室 -3月18日は春の睡眠の日、こころと眼の深い関係-」	鶴甲地区住民、教職員、学生	3	20	25
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト「防災避難訓練・第5回タウンミーティング」	鶴甲地区住民、教職員、学生、行政関係者	2	—	100
	日本スポーツ振興センター スポーツ庁委託事業「国際競技大会情報ネットワーク形成支援事業」 21世紀における国際スポーツイベントの在り方に関する調査研究 神戸大学特別セミナー	教員、学生	2	—	20
	アクティブエイジング研究センター設立記念国際シンポジウム： 神戸大発エイジング研究の新たな将来像と可能性を探る	市民、学生、教員、企業、行政（一般公開）	6	200	200
	音楽教育シンポジウム -教育の場における音楽の喜びとは-	小・中・高の教員及び生徒並びに保護者と教員志望の学生や地域住民	3	—	40
	学術Weeks 2015 発達科学部 地域連携アートプロジェクト タイムスリップコンサート ～運命のもたらすものとは～	地域住民及び学生・生徒	3	—	60
経営学研究科	神戸大学グローバル新時代ビジネスシンポジウム 第1回「人生を変えるMBA -「神戸方式」で学ぶ最先端の経営学-」	一般社会人、学生等	2	200	152
	神戸大学グローバル新時代ビジネスシンポジウム 第2回「コーポレート・ガバナンス3.0 -日本型、米国の次に来るものは何か-」	一般社会人、学生等	2	200	111
	神戸大学グローバル新時代ビジネスシンポジウム 第3回「理系人材とアントレプレナーシップ -科学技術イノベーションと戦略的企業家精神の交差点で、新事業・新産業は生まれる-」	一般社会人、学生等	2	200	138
理学部	サイエンスセミナー 2015 「サイエンス最前線」	高校生、一般市民	40分×5	120	80
医学部	地域医療シンポジウム 2015 in ひょうご 「地域医療のあり方と住民の地域医療教育への関わりを考える」	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生、 医療従事者を目指す高校生	7	100	90
	地域医療シンポジウム「今後の地域医療のあり方」	医師、看護師、地域住民など	2	300	400
	第1回D&Nplusブラッシュアップセンター講演会 「医療機関におけるワーク・ライフ・バランス」	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生	1	100	50
	第2回D&Nplusブラッシュアップセンター講演会 「医師として研究者としての子育て期の働き方」	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生	1	100	50
医学部附属病院	ワークライフバランスミーティング	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生	3	100	80
	大リーガー医セミナー	研修医、学生、指導医、興味のある方	6	100	80
	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成フォーラム「平成27年度災害・救急医療フォーラム」	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生	1.5	60	45
	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成フォーラム「地域包括ケアの推進と多職種協働」	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生	2	100	80
	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成フォーラム「周産期医療におけるスキルミクス」	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生	1	200	167
神戸大学医学部附属病院内市民公開講座 -がんに関する最新の治療と生活・就労支援- (地域がん診療連携拠点病院機能強化事業)	一般市民	2	300	180	
医学研究科	第33回神戸大学大学院医学研究科公開講座 「臓器の老化とアンチエイジング」	一般市民、学生	6	100	84
保健学研究科	平成27年度神戸大学大学院保健学研究科市民講座 「最新の研究から家庭の保健・医療へ」 -元気で長生きするために-	一般市民、学生(高校生以上)	4	100	166
工学部	広がる工学研究の世界	一般社会人、学生・生徒	9	100	76
農学研究科	哺乳動物の生殖メカニズム -生殖細胞の形成・成熟と受精-	一般市民、学生等	3	100	45
海事科学研究科	ヨットクルージング	軽い運動の可能な人(20歳～70歳)	42	16	16
	社会の基盤を支える海上輸送	高校生以上	3	50	43
	海事博物館市民セミナー「大戦中の日本商船、船員の姿」	高校生以上	各2 (全3回)	345	103
経済経営研究所	多種多様な市場取引 -その働きと効率性-	一般市民	9	180	136
経済経営研究所・ 社会科学系教育研究科	神戸大学社会科学系教育研究科・神戸大学経済経営研究所 公開講座 「豪商たちの近世・近代 -福岡清子を育んだ時代-」	一般市民、学生、教職員	3	500	372
社会科学系教育研究科	佐藤優氏講演会 「緊迫する世界情勢 テロとウクライナ問題」	一般市民、学生、教職員	1.5	200	250
統合研究拠点	神戸大学統合研究拠点サロン「惑星学の展開と惑星としての地球」	一般市民	3	300	69
海洋底探査センター	神戸大学海洋底探査センター 設置記念シンポジウム -巨大カルデラ火山の恩恵と試練-	教員、学生、一般市民	3	300	240
留学生センター	第35回神戸大学留学生センター・コロッキアム 「オンラインプレースメントテストの活用と課題」	教員、学生、一般市民	4	10	15

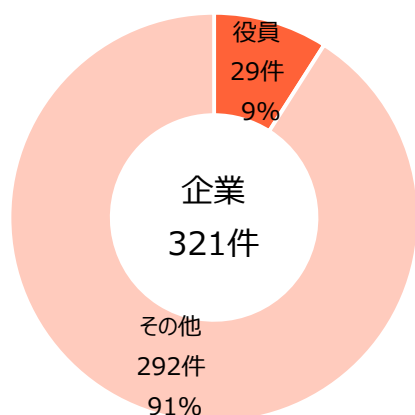
27. 学外機関への参画状況

- 本学教員の学外の機関への参画状況について、国・地方公共団体及び独立行政法人等への参画は41%、企業及び非営利組織への参画は52%となっている。
- 企業への参画件数321件のうち、29件（9%）は役員としての参画である。

◆組織別参画状況（H27年度）



◆企業への参画状況（H27年度）



※1 平成27年度に当該機関から委嘱されているものが対象。1教員が複数機関から委嘱されている場合については、複数カウントしている。

※2 他大学等で教育に従事する者（非常勤講師等）は含めていない。

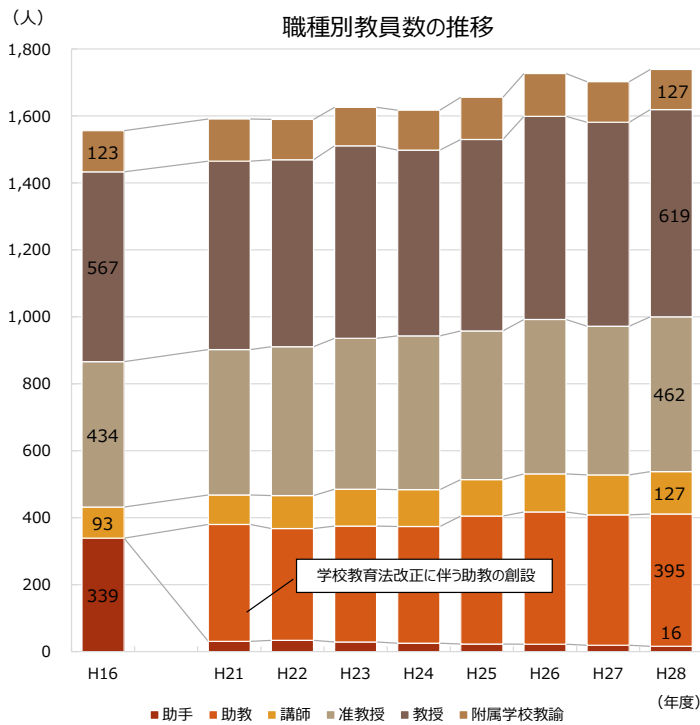
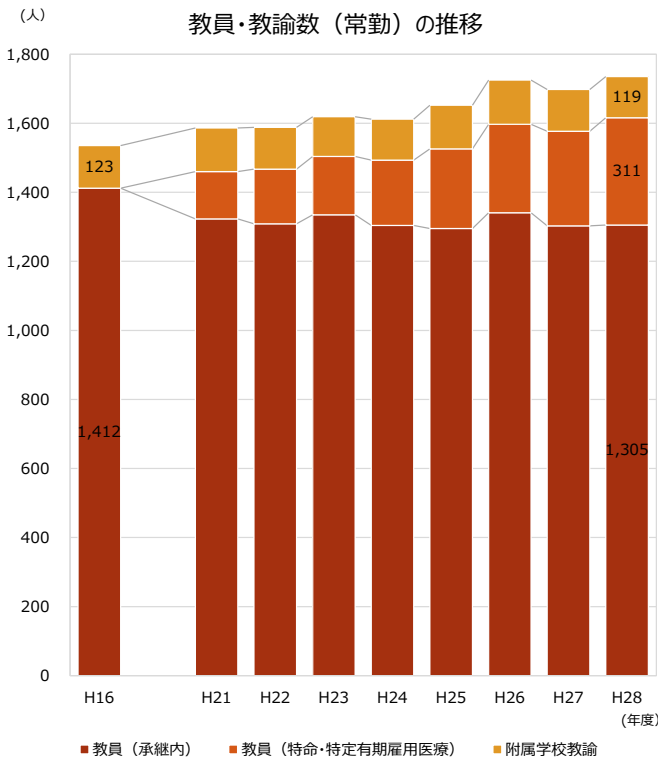
28. 教員

28-1 教員数の推移

法人化時より常勤教員（承継内）は減少し、特命教員及び特定有期雇用医療教員は増加している。

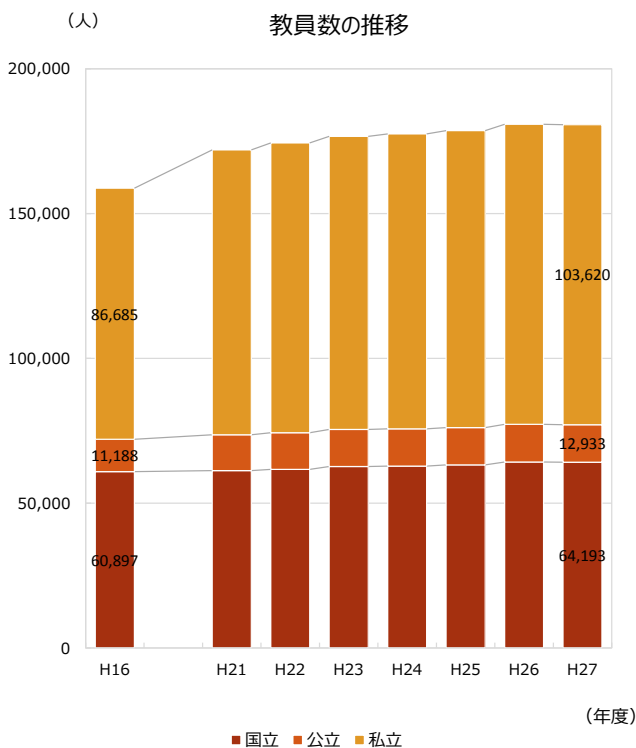
◆教員◆（神戸大学）

各年度5月1日現在



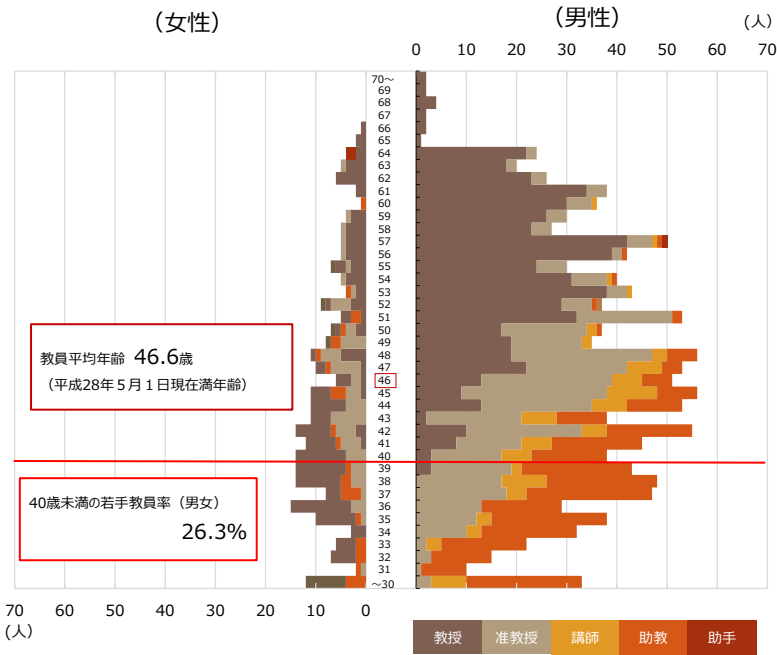
◆教員◆（全国）

各年度5月1日現在



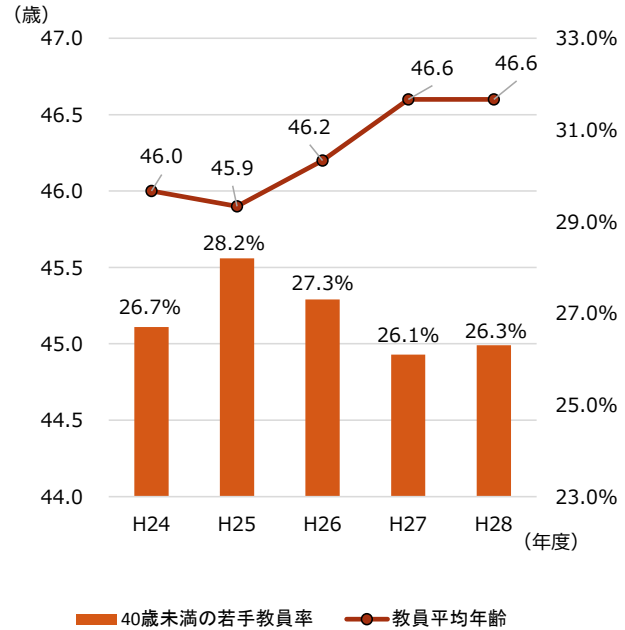
- 教員の平均年齢は、近年上昇傾向にあり、平成22年度から開始した定年延長の影響が現れていると言える。40歳未満の若手教員率については、平成25年度をピークに近年減少傾向にある。
- 外国人教員については、近年人数・割合ともに増加していたが、平成28年度は減少した。
- 女性教員比率については、近年停滞気味ではあるが、ゆるやかに上昇している。

◆男女別・年齢別・職種別教員数◆
(神戸大学)

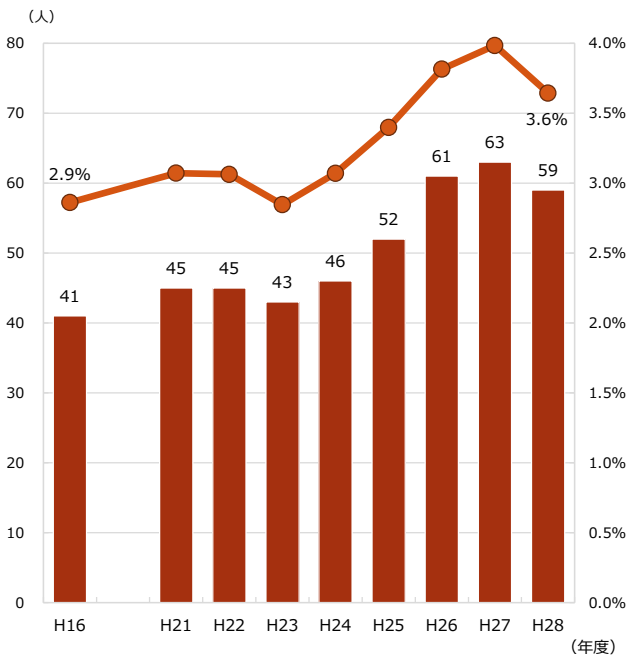


※教員平均年齢及び若手教員率算出には、役員・教諭の数を含めていない。

◆教員の平均年齢と若手教員率の推移◆
(神戸大学)

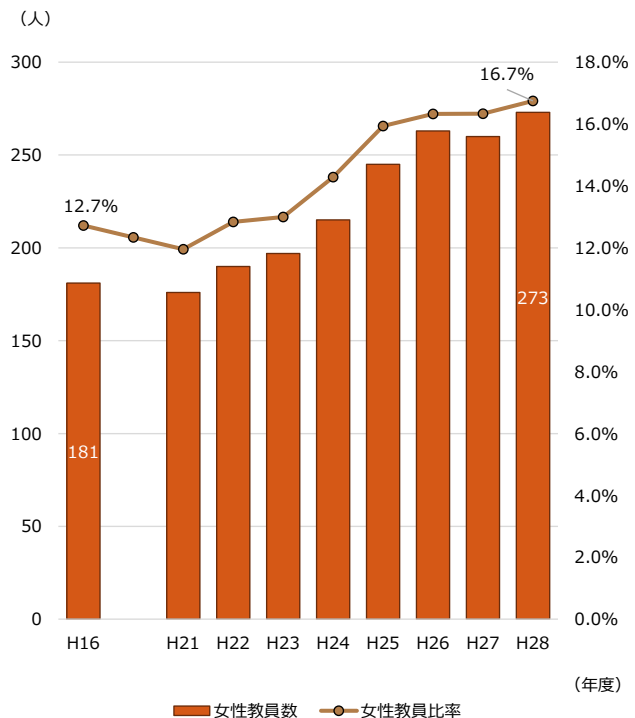


◆外国人教員数・外国人教員比率◆
(神戸大学)



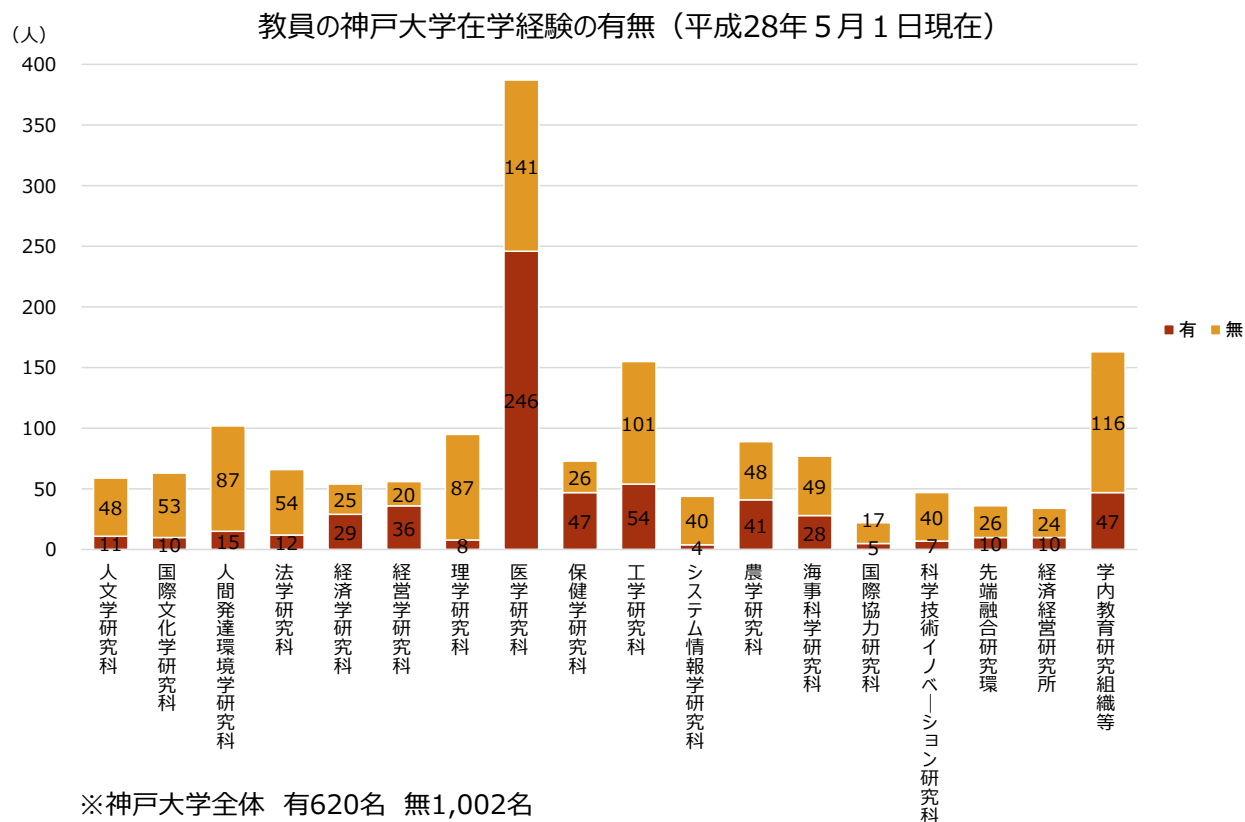
※平成28年5月1日現在の外国人教員の国籍は、中華人民共和国、アメリカ合衆国、大韓民国、ルーマニア、ドイツ及びイギリス等19の国と地域となっている。

◆女性教員数・女性教員比率の推移◆
(神戸大学)



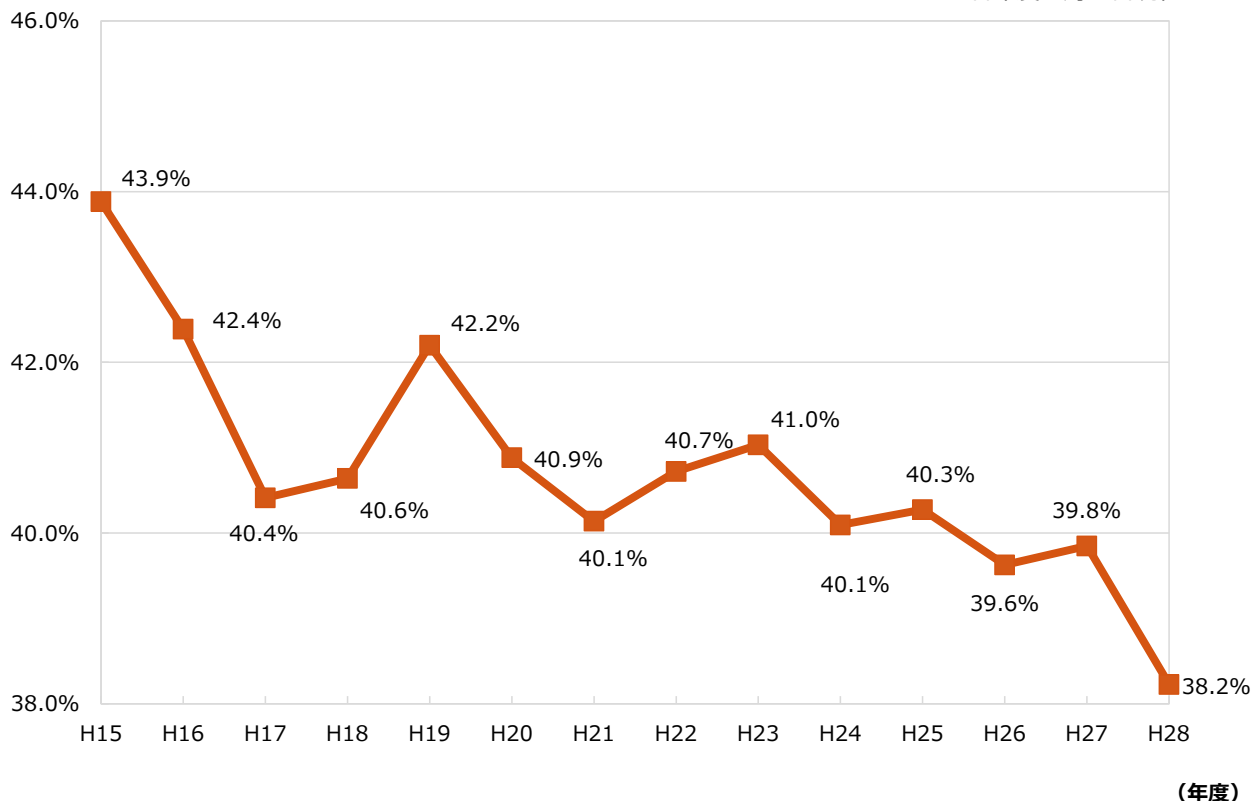
28-3 教員の神戸大学在学経験者

- 教員の公募により幅広い人材の採用が進み、本学に在学経験のある教員の比率は平成28年度38.2%と過去最少となった。



教員の神戸大学在学経験者の推移

各年度5月1日現在



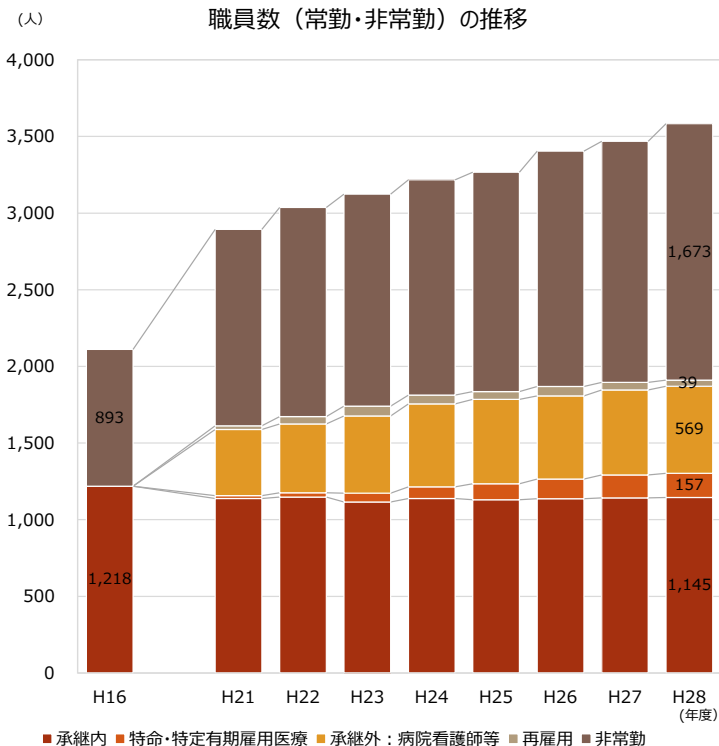
29. 職員

- 法人化時より常勤職員（承継内）が減少している一方、非常勤職員は大幅に増加している。職種別では、医療系職員が大幅に増加していることが分かる。
- また、女性職員については、法人化時に比べ人数・割合ともに大幅に増加しているが、これは看護師等の医療系職員の増加によるものである。

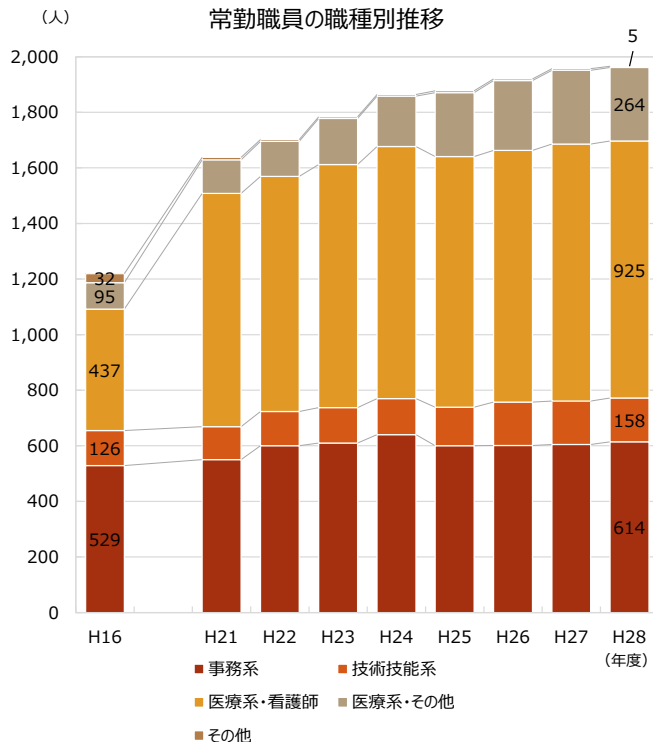
◆職員◆（神戸大学）

各年度5月1日現在

職員数（常勤・非常勤）の推移



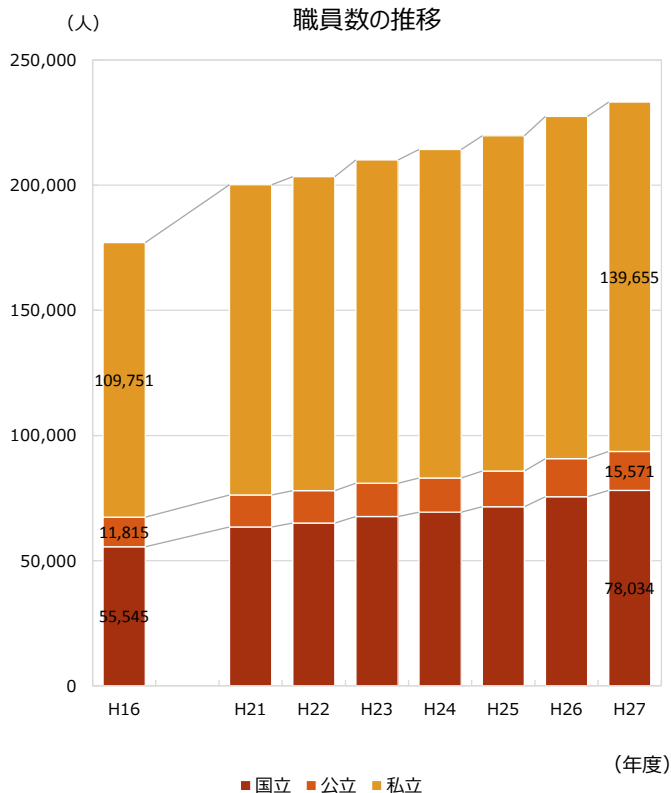
常勤職員の職種別推移



注) 左図は休職者を含まない現員数を、右図は休職者を含む数値を記載しているため、左右のグラフで常勤職員の合計数は一致しない。

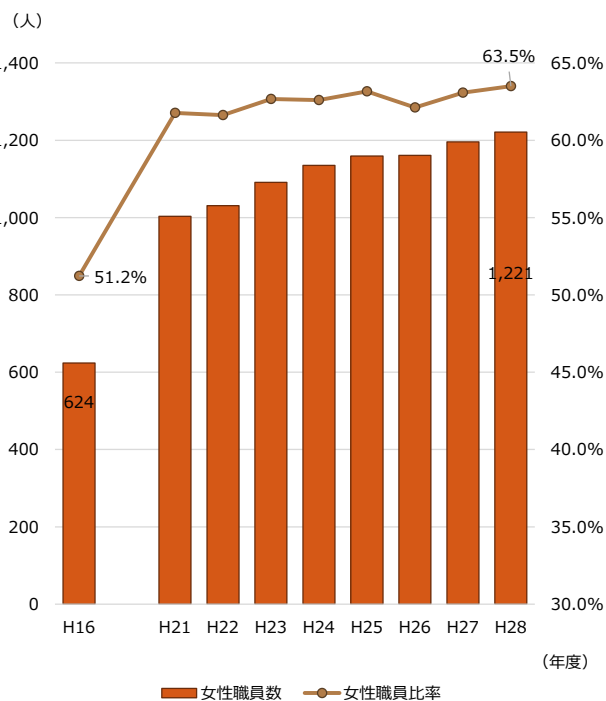
◆職員◆（全国）

職員数の推移



◆女性職員数・女性職員比率の推移◆

（神戸大学）



30-1 貸借対照表の概要

■ 建物

□ 統合研究拠点アネックス棟

平成27年3月に統合研究拠点アネックス棟が完成しました。統合研究拠点アネックス棟は地上4階建て、延べ床面積は約4,500平方メートル、有孔折板を規則的に重ねあわせた市松模様の外壁が特徴的な建物です。1階～3階部分に次世代バイオ医薬品製造技術研究組合が入居するほか、本学のバイオプロダクション、防災・減災、計算科学などをテーマとする多様な研究プロジェクトが入居し、分野横断型の先端研究を行います。

平成27年6月に開催された落成披露の式典では、安倍晋三内閣総理大臣より、「皆さんの力で、この拠点から、革新的な新薬を世に送り出し、日本のみならず、全世界の難病に苦しむ患者の方々に笑顔を届ける日を楽しみにしております。」という祝辞が贈られました。



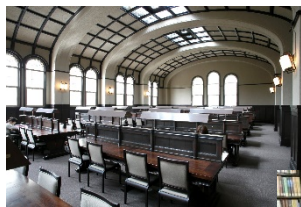
▲ 外観



▲ 内観

■ 図書

国立大学法人が教育・研究活動を行ううえで基礎となるものです。時の経過や使用により価値が減少するものではなく、永続的に教育・研究活動に資する重要な財産であるため、資産として計上しています。平成27年度の蔵書数は約376万冊となり、平成16年度末と比べると約39万冊増加しました。



▲ 社会科学系図書館 大閲覧室



▲ 社会科学系図書館 書庫

(単位：億円)

資 産	
土地	835.2
建物	640.1
構築物	37.1
機械装置・工具器具備品	134.7
図書	221.8
建設仮勘定	5.8
投資有価証券	26.2
その他固定資産	11.6
現金及び預金	63.4
未収入金	66.9
有価証券	19.0
その他流動資産	5.7
資産合計	2,067.6

■ 機械装置・工具器具備品



▲ プリ・ポスト用計算機システム

スーパーコンピュータ「京」で計算されるテラスケールのシミュレーション・データをポスト処理し、解析することが可能な計算機システムです。大規模シミュレーション結果を理解・解析することが可能となります。



▲ ヘリウム液化システム

物理学、化学、電子工学、材料科学、医学、生物学等の液体ヘリウムを利用する幅広い分野の研究を推進するため、平成27年度にヘリウム液化システムを更新し、安定した液体ヘリウムの供給体制を整備しました。

■ 寄附金債務

寄附金債務とは、次年度へ繰り越して使用する寄附金の残高です。

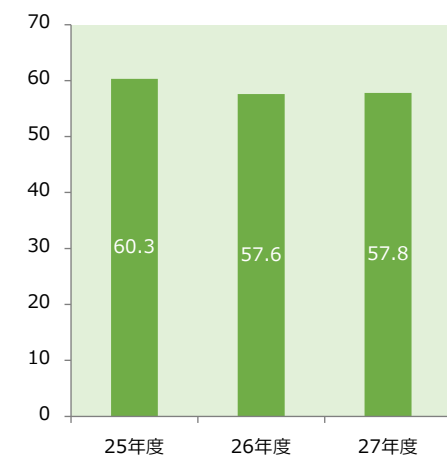
寄附金は、受け入れたときに寄附金債務としていったん負債計上し、経費の使用に応じて収益へ振り替えます。平成27年度には、寄附金を使用して、庭球部部室新営工事などを行いました。

平成27年度の寄附金債務の残高は57.8億円で、平成26年度と比べると約0.2億円の増加となりました。



▲庭球部部室新設

(億円) 寄附金債務の推移



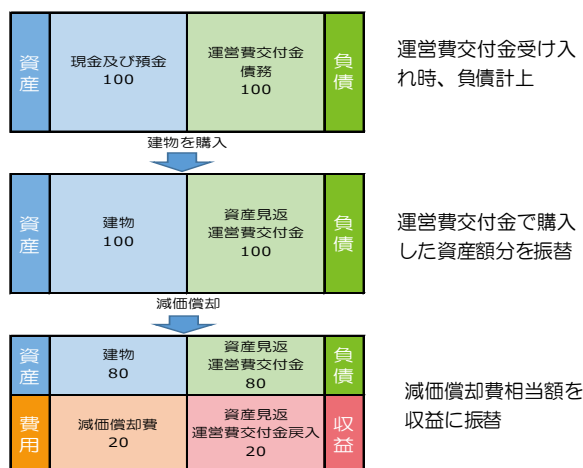
(単位：億円)

負債	
資産見返負債	328.7
寄附金債務	57.8
債務負担金・長期借入金	242.0
未払金	114.7
その他負債	30.9
負債合計	774.1
純資産	
資本金	1,217.7
資本剰余金	37.8
目的積立金	-
積立金	36.8
当期末処分利益	1.1
純資産合計	1,293.5
負債・純資産合計	2,067.6

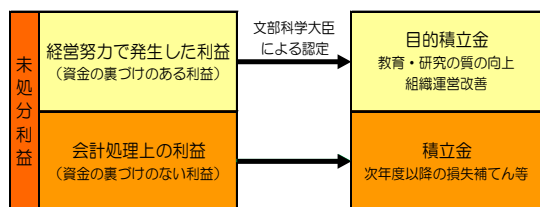
■ 資産見返負債

運営費交付金・授業料・寄附金・補助金等の財源で固定資産を取得した場合、負債に計上される勘定科目です。固定資産の減価償却に伴って資産見返負債は資産見返負債戻入という収益に振替えられ、これらの処理により資産・負債、収益・費用が均衡します。

例) 運営費交付金100を受け入れ、期中で建物100を購入した場合



■ 目的積立金と積立金について



未処分利益のうち、経営努力により生じた利益であると文部科学大臣の認定を受けたものについては、目的積立金として中期計画で定められた使途の範囲内において次年度以降、使用することができます。平成27年度には、附属小学校の困障改修工事の一部に目的積立金をあてました。なお、中期目標期間の最終年度においては、未処分利益を積立金として整理しなければなりません。目的積立金が残っている場合は、積立金に振り替えることとなります。(参考：平成27年度は、第2期中期目標期間の最終年度です。)

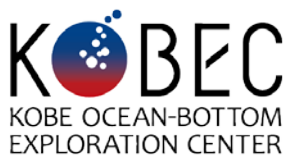


▲小学校困障改修工事

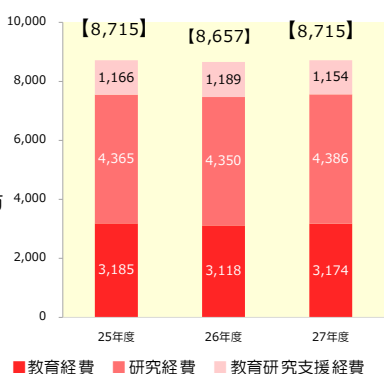
■教育研究経費

第2期中期目標期間の最終年度である平成27年度は、学生が自由に入出入りして多様な人と交流しつつ、学問の垣根を超えた議論を通じて、開かれた協同の学びを実践する場であるラーニング commonsの整備や海底カルテラについての先端総合研究と、世界トップレベルの探査機能をもった練習船「深江丸」による実習で、世界をリードしてゆく海底フロンティア人材の育成を目的とした海洋底探査センターを設置するなど、教育研究環境の維持・向上を図りました。

(※)教育研究支援経費とは、図書館、情報基盤センターなど特定学部等に所属せず大学全体の教育・研究双方を支援する施設で、学生や教員等が利用するものの運営経費です。



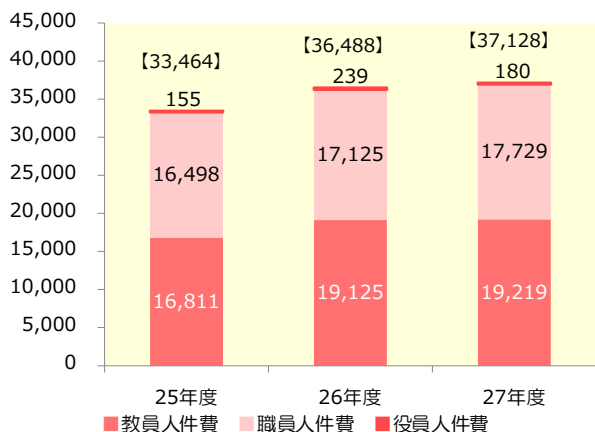
(百万円) 教育研究経費の推移



■人件費

国立大学法人において、人材は重要な資産であり、経常費用の大部分を占めています。平成27年度は、国家公務員の給与改定に準拠したこと及び診療体制強化による看護師・技師等の増加等により約6.4億円の増加となりました。

(百万円) 人件費の推移



(単位：億円)

費用	
教育研究経費	87.1
診療経費	217.6
受託研究費等	37.9
人件費	371.3
一般管理費	19.8
その他	3.7
経常費用合計	737.5
臨時損失	0.7
当期総利益	1.1
計	739.4

■コスト削減プロジェクト

神戸大学では平成22年度から全学的に「神戸大学コスト削減プロジェクト」を推進しています。

平成27年度は重点項目として新たに「コストの見える化」、「業務改善によるコスト削減」に取り組みました。コストの見える化では、約200ページに及び「神戸大学コストデータ資料集」を作成し、物件費・人件費のコストをグラフを用いて可視化しました。その結果、国立大学法人等担当理事連絡会議で事例発表する機会を得るなど、大学内外から反響がありました。

今後さらに活動の幅を広げ、大学運営基盤の強化に向け、コスト削減・業務改善に取り組んで参ります。



▲コスト削減・業務改善アイデア募集

▲コストデータ資料集（一部抜粋）

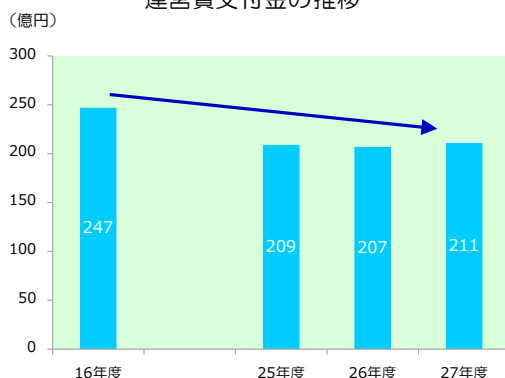
■ 運営費交付金

大学の業務運営の基礎的財源として、国から運営費交付金が措置されています。現下の厳しい国の財政事情から、運営費交付金の交付額は年々減少しており、大学の財政は厳しい状況にあります。これを補うため、外部資金の獲得やコスト削減を強力に展開することで財源確保に努めています。

(※)平成27年度は、低侵襲総合診療棟および中央診療棟等改修に伴う移転費・建物新設設備費が282百万円増加したことに加えて、授業料免除枠の増加に伴う教育改善推進枠が114百万円増加したこと等により運営費交付金の受入額が386百万円増加しました。

平成16年度比
運営費交付金 36億円減少(約15%)

運営費交付金の推移



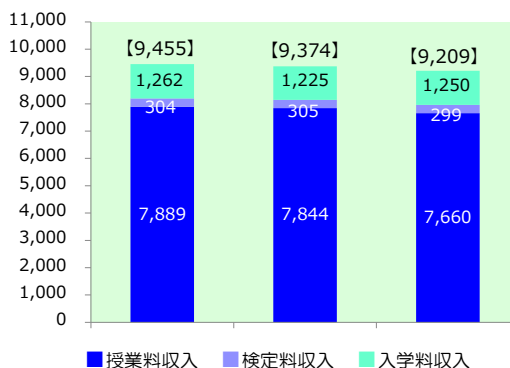
※運営費交付金の推移は各年度の受入額を示しており、収益額とは異なります。

(単位：億円)

収 益	
運営費交付金収益	207.4
学生納付金収益	98.4
附属病院収益	316.9
外部資金収益	77.1
資産見返負債戻入	17.7
その他	15.2
経常収益合計	732.7
臨時利益	6.6
目的積立金取崩額	0.0
計	739.4

■ 学生納付金の状況

学生納付金の推移



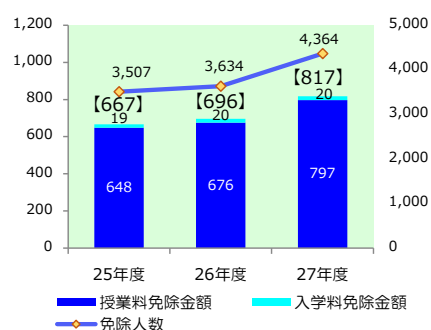
※学生納付金の推移は各年度の受入額を示しており、収益額とは異なります。

平成27年度の授業料・入学科・検定料といった学生納付金の収入額は約92億円でした。学生納付金は近年やや減少の傾向にあり、平成27年度は前年度に比べ約1億7千万円の減少となりました。

□ 入学科・授業料の免除

教育格差を縮小させるため、経済的理由から入学科又は授業料の納付が困難で、かつ、学業優秀であると認められる学生に対して、入学科又は授業料の全額もしくは半額を免除する制度があります。

(百万円) 入学科・授業料免除の推移 (人)



※免除人数には入学科免除者と授業料免除者を含んでおります。

■ 当期総利益 1.1億円

中期目標期間の終了時点においては、期間中に交付された運営費交付金を精算する必要があり、運営費交付金債務が残る場合には、精算のための収益化を行います。

平成27年度は第2期中期目標期間の最終年度であるため、運営費交付金債務(退職手当等5.9億円)を全額収益(臨時利益)に振り替えており、その結果、当期総利益が1.1億円生じました。

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年比較
資産の部				
I 固定資産	192,175	196,666	191,269	△ 5,397
1 有形固定資産	189,569	193,569	188,291	△ 5,278
土地	83,549	83,525	83,525	0
建物	102,613	111,135	113,009	1,873
減価償却累計額	△ 40,243	△ 44,422	△ 48,995	△ 4,572
減損損失累計額	△ 1	△ 1	△ 1	0
構築物	5,596	5,898	6,204	306
減価償却累計額	△ 2,063	△ 2,266	△ 2,492	△ 225
機械装置	703	517	746	229
減価償却累計額	△ 595	△ 406	△ 427	△ 20
工具器具備品	40,425	44,740	44,468	△ 272
減価償却累計額	△ 25,453	△ 29,133	△ 31,316	△ 2,184
図書	21,933	22,037	22,177	140
美術品・收藏品	725	754	754	0
船舶	439	445	447	2
減価償却累計額	△ 402	△ 408	△ 413	△ 5
車両運搬具	65	78	71	△ 6
減価償却累計額	△ 53	△ 50	△ 51	△ 1
建設仮勘定	2,329	1,126	585	△ 542
2 無形固定資産	358	350	339	△ 12
特許権	50	66	73	6
ソフトウェア	168	149	126	△ 24
著作権	51	51	51	-
電話加入権	1	1	1	0
産業財産権仮勘定	87	83	88	5
3 投資その他の資産	2,249	2,747	2,640	△ 107
投資有価証券	2,227	2,732	2,625	△ 108
長期貸付金	5	4	4	△ 0
貸倒引当金	△ 1	△ 0	△ 0	0
長期前払費用	1	1	1	0
長期未収入金	78	66	72	6
徴収不能引当金	△ 78	△ 66	△ 72	△ 6
差入敷金・保証金	17	10	10	0
出資金	0	0	0	-
預託金	0	0	0	△ 0
II 流動資産	22,797	17,376	15,492	△ 1,885
現金及び預金	9,437	7,833	6,338	△ 1,495
未収学生納付金収入	93	119	109	△ 11
徴収不能引当金(未収学生納付金収入)	△ 1	△ 0	△ 0	0
未収附属病院収入	5,502	5,655	5,882	227
徴収不能引当金(未収附属病院収入)	△ 18	△ 10	△ 11	△ 1
その他未収入金	946	678	708	29
未収還付消費税等	20	-	-	-
有価証券	6,100	2,500	1,901	△ 599
たな卸資産	30	26	22	△ 4
医薬品及び診療材料	622	529	487	△ 41
前渡金	27	2	25	23
前払費用	20	24	18	△ 6
未収収益	13	11	8	△ 3
貸付金	1	1	1	△ 0
立替金	5	8	4	△ 4
その他流動資産	0	-	-	-
資産合計	214,972	214,042	206,761	△ 7,282

※金額は端数を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合があります。
 財務諸表の附属明細書等については、神戸大学のホームページをご覧ください。
<http://www.kobe-u.ac.jp/info/public-info/disclosure/law22/zaimu.html>

(単位：百万円)

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年比較
負債の部				
I 固定負債	54,868	59,758	57,890	△ 1,868
資産見返負債	31,870	33,220	32,868	△ 352
資産見返運営費交付金等	7,077	9,099	9,439	341
資産見返施設費	6	5	5	△ 0
資産見返補助金等	2,331	2,077	2,002	△ 75
資産見返寄附金	2,990	3,136	3,163	27
資産見返物品受贈額	18,442	18,309	18,202	△ 106
建設仮勘定見返運営費交付金等	349	235	3	△ 232
建設仮勘定見返施設費	636	269	-	△ 269
建設仮勘定見返寄附金	-	52	4	△ 48
その他の資産見返負債	39	37	48	11
長期寄附金債務	4	3	3	0
国立大学財務・経営センター債務負担金	8,563	7,433	6,321	△ 1,112
長期借入金	11,540	15,513	15,541	27
退職給付引当金	303	343	384	41
資産除却債務	21	22	122	101
長期末払金	2,568	3,224	2,650	△ 574
II 流動負債	27,511	23,222	19,524	△ 3,698
運営費交付金債務	3,499	858	-	△ 858
預り補助金等	-	0	-	△ 0
寄附金債務	6,029	5,760	5,779	19
前受受託研究費等	832	842	1,043	200
前受受託事業費等	56	55	93	38
前受金	300	262	194	△ 68
預り科学研究費補助金等	472	413	430	18
預り金	503	461	502	40
一年以内返済予定国立大学財務・経営センター債務負担金	1,158	1,130	1,112	△ 18
一年以内返済予定長期借入金	475	1,024	1,223	199
未払金	13,290	11,423	8,109	△ 3,314
未払費用	602	623	644	20
未払消費税等	-	65	72	6
賞与引当金	295	305	324	19
その他流動負債	-	0	-	△ 0
負債合計	82,379	82,980	77,413	△ 5,567
純資産の部				
I 資本金	121,770	121,770	121,770	-
政府出資金	121,770	121,770	121,770	-
II 資本剰余金	6,174	5,575	3,782	△ 1,793
資本剰余金	36,297	38,509	39,572	1,063
損益外減価償却累計額(△)	△ 30,118	△ 32,929	△ 35,781	△ 2,852
損益外減損損失累計額(△)	△ 1	△ 1	△ 1	-
損益外利息費用累計額(△)	△ 4	△ 5	△ 9	△ 4
III 利益剰余金(繰越欠損金)	4,649	3,718	3,796	77
前中期目標期間繰越積立金	1,451	1,451	1,451	-
大学運営改善積立金	133	34	-	△ 34
積立金(前期繰越欠損金)	3,057	3,057	2,233	△ 825
当期末処分利益(又は当期末処理損失)	8	△ 825	112	937
(うち当期総利益又は当期総損失)	(8)	(△ 825)	(112)	(937)
純資産合計	132,593	131,063	129,347	△ 1,715
負債・純資産合計	214,972	214,042	206,761	△ 7,282

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年比較
経常費用				
業務費	64,226	69,472	71,395	1,922
教育経費	3,185	3,118	3,174	56
研究経費	4,365	4,350	4,386	37
診療経費	18,476	20,656	21,761	1,106
材料費	10,583	11,509	12,227	719
委託費	1,820	1,842	1,932	90
設備関係費	3,793	5,387	5,841	453
研修費	2	1	0	△ 1
経費	2,278	1,917	1,761	△ 156
教育研究支援経費	1,166	1,189	1,154	△ 35
受託研究費	2,919	2,973	3,167	194
受託事業費	651	699	624	△ 75
役員人件費	155	239	180	△ 58
教員人件費	16,811	19,125	19,219	94
常勤教員給与	15,960	18,264	18,359	95
非常勤教員給与	850	861	859	△ 1
職員人件費	16,498	17,125	17,729	604
常勤職員給与	12,185	12,570	13,097	527
非常勤職員給与	4,313	4,555	4,632	77
一般管理費	1,812	1,950	1,981	31
財務費用	298	370	363	△ 7
支払利息	298	370	363	△ 8
その他財務費用	-	-	1	1
雑損	9	20	11	△ 9
経常費用計	66,345	71,813	73,750	1,938
経常収益				
運営費交付金収益	18,090	20,962	20,737	△ 226
授業料収益	8,319	8,376	8,279	△ 97
入学金収益	1,265	1,271	1,260	△ 11
検定料収益	304	305	299	△ 6
附属病院収益	28,024	29,526	31,692	2,166
受託研究等収益	2,978	2,975	3,180	205
国及び地方公共団体からの受託研究等収益	684	590	152	△ 438
国及び地方公共団体以外からの受託研究等収益	2,295	2,385	3,028	643
受託事業等収益	652	675	613	△ 62
国及び地方公共団体からの受託事業等収益	246	318	368	49
国及び地方公共団体以外からの受託事業等収益	406	357	245	△ 112
補助金等収益	1,528	1,321	1,760	439
施設費収益	229	33	76	43
寄附金収益	1,944	2,271	2,079	△ 192
資産見返負債戻入	1,630	1,765	1,772	7
資産見返運営費交付金等戻入	560	626	702	76
資産見返施設費戻入	0	0	0	△ 0
資産見返補助金等戻入	393	470	446	△ 24
資産見返寄附金戻入	544	535	517	△ 18
資産見返物品受贈額戻入	132	133	106	△ 27
財務収益	24	29	26	△ 3
受取利息	10	13	11	△ 3
有価証券利息	11	15	16	1
その他の財務収益	4	0	-	△ 0
雑益	1,186	1,413	1,497	84
研究関連収入	664	811	755	△ 56
財産貸付料収益	87	108	226	118
宿舍貸付料収益	75	82	82	△ 1
寄宿料収益	96	124	134	10
その他雑益	264	288	301	13
経常収益計	66,174	70,924	73,270	2,346
経常利益（又は経常損失）	△ 171	△ 888	△ 480	408

(単位：百万円)

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年比較
臨時損失	128	79	75	△ 4
固定資産除却損	107	65	32	△ 32
固定資産売却損	12	-	-	-
損害賠償金及び和解金	9	14	42	28
臨時利益	58	107	662	555
運営費交付金収益	-	-	589	589
資産見返運営費交付金等戻入	2	14	2	△ 12
資産見返補助金等戻入	0	0	0	0
資産見返寄附金戻入	29	32	18	△ 14
資産見返物品受贈額戻入	0	0	0	0
施設費収益	4	15	-	△ 15
徴収不能引当金戻入	-	9	-	△ 9
受取保険金	23	37	52	15
当期純利益（当期純損失）	△ 241	△ 859	107	967
目的積立金取崩額	249	35	5	△ 30
当期総利益（当期総損失）	8	△ 825	112	937

(単位：百万円)

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年比較
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	6,862	4,513	6,271	1,759
原材料、商品又はサービスの購入による支出	△ 23,874	△ 25,058	△ 25,440	△ 382
人件費支出	△ 35,137	△ 36,682	△ 38,128	△ 1,446
その他の業務支出	△ 1,765	△ 1,810	△ 1,570	240
運営費交付金収入	20,947	20,720	21,105	386
授業料収入	7,889	7,844	7,660	△ 184
入学金収入	1,262	1,225	1,250	25
検定料収入	304	305	299	△ 6
附属病院収入	27,680	29,335	31,439	2,103
受託研究等収入	2,816	3,147	3,434	287
受託事業等収入	520	602	627	25
補助金等収入	2,802	1,421	2,060	638
寄附金収入	1,910	1,970	2,018	48
その他の業務収入	1,296	1,493	1,448	△ 46
預り科学研究費補助金等の増減額	213	-1	69	70
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 13,621	△ 6,775	△ 3,254	3,521
定期預金等の預入による支出	△ 25,100	△ 30,300	△ 30,450	△ 150
定期預金等の払戻による収入	24,400	31,700	32,750	1,050
有価証券の取得による支出	△ 35,021	△ 28,011	△ 19,600	8,411
有価証券の償還による収入	30,700	31,100	20,300	△ 10,800
有形固定資産の取得による支出	△ 12,272	△ 13,182	△ 7,086	6,096
無形固定資産の取得による支出	△ 151	△ 123	△ 112	11
有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入	104	-	-	-
施設費による収入	3,749	2,004	908	△ 1,096
利息及び配当金の受取額	17	37	36	△ 1
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	6,593	2,059	△ 2,213	△ 4,272
リース債務の返済による支出	△ 572	△ 930	△ 940	△ 10
国立大学財務・経営センター債務負担金の返済による支出	△ 1,341	△ 1,158	△ 1,130	28
長期借入金の返済による支出	△ 232	△ 475	△ 1,024	△ 549
長期借入金の借入による収入	8,738	4,998	1,251	△ 3,747
利息の支払額	△ 303	△ 376	△ 370	7
IV 資金増加額（又は減少額）	△ 469	△ 204	805	1,008
V 資金期首残高	2,305	1,837	1,633	△ 204
VI 資金期末残高	1,837	1,633	2,438	805

(単位：百万円)

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年比較
I 業務費用	21,704	25,084	24,927	△ 158
(1) 損益計算書上の費用	66,473	71,891	73,825	1,934
業務費	64,226	69,472	71,395	1,922
一般管理費	1,812	1,950	1,981	31
財務費用	298	370	363	△ 7
雑損	9	20	11	△ 9
臨時損失	128	79	75	△ 4
(2) (控除) 自己収入等	△ 44,769	△ 46,807	△ 48,898	△ 2,091
授業料収益	△ 8,319	△ 8,376	△ 8,279	97
入学金収益	△ 1,265	△ 1,271	△ 1,260	11
検定料収益	△ 304	△ 305	△ 299	6
附属病院収益	△ 28,024	△ 29,526	△ 31,692	△ 2,166
受託研究等収益	△ 2,978	△ 2,975	△ 3,180	△ 205
受託事業等収益	△ 652	△ 675	△ 613	62
寄附金収益	△ 1,944	△ 2,271	△ 2,079	192
資産見返運営費交付金等戻入	△ 141	△ 150	△ 139	11
資産見返寄附金戻入	△ 544	△ 535	△ 517	18
財務収益	△ 24	△ 29	△ 26	3
財産貸付料収益	△ 87	△ 108	△ 226	△ 118
宿舍貸付料収益	△ 75	△ 82	△ 82	1
寄宿料収益	△ 96	△ 124	△ 134	△ 10
その他の雑益	△ 264	△ 288	△ 301	△ 13
臨時利益	△ 52	△ 90	△ 71	19
II 損益外減価償却等相当額	2,786	2,866	2,917	51
III 損益外減損損失相当額	-	-	-	-
IV 損益外利息費用相当額	2	0	4	4
V 損益外除売却差額相当額	△ 19	1	1	△ 1
VI 引当外賞与増加見積額	132	75	△ 26	△ 101
VII 引当外退職給付増加見積額	△ 776	△ 1,396	343	1,739
VIII 機会費用	885	545	81	△ 463
国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用	60	48	81	33
政府出資の機会費用	804	497	-	△ 497
無利子又は通常よりも有利な条件による融資取引の機会費用	20	-	-	-
IX 国立大学法人等業務実施コスト	24,713	27,176	28,248	1,071

※国立大学法人等の業務運営に関して最終的に国民（納税者）が負担するコストを示したものです。国民の皆様が国立大学法人等の業務を評価、判断しやすくするために作成しています。

【平成27年度】

(単位：百万円)

区分	予算額	決算額	差額
収入			
運営費交付金	20,964	21,547	582
施設整備費補助金	833	830	△ 2
補助金等収入	2,273	2,131	△ 142
国立大学財務・経営センター施設費交付金	78	78	-
自己収入	41,277	41,420	143
授業料、入学料及び検定料収入	9,521	9,209	△ 312
附属病院収入	31,222	31,439	216
雑収入	533	773	239
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	6,342	8,619	2,277
引当金取崩	-	344	344
長期借入金収入	1,251	1,251	-
貸付回収金	3	2	△ 1
目的積立金取崩	30	34	4
計	73,051	76,256	3,205
支出			
業務費	59,865	60,335	470
教育研究経費	29,457	29,713	256
診療経費	30,408	30,622	214
施設整備費	2,161	2,159	△ 2
補助金等	2,273	2,131	△ 142
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	6,344	6,607	264
貸付金	2	2	0
長期借入金償還金	2,406	2,404	△ 2
計	73,051	73,639	588
収入－支出	-	2,618	2,618

※決算報告書は、予算の執行状況を明らかにするために作成が義務付けられている書類です。基本的には現金主義のもと作成されるため、発生主義のもと作成される損益計算書とは数値が一致しません。

31. 学内施設等

附属図書館

(平成27年度蔵書数 : 3,796,765冊)

(平成27年度貸出冊数 : 296,095冊)

(平成27年度入館者数 : 941,668人)

学内4つのキャンパスに9つの館室を配置し教育研究支援を展開している。地域・社会との連携協力の一環として、平成16年度より毎年資料展を実施。平成27年度は資料展「村上家文書の世界～近世×神戸×農村～」を開催。



海事博物館

(平成27年度来館者数 : 2,660人)

海事に関する資料を幅広く収集展示して教育研究の資に供し、あわせて海事の啓発に寄与することを目的とする施設で、和船模型と和船の部分実物や航路図、近代から現代の船舶模型や近代の航海用具、進水式絵葉書、寄贈コレクションや書籍など約3万点を収蔵する。毎週、月・水・金の午後15時～17時30分まで開館。

附属図書館大学文書史料室

(平成27年度来場者数 : 3,515人)

(常設展のみ)

特定歴史公文書等その他本学の歴史に係る資料を保存するとともに、一般の利用に供することを目的とする施設。

神戸大学の110年を超える伝統ある歴史を、貴重な歴史資料や写真等で振り返ることができる展示を実施。

常設の展示会だけでなく、年1回の特別展や東京等での巡回展も開催。



山口誓子記念館

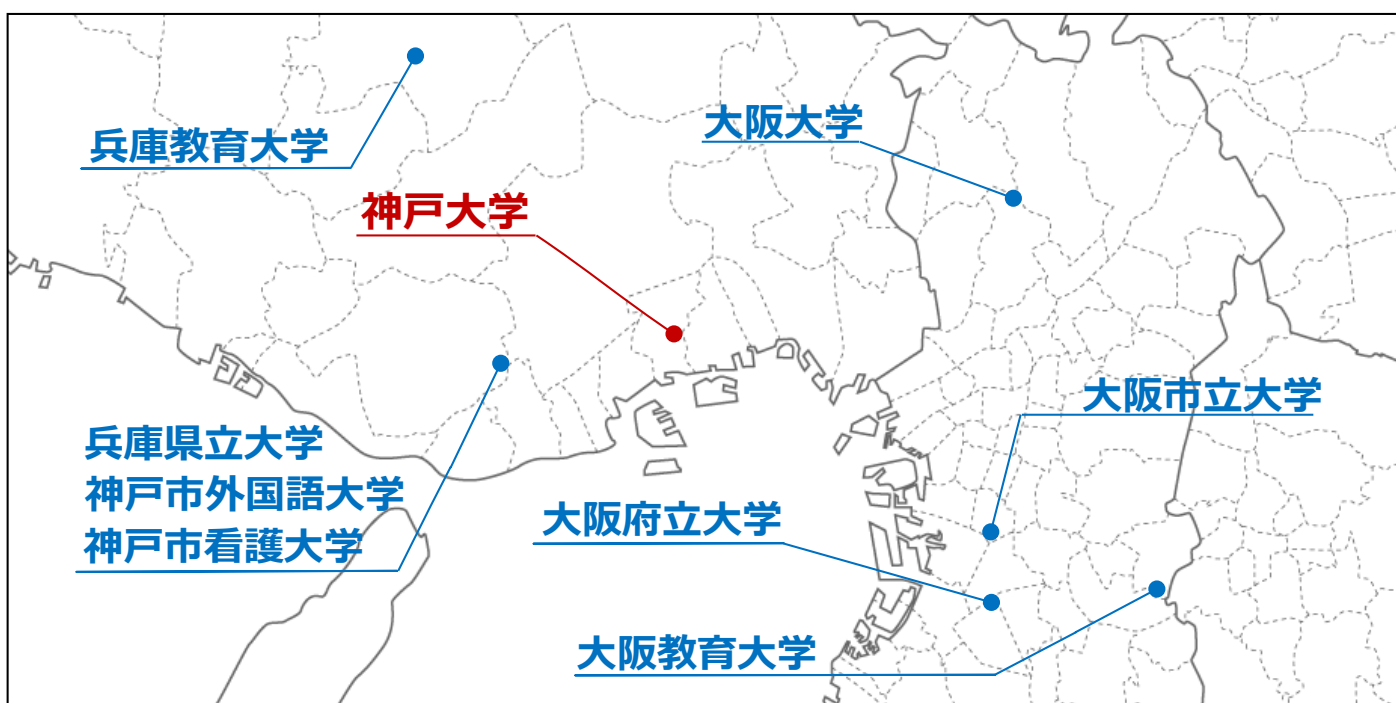
(平成27年度利用者数 : 604人)

近代俳句に大きな足跡を残した山口誓子氏の居宅の母屋を、ほぼ忠実に復元した施設。俳句俳諧文学を中心とする国文学研究の振興や海外との学术交流等に広く寄与することを目的とし、句会や茶会などにも利用できる。

近隣国公立大学のデータ・地図

大学名	神戸大学	大阪大学	大阪府立大学	大阪市立大学	兵庫県立大学
学部	<ul style="list-style-type: none"> 文学部 国際文化学部 発達科学部 法学部 経済学部 経営学部 理学部 医学部 工学部 農学部 海事科学部 	<ul style="list-style-type: none"> 文学部 人間科学部 外国語学部 法学部 経済学部 理学部 医学部 歯学部 薬学部 工学部 基礎工学部 	<ul style="list-style-type: none"> 現代システム科学域 工学域 生命環境科学域 地域保健学域 	<ul style="list-style-type: none"> 商学部 経済学部 法学部 文学部 理学部 工学部 医学部 生活科学部 	<ul style="list-style-type: none"> 経済学部 経営学部 工学部 理学部 環境人間学部 看護学部
大学院	<ul style="list-style-type: none"> 人文学研究科 国際文化学研究科 人間発達環境学研究科 法学研究科 (・法科大学院) 経済学研究科 経営学研究科 (・経営専門職大学院) 理学研究科 医学研究科 保健学研究科 工学研究科 システム情報学研究科 農学研究科 海事科学研究科 国際協力研究科 科学技術イノベーション研究科 	<ul style="list-style-type: none"> 文学研究科 人間科学研究科 法学研究科 経済学研究科 理学研究科 医学系研究科 歯学研究科 薬学研究科 工学研究科 基礎工学研究科 言語文化研究科 国際公共政策研究科 情報科学研究科 生命機能研究科 高等司法研究科 (法科大学院) <p>大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科</p>	<ul style="list-style-type: none"> 工学研究科 生命環境科学研究科 理学系研究科 経済学研究科 人間社会システム科学研究科 看護学研究科 総合リハビリテーション学研究科 	<ul style="list-style-type: none"> 経営学研究科 経済学研究科 法学研究科 (・法科大学院) 文学研究科 理学研究科 工学研究科 医学研究科 看護学研究科 生活科学研究科 創造都市研究科 	<ul style="list-style-type: none"> 経済学研究科 経営学研究科 工学研究科 物質理学研究科 生命理学研究科 環境人間学研究科 看護学研究科 応用情報科学研究科 シミュレーション学研究科 地域資源マネジメント研究科 会計研究科 (専門職) 経営研究科 (専門職) 緑環境景観マネジメント研究科 (専門職)
附属学校	<ul style="list-style-type: none"> 附属幼稚園 附属小学校 附属中等教育学校 附属特別支援学校 				<ul style="list-style-type: none"> 附属中学校 附属高等学校

出典：各大学ホームページ



※図中の丸は本部所在地を示す。



神戸大学企画部企画課

平成28年9月作成

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

TEL (078) 803-5031